

大学院有機材料システム研究科学生便覧

令和七年度入学者用

博士前期課程

博士後期課程

博士課程5年一貫教育プログラム

山形大学大学院有機材料システム研究科

目 次

山形大学大学院有機材料システム研究科ポリシー	1
有機材料システム研究科の目的	4

I 博士前期課程

1. 履修方法	6
2. 修士学位論文審査の手引	20
3. 教育目標とカリキュラム	27
4. 大学院共通開講科目	46

II 博士後期課程

1. 履修方法	55
2. 博士学位論文審査の手引	72
3. カリキュラム	89

III 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」

110

IV 学生生活案内

121

V 諸 規 則 等

130

山形大学大学院有機材料システム研究科ポリシー

【博士前期課程】

○教育目標

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、有機材料システム研究科では、有機材料の基礎から応用に至る知識の修得のみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な有機材料システム分野を発展させ、社会実装につなげるべく、高度な有機材料に関わる専門知識と周辺分野に関わる幅広い知識を兼ね備え、新たな付加価値を創成できるグローバル人材の養成を目標としています。

○ディプロマ・ポリシー

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、有機材料システム研究科では、地域創生・次世代形成・多文化共生に資する以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。

1. 豊かな人間力

- (1) 研究者・技術者としての高い倫理観を持ち、他者や社会との関わりを尊重しつつ、多様な価値観を理解し、自己研鑽に取り組む力を身に付けている。
- (2) 常に変化する国際情勢の中で、社会問題を発見するとともに、それらの解決法を提案でき、社会実装と地域創生に資する行動力と実践力を身に付けている。

2. 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野

- (1) 有機材料システムに関する幅広く深い知識と技能に加え、俯瞰的・複眼的視座を持つことで、異分野の学問に関する知識を身に付け、さらにそれらを活用することで、新たな付加価値を持つ材料やシステムを創成し、持続可能な次世代社会の構築をけん引するためのリーダーシップを発揮できる。
- (2) 論理的思考力、考え抜く力、記述力、プレゼンテーション力、及び建設的な批判精神を持ち、課題発見・解決のため、それらの能力を機動的に活用できる。

3. 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力

- (1) グローバルな視野に基づいて情報を収集し、多文化が共生する社会の創成に貢献する態度と能力を身につけている。
- (2) 有機材料における世界最先端の研究拠点を軸足とし、国際的な人的もしくは組織的ネットワークを活用することで、国際的に通用する教養と実践力を身に付けている。

○カリキュラム・ポリシー

山形大学大学院の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)のもと、有機材料システム研究科では、修了認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能・能力の養成を目的に、以下の方針に従って教育課程を編成・実施します。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基礎教育科目及び基礎専門科目と、有機材料システム専攻領域の基礎から先端分野にわたる専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。

- (2) 論理的思考力、考え抜く力、記述力、プレゼンテーション力、それらを活用できる能力に加え、国際的に通用する教養と実践力を養成するためグローバル実践科目、演習科目及び実験科目を設ける。

2. 教育方法

- (1) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- (2) グローバル実践科目、演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、専門的な知識や技能を実践的に体得させる。

3. 教育評価

- (1) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- (2) 博士前期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

○アドミッション・ポリシー

有機材料システム研究科は、有機材料システム分野における学生の探求心に応え、能力を啓発し、自立さらには新分野を開拓できる人材を育成する理念のもと、基礎知識を展開して高度な専門課題にも問題解決能力を有する技術者・研究者・教育者の養成、さらに、人として高い倫理観を持った技術者・研究者・教育者の養成を目標としています。有機材料システム研究科では、有機材料の基礎から応用に至る知識を単に修得するのみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な有機材料システム分野を教育・研究の対象とします。

また、有機材料システム研究科の求める学生像は以下のとおりです。

◆求める学生像

博士前期課程では、以下を持つ人材を口頭試問及び面接により選抜します。

- 有機材料分野に関する知識を生かし、論理的な思考のもと、自然科学の探究や研究開発に積極的に取り組む人
- 有機材料システム分野に関する知識や技術を通して広く社会に貢献したい人
- 社会の中での協調性を保ちながら、自ら考えて決断、実行できる人、他人への思いやりの心と高い倫理観を持つ人

【博士後期課程】

○教育目標

山形大学大学院の教育目標を踏まえ、有機材料システム研究科では、有機材料の基礎から応用に至る知識の修得のみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な有機材料システム分野を発展させるべく、高度な有機材料に関わる専門知識と周辺分野に関わる幅広い知識を兼ね備え、グローバルな感覚を持った人材の養成を目標としています。

○ディプロマ・ポリシー

山形大学大学院の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、有機材料システム研究科では、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「博士」の学位を授与します。

1. 高度な専門職従事者としての知識と技能

- (1) 有機材料システム分野における研究能力と高度な専門性に支えられた論理的な思考力及び記述力を備えている。
- (2) 博士後期課程ではさらに、有機材料システム分野における豊かな学識を有しており、研究

- 者として自立できる能力を身に付けている。
- (3) 世界に通用する高度に専門的な研究・教育に従事するために必要な研究能力を有している。

2. 課題解決能力・新領域の開拓能力

- (1) 高いコミュニケーション能力を有し、情報をグローバルに発信できる。
- (2) 博士後期課程ではさらに、国際的視野に立って自ら研究リーダーとして技術・学術の発展を牽引し、社会に貢献できる素養を有している。

○カリキュラム・ポリシー

山形大学大学院の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、有機材料システム研究科では、以下の方針に従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 有機材料システムに関する深い知識が得られるよう、基礎から先端分野に及ぶ専門科目を配置する。
- (2) 博士後期課程ではさらに、有機材料及びその周辺との融合分野に対してさらに幅広い知識を教授する専門科目を配置する。

2. 教育方法

- (1) 有機材料が関わる学際領域や異なる研究領域に関する専門科目も開講するとともに、他研究科や他大学院で履修した科目も単位として認定する。
- (2) 博士後期課程ではさらに、リーダーシップを持ってグローバルな視点から研究開発を推進し、成果の有用性を世界に向けて発信できるような資質を身に付けるためのグローバル・実践科目を必修とする。
- (3) 修了時に到達すべき学習目標を学生が的確に設定し、達成できるように、各科目で習得される知識・能力を明示したシラバスを策定する。

○教育評価

- (1) 到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて厳格に成績を評価する。
- (2) 教育課程を組織的に評価し、常に改善を続ける。
- (3) 学生及び外部からの評価を真摯に受け止め、改善の原動力とする。

○アドミッション・ポリシー

博士前期課程においては、以下の人材を求めます。

1. 有機材料分野に関する基礎学力を有し、さらに深く学ぼうとする意欲のある人
2. 有機材料分野に関する知識を生かし、論理的な思考のもと、自然科学の探究や研究開発に積極的に取り組む人
3. 有機材料システム分野に関する知識や技術を通して広く社会に貢献したい人
4. 社会の中での協調性を保ちながら、自ら考えて決断、実行できる人
5. 他人への思いやりの心と高い倫理観を持つ人

博士後期課程においては、上記に加え、以下の人材を求めます。

1. 専門分野以外に対しても深い関心をもち、広い応用力を有する人
2. グローバルな視野に立ち、世界で活躍する技術者・研究者・教育者を目指す人

有機材料システム研究科の目的

現代社会を支える重要な材料群である有機・高分子材料は、その高性能化や新材料・新機能の開発が盛んに行われており、その成果は便利でより豊かな社会の形成に有用なものとなっている。将来的には、それらの成果を他分野との境界領域において有効利用できるように考慮したり、他分野と融合させて全く新しい利用法を展開させるなど、有機材料を最大限に活用して新たな付加価値を産み出すような俯瞰的な学問領域として、有機材料システムの創成が期待される。本研究科は、有機材料の基礎から応用に至る知識を単に修得するのみならず、それらを核として他分野との連携により拡張される、より広範な有機材料システム分野を発展させるべく、高度な有機材料に関わる専門知識と周辺分野に関わる幅広い知識とを兼ね備え、グローバルな感覚を持った科学者・技術者の養成を目的とする。

博士前期課程（修士）及び博士後期課程（博士）には、次の1専攻を置く。

有機材料システム専攻

博士前期課程は、広い視野に立ち、有機材料システム分野に関わる高度な専門性に支えられた卓越した能力と精深な学識を養い、情報をグローバルに発信できる素養を身に付けることを目的とする。

博士後期課程は、有機材料システム分野における研究者として自立し、世界に通用する高度に専門的な研究・教育に従事するために必要な研究能力と豊かな学識を養って、国際的視野に立って自ら研究リーダーとして技術・学術の発展を牽引し社会に貢献する素養を身に付けることを目的とする。

I 博士前期課程

1. 履修方法

1-1 指導教員

学生には、入学の際、授業科目の履修、学位論文の作成等に対する指導のために、博士前期課程（修士）担当教員の中から主指導教員及び2名の副指導教員（1名は修士論文テーマと異なる研究領域）が定められる。

学生は、主指導教員と相談の上、各年度の初めに「研究計画書」を提出すること。（様式：18，19頁掲載，工学部ホームページからダウンロード可能）

●ダウンロード方法

1. 山形大学のホームページから「学部・研究科・基盤共通教育」の学部「工学部」をクリックし、「工学部ホームページへ」をクリック
2. 「在学生の方」をクリック
3. 「大学院の授業、学位審査」の「研究計画書（博士前期課程）」をクリック

1. Course Completion Method

1-1 Faculty Advisors

At the time of admission, students will be assigned one primary advisor and two assistant advisors (one from a different field of research than the Master's thesis) from among the faculty members in charge of the Master's Course (Master's Degree). These advisors will guide them in taking courses and preparing their thesis.

Students must submit a "Research Plan" at the beginning of each academic year after consulting with their advisors.

(Form: 18 and 19; can be downloaded from the Faculty of Engineering website)

● Method of Download

1. From the Yamagata University homepage, navigate to "Faculty of Engineering" under "Faculties and Schools" and click on the "Faculty of Engineering Website"
2. Click on "Current Students"
3. Click on "Research Plan (Master's Program)" under "Graduate Course Classes, Degree Examination"

1-2 授業科目

授業科目には、大学院基盤教育科目、大学院基礎専門科目、高度専門科目Ⅰ、高度専門科目Ⅱ、高度専門科目Ⅲがある。

(1) 大学院基盤教育科目

俯瞰的視野の素養を目指した学生主体型授業を通じて地域社会の問題解決力、新たな価値創造力、柔軟な異文化理解力を養成する。

(2) 大学院基礎専門科目

専門分野の範囲を越えた学際的な領域の知識, 若しくは専門分野以外の専門知識を学修することで「知の総合的な推進力」を育成する。文理横断型の教育により, 異分野を含む専門性を修得する。

(3) 高度専門科目 I

多くの学生が学ぶべき普遍性の高い知識を身に付ける科目である。

(4) 高度専門科目 II

最先端の内容を学び, 専門知識を深化するための科目である。

(5) 高度専門科目 III

修士論文研究・演習科目・インターンシップ等を通して真理の探究やイノベーションの創出を実践する。

授業科目及び単位数は, 所定の表に示す。

1-2 Class Subjects

The subjects include Graduate School Foundational Education Subjects, Graduate School Foundational Specialization Subjects, Advanced Specialization Subjects I, Advanced Specialization Subjects II, and Advanced Specialization Subjects III.

(1) Graduate School Foundational Education Subject

Through student-centered classes designed to develop a panoramic view of the world, students will learn problem-solving in local communities, explore the creation of new values, and acquire flexible cross-cultural understanding.

(2) Graduate School Foundational Specialization Subjects

Students will cultivate their “comprehensive driving force of knowledge” by studying interdisciplinary fields beyond their scope of specialization or by acquiring specialized knowledge outside their specialized fields. They will gain expertise in different fields through interdisciplinary education.

(3) Advanced Specialization Subjects I

Subjects covering highly universal knowledge that many students should study.

(4) Advanced Specialization Subjects II

Subjects covering cutting-edge content and deep professional knowledge.

(5) Advanced Specialization Subjects III

Students will explore the truth and drive innovation by engaging in research for their Master's thesis, seminar subjects, internships, etc.

The class subjects and number of credits for each major are in the table below.

1-3 履修申告

- (1) 学生は, 学期始めに履修科目について主指導教員と相談の上, 履修しようとする授業科目を決定し, 履修登録の手続きを行うこと。
- (2) 「有機材料システム特別演習 A」, 「有機材料システム特別実験 A」は, 4 学期のみ履修登録を行うこと。

- (3) 理工学研究科（工学系）の講義科目を履修する場合は、授業担当教員の許可及び主指導教員の承認を得た上で履修登録すること。
- (4) 履修登録をした授業科目以外の科目は履修できないことがあるので、十分注意すること。

1-3 Course Registration

- (1) Students will consult with their primary advisor regarding course subjects at the beginning of the semester to determine the subjects they will take and carry out the registration procedures.
- (2) Registration for Special Exercises in Organic Materials Science A and Special Experiments in Organic Materials Science A can be done only in the fourth semester.
- (3) Students wishing to register for a course offered by the Graduate School of Science and Engineering must obtain permission from the teacher in charge of the subject and the approval of his/her primary advisor.
- (4) Please note that students may not be able to take courses other than those for which they have registered.

1-4 成績の審査

- (1) 成績の審査は、試験、研究報告、平常の成績等によって行う。
- (2) 各授業科目の成績は、100点を満点として次の評価点、成績区分及び評価基準をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

評価点	成績区分	評価基準
100～90点	S	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている。
89～80点	A	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている。
79～70点	B	到達目標を達成している。
69～60点	C	到達目標を最低限到達している。
59～0点	F	到達目標を達成していない。

1-4 Evaluation of Grades

- (1) Grades will be evaluated on the basis of examinations, research reports, regular grades, etc.
- (2) Grades for each class subject are evaluated out of 100 points according to the following grade classification and evaluation standard, with S, A, B, and C as passing grades and F as the failing grade.

Evaluation Points	Grade Classification	Evaluation Standard
100-90 points	S	Has achieved the attainment goals and earned outstanding grades.
89-80 points	A	Has achieved the attainment goals and earned excellent grades.
79-70 points	B	Has achieved the attainment goals.
69-60 points	C	The minimum attainment goals have been reached.
59-0 points	F	The attainment goals have not been achieved.

1-5 単位の基準

授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義・演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習については、30時間の授業をもって1単位とする。

上記の基準によって科目を履修し、成績審査に合格した科目に対して単位を与える。

1-5 Criteria for Credits

A one-credit subject, on average, requires 45 hours of study based on the content, and the number of credits for class subjects is calculated on the basis of the following standards, taking into account factors such as educational effects, required study outside class hours, and so on, according to the method used.

- (1) For lectures and exercises, 1 credit will be assigned for 15 hours of class time.
- (2) For experiments and practical training, 1 credit will be assigned for 30 hours of class time.

Completing subjects on the basis of the above criteria and passing the grade evaluation will result in the awarding of credits.

1-6 履修基準

- (1) 修了に必要な最低修得単位数は、30単位である。
- (2) 高度専門科目Ⅰ、Ⅱの選択講義科目には、自専攻講義科目、理工学研究科（工学系）の講義科目のほか、他の大学院で履修した科目を充てることができる。

博士前期課程履修基準表

科目区分		備 考	単 位 数
大学院基盤教育科目		必修	2単位
大学院基礎専門科目		選択必修	2単位以上〔1〕
高度専門科目	Ⅰ	選択 自専攻の開講する高度専門科目Ⅰ及び自専攻の開講する高度専門科目Ⅱからそれぞれ2単位以上を修得。	計26単位以上〔2〕
	Ⅱ	高度専門科目Ⅱ及びⅢに分類されるグローバル・実践科目から4単位以上を修得。4単位を超えてグローバル・実践科目を修得した場合には、6単位までを修了に必要な単位として算入する。	
	Ⅲ	有機材料システム特別演習A（4単位）及び有機材料システム特別実験A（6単位）は必修	
		計	30単位以上

〔1〕 2単位を超えて修得した場合は、超過分を最大2単位までグローバル・実践科目として高度専門科目Ⅱの自専攻科目に算入することができる。また、その超過分を含め4単位まで修了に必要な単位として算入することができる。

〔2〕 自専攻の開講する高度専門科目から18単位以上を履修すること（有機材料システム特別演習A、有機材料システム特別実験Aを含む）

1-6 Criteria for Course Completion

- (1) Students need a minimum of 30 credits to complete the course.
- (2) Advanced Specialization Subjects I and II may include subjects from the student's major, subjects offered by the Graduate School of Science and Engineering, or those offered by other Graduate Schools.

Master's Program Course Completion Criteria Table

Subject Category		Remarks	Number of Credits
Graduate School Foundational Education Subjects		Required	2 credits
Graduate School Foundational Specialization Subjects		Required Elective	At least 2 credits [1]
Advanced Specialization Subjects	I	Elective At least 2 credits each from Advanced Specialization Subjects I and Advanced Specialization Subjects II, which are offered under each student's major.	At least 26 credits [2]
	II	At least 4 credits from Global & Practical Subjects categorized as Advanced Specialization Subjects II and III. If more than 4 credits have been earned in Global & Practical subjects, a maximum of 6 credits can be counted toward the credits required for completion.	
	III	Special Exercises in Organic Materials Science A (4 credits) and Special Experiments in Organic Materials Science A (6 credits) are required.	
		Total	At least 30 credits

- [1] If more than 2 credits have been acquired, up to a maximum of 2 credits from the excess may count toward credits earned from Global & Practical subjects of the Advanced Specialization Subjects of the student's major. If more than 2 credits have been earned, up to 4 credits may be included in the credits counted toward completion.
- [2] Students must earn at least 18 credits from the Advanced Specialization Subjects offered in their major (including Special Exercises in Organic Materials Science A and Special Experiments in Organic Materials Science A)

1-7 他大学院履修科目

- (1) 山形大学大学院規則第14条（他の大学院における履修等）の定める協定に基づく他の大学院（外国の大学院を含む）において履修した授業科目について修得した単位は、他大学院履修科目として、本研究科における授業科目の履修により修得した単位として認定することができる。
- (2) 上記(1)で認定できる単位は、15単位までとする。

1-7 Course Subjects from Other Graduate Schools

- (1) In accordance with the arrangement stipulated in Article 14 of the Yamagata University Graduate School Regulations, credits earned for subjects taken at other graduate schools (including foreign graduate schools) can be recognized as credits earned by taking courses at this postgraduate course.
- (2) A maximum of 15 credits can be earned as above (1).

1-8 成績評価に対する異議申し立て

成績評価に関して、疑義が生じた場合の問い合わせは、成績が発表された日から原則3営業日以内に、「成績評価照会票」（様式は山形大学ホームページの「学生生活」タブ内の「授業について」の該当リンクからダウンロードできます。）に必要事項を記入の上、工学部学生サポートセンター教育支援担当に提出してください。

なお、詳細については、窓口にご相談ください。

1-8 Appeal of the Grade Evaluation

Questions regarding a student's grade may be raised by filling out the "Grade Evaluation Inquiry Form" (the form can be downloaded from the link in the About Classes section of the Student Life tab on the Yamagata University website) and submitting it to the Academic Support Section, Student Support Center of the Faculty of Engineering, within three working days from the announcement of grades.

For further details, please contact the help desk.

1－9 修士学位論文の審査及び最終試験

履修基準の授業科目を修得する見込みがつき、研究指導を受けた学生は、修士論文を作成し、審査申請することができる。

論文提出者は、学位論文公聴会において論文の発表を行う。

最終試験は、学位論文の審査が終了した後に学位論文を中心として、これに関連のある科目について、口頭又は筆答により行う。

なお、学位論文審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験は行わない。

1-9 Master's Thesis Review and Final Examination

Students expected to complete the required coursework according to the requisite criteria who have received research guidance can prepare their Master's thesis and apply for review.

Students submitting their thesis will present their thesis at the defense.

After the thesis review has been completed, the final examination shall be conducted on the dissertation and related matters either orally or in writing.

If the thesis fails the review, the final examination shall not be conducted.

1－10 最終試験審査基準

口述審査において研究内容を明確に説明し、質問に的確に答えられること。

1-10 Final Examination Review Criteria

In the oral examination, students should be able to clearly explain their research and accurately answer questions.

1－11 修了要件

- (1) 博士前期課程の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、履修基準表に示す単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することである。
- (2) 在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者は、1年以上在学すれば足りるものとする。

1-11 Requirements for Completion

- (1) The requirements for completing the Master's Program are enrollment in the graduate school for at least two years; acquiring the required credits as shown in the Criteria for Course Completion Table; and receiving the necessary research guidance, passing the thesis review, and successfully completing the final examination.

- (2) For students who have attained particularly excellent research achievements, a period of at least one year of enrollment may be sufficient.

1-12 学位の授与

有機材料システム研究科博士前期課程を修了した者には、修士（工学）の学位が授与される（後掲「山形大学学位規程」別表参照）。

1-12 Conferral of Degrees

Students who have completed the Master's Program with Graduate School of Organic Materials Science will be awarded a Master of Engineering degree.

(See the attached table of "Yamagata University Degree Regulations")

1-13 社会人受入れのための教育方法の特例措置について

本研究科では、社会人受入れに当たり、教育上特に必要と認められる場合には、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し、次の方法で履修できるものとする。

- (1) 通常の時間帯（8時50分から16時10分）以外に、特例措置の時間帯（16時20分から21時10分）を設定する。
- (2) 土曜・日曜日も授業及び研究指導を受けることができるものとする。
- (3) 必要に応じて夏季・冬季休業期間中も履修できるものとする。
- (4) 特例の時間帯による履修を希望する者は、当該年度当初に、主指導教員の承認を得た上、適用授業科目名、時限、時期等を出願し、授業担当教員の許可を得るものとする。

なお、上記のほか、必要に応じて、パソコンやタブレット、モニターなどのICTツールを使った遠隔授業及び研究指導を受けることができる。希望する場合は、担当教員に相談すること。

1-13 Special Measures for Educational Methods for Accepting Working Adults

In this Graduate School, when the acceptance of working adults is deemed particularly necessary from the educational perspective, special measures for educational methods, as provided in Article 14 of the Standards for Establishment of Graduate Schools, shall be applied, allowing students to take courses in the following ways:

- (1) In addition to the regular hours (8:50–16:10), a special period (16:20–21:10) shall be set.
- (2) Classes and research guidance shall also be available on Saturdays and Sundays.
- (3) Students may take classes during the summer and winter vacations if necessary.
- (4) Students wishing to enroll in classes during the special period will need approval from the primary advisor at the beginning of the academic year. They must then apply for the applicable course subject name, time slot, period, etc., and obtain permission from the teacher in charge of the class.

In addition to the above, remote classes and research guidance shall be conducted using ICT tools such as PCs, tablets, and monitors, as required. Students wishing to utilize this are requested to consult with the teacher in charge.

1－14 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」について

山形大学大学院規則第13条の2の規定に基づく博士課程5年一貫教育プログラムである「フレックス大学院」プログラムに在籍している学生の履修については、以下のとおりとする。

- (1) 履修方法は、本研究科の学生便覧に定める内容に加え、別に定める博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」履修要項（※1）に記載する内容に従うものとする。ただし、博士前期課程修了、及び修士の学位授与、進学・進級については以下の(2)～(4)に従うものとする。
- (2) 本プログラムに在籍している学生は、主専攻における博士前期課程履修基準を満たすとともに次の①又は②の合格をもって、博士前期課程の修了要件を満たすものとする。
 - ①特定審査（※2）
 - ②修士論文の審査及び最終試験
- (3) 博士前期課程の修了要件を満たした者には、修士の学位が授与される（後掲「山形大学学位規程」別表参照）。
- (4) 本プログラムで履修要件とする授業科目の修得を含むプログラム進級要件を満たした上で、引き続き博士後期課程に進学する学生は、本プログラムの3年次へ進級するものとする。

※1 「フレックス大学院」履修要項は、ホームページ (<https://iflex.yz.yamagata-u.ac.jp/>) からダウンロード可能

※2 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養に関する試験と博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該博士前期課程において修得すべきものについての審査（後掲「山形大学大学院規則」参照）

1-14 "Flex Graduate School," the Five-Year Integrated Doctoral Program

The Flex Graduate School is a five-year integrated doctoral program based on the provisions of Article 13-2 of the Yamagata University Graduate School Regulations and is implemented as follows:

(1) In addition to the details provided in the Graduate School Student Handbook, the method of enrollment for this five-year integrated doctoral course is in accordance with the specifics given in the “Flex Graduate School” Course Guidelines (*) as separately stipulated. However, completion of the Master's Program, awarding of the Master's Degree, and advancement to the next stage shall be carried out in accordance with (2) to (4) below.

(2) Students enrolled in this program shall meet the requirements for the Master's Program Criteria for Course Completion by passing (1) or (2) below and satisfying the criteria for the Master's Program of their main major.

(1) Specific examination (*2)

(2) Thesis review and final examination

(3) Students who have met the requirements for completing the Master's Program shall be awarded a Master's Degree (See attached table “Yamagata University Degree Regulations”).

(4) Students who meet the program advancement requirements, including completing the course subjects required for enrollment in this program, and wish to continue to the Doctoral Program shall advance to the third year of this program.

*1 The Flex Graduate School requirements can be downloaded from the website
(<https://iflex.yz.yamagata-u.ac.jp/>)

*2 Examination of advanced specialized knowledge and abilities in the major, as well as basic knowledge of the field related to the major and the competencies required to independently carry out research for the doctoral thesis, which must be acquired in the Master's Course (see attached, “Yamagata University Graduate School Regulations”)

【学位審査に係る相談・通報窓口について】

山形大学では、本学が授与する学位の審査における透明性及び客観性を確保するため「学位審査に係る相談・通報窓口」を設置しています。学位の審査や取得に関して疑義が生じた場合は、エンロールメント・マネジメント部教育課にご相談等してください。

電 話：023-628-4841

メールアドレス：yu-kyoiku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

なお、相談された方がそのことを理由に不利益な取り扱いを受けることはありませんので、ご安心ください。

[Consultation and Reporting Desk for Degree Examinations]

Yamagata University has established the "Consultation and Reporting Desk for Degree Examinations" to ensure transparency and objectivity in the evaluation of degrees awarded by the University.

Students with any concerns about the evaluation or acquisition of their degree are requested to consult the Academic Division of the Enrollment Management Department.

Phone: 023-628-4841

email: yu-kyoiku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

Students can rest assured that this consultation will not result in unfavorable treatment.

年度 研究計画書（一年目）

提出年月日： 年 月 日

専攻名			学生番号		
氏名					
研究題目					
研究期間	年 月 日（入学年月日）～		年 月 日（修了予定年月日）		
研究の背景					
目的					
指導教員	主指導教員		副指導教員		
研究実施計画	【一年目】 4月～ 6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～ 9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～ 12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～ 3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【二年目】 4月～ 6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～ 9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～ 12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～ 3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
研究指導計画	研究指導計画：主指導教員が記入				
研究倫理教育 確認欄	科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）を通読しました。 年 月 日 (署名)				

主指導教員

(署名又は記名・押印)

- * 初年次に作成し、主指導教員の承認を得て提出すること。
- * 二年目以降は初年次の研究実績に基づき、二年目の様式に修正・加筆の上、提出すること。
- * 長期履修学生及び過年度生は、在学期間分の研究実施計画を記載すること。

年度 研究計画書(二年目)

専攻名		学生番号	
氏名			
研究題目			
研究期間	年 月 日（入学年月日）～ 年 月 日（修了予定年月日）		
研究の背景			
目的			
指導教員	主指導教員		副指導教員
研究実施計画	【一年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【二年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
研究指導計画	研究指導計画：主指導教員が記入		
研究倫理教育確認欄	科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）を通読しました。 年 月 日 （署名）		

(署名又は記名・押印)

*長期履修学生及び過年度生は、在学期間分の研究実施計画を記載すること。

2. 修士学位論文審査の手引

履修基準の授業科目を修得する見込みがつき、必要な研究指導を受けた学生は、修士学位論文を作成し、所定の手続を経て審査申請することができる。提出された論文は、有機材料システム研究科学位審査細則に従って審査される。学位論文審査の流れは、2-4の図に示すとおりである。

学位論文等が指定された日時までに提出されない場合には受理されないので、時間的余裕をもって提出すること。

2. Master's Degree Thesis Review Guidelines

After completing the required classes for the criteria for course completion and receiving the necessary research guidance, students can prepare their Master's degree thesis and apply for review following the prescribed procedures. The submitted thesis will be reviewed in accordance with the Graduate School of Science and Engineering Degree Review Regulations. The flow for the thesis review is demonstrated in Figure 2-4.

Theses that are not submitted by the specified date and time will not be accepted, so please submit them well in advance.

2-1 論文題目の提出

提出期限（休日の場合には、その前日又は前々日とする。）

- ① 後期提出（3月修了）の場合： 12月10日
- ② 前期提出（9月修了）の場合： 6月10日

2-1 Submission of Thesis Title

Submission Deadline (In case of a holiday, the deadline will be the day before the holiday or a day prior to that.)

- ① Second Semester Submission (completion in March): December 10
- ② First Semester (completion in September): June 10

2-2 修士学位論文等の提出

修士学位論文等は、下記により提出すること。

(1) 提出期限（休日の場合には、その前日又は前々日とする。）

- ① 後期提出（3月修了）の場合： 2月10日（正午）
- ② 前期提出（9月修了）の場合： 8月10日

(2) 提出物

- ① 学位論文審査申請書（所定の様式） 1部
- ② 学位論文 1部
- ③ 論文内容の要旨（所定の様式） 1部

2-2 Submission of Master's Thesis

The submission of the Master's Thesis, etc., should be carried out as follows:

- (1) Submission Deadline (In case of a holiday, the deadline will be the day before the holiday or a day prior to that.)

- ① Second Semester (completion in March): February 10 (Noon)
- ② First Semester (completion in September): August 10

(2) Documents to be Submitted

- | | |
|---|--------|
| ① Application for Review of Academic Thesis (Prescribed Form) | 1 Copy |
| ② Thesis | 1 Copy |
| ③ Thesis Abstract (Prescribed Form) | 1 Copy |

2-3 修士学位論文作成要領

1 学位論文

- (1) 学位論文は、和文又は英文とする。
- (2) 目次をつけページを記入する。ページの位置は、下部中央とする。
- (3) 学位論文の表紙には、論文題目、研究科名、氏名を記載する。また、学位論文が英文の場合には、論文題目の下に（ ）書きで和訳を付記する。なお、論文提出時期に表紙記載例を掲示等で提示するため参考とすること。
- (4) 学位論文は、パソコン、ワープロ等活字で作成することとし、手書きの場合は黒ボールペンを用いて楷書で清書する。英文はすべてパソコン、タイプ、ワープロ等の活字とする。
- (5) 学位論文の形式・頁数は特に指定しないが、図、表、写真も含めて、内容が理解し易いような適切な形式とする。
- (6) 参考文献は、著者（全員）、題名、学術雑誌名（書物名）、出版社、巻、号、頁（始頁－終頁）及び発表年（西暦）を明記すること。
- (7) 学位論文の最終版は、電子データによる提出とする。

2 学位論文内容の要旨

- (1) 用紙は、A4判白色紙を使用し、縦位置で横書きとすること。
- (2) 学位論文内容の要旨は所定の様式を使用し、論文題目、専攻名、氏名を記載すること。
- (3) 博士前期課程の学位論文内容は、和文で1,200字程度とすること。

2-3 Guidelines for the Preparation of the Master's Thesis

1. Thesis

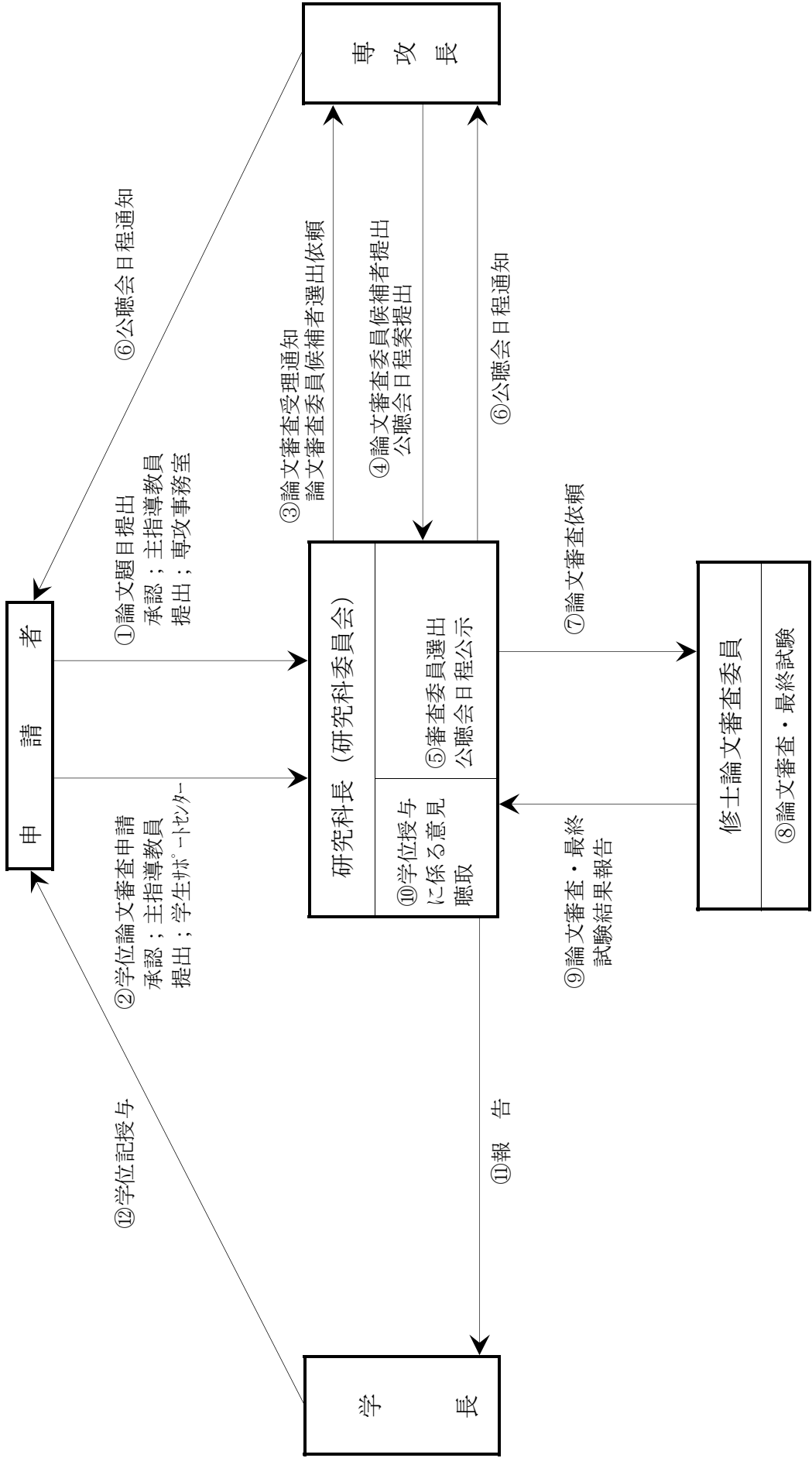
- (1) The thesis should be written in Japanese or English.
- (2) The cover page of the thesis should mention the thesis title, the major, and the applicant's name. If the thesis is in English, the Japanese translation of the title should be provided below it in parentheses. An example cover page will be posted as a notice at the time of thesis submission, so please refer to it.
- (3) The thesis should be written using a computer or a word processor. If it is handwritten, a black ballpoint pen should be used and it should be written in the standard style. If it is in English, it must be typed or written using a word processor.
- (4) There is no specified format for the thesis, but it must be in an appropriate format, including diagrams, tables, and photographs, such that the contents can be easily understood by referring to precedents.
- (5) The bibliography shall mention the books (all), titles, academic journal names (book titles), publishers, volume, page numbers (first-last), and year of publication.

- (6) The final version of the thesis should be submitted in an electronic format.

2 Thesis Abstract

- (1) The abstract must be written horizontally on a vertical A4-sized paper.
- (2) The thesis abstract must be written in the prescribed format and must include the thesis title, major, and applicant's name.
- (3) The master's course abstract should be approximately 1,200 characters in Japanese.

2-4 修士学位論文審査の流れ



3 修士学位論文審査申請に係る提出様式

【論文題目提出書】

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科長 殿

年度入学 博士前期課程

専攻名 有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ 印

論文題目提出書

山形大学大学院有機材料システム研究科学位審査細則第3条第2項の規定により、下記のとおり提出します。

記

論文題目（英文の場合は、その和訳を（ ）を付して併記すること。）

主指導教員承認 氏名・印

【学位論文審査申請書】

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科長 殿

年度入学 博士前期課程

専攻名 有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ ㊞

学位論文審査申請書

山形大学学位規程第8条第1項の規定により，修士（工学）の学位を受けたいので，
下記の書類を添えて申請します。

記

1. 学 位 論 文 1 部

2. 論文内容の要旨 1 部

主指導教員承認 氏名・印

【論文内容要旨】

論 文 内 容 要 旨

年度入学 博士前期課程

専攻名 有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ ㊞

論文題目 _____

(1,200 字程度)

3. 教育目標とカリキュラム

3-1 教育研究の理念

分子創成技術の飛躍的な進展に伴って、有機材料の様々な機能が注目されるようになってきた。有機材料が機能発現の鍵となる、有機 EL、トランジスタ、太陽電池等に代表される電子デバイスを取り扱う有機エレクトロニクス・有機デバイスの分野の進展も著しく、印刷技術を用いた革新的なプロセスの導入やフレキシブルデバイスの開発など、有機・高分子材料の特徴を活かした研究・技術開発が進められている。これらの深化は今後も当然重要であるが、有機デバイスのハードウェアのみならず、例えばソフトウェアや情報通信システムとの融合までをも考慮することによって、有機材料をこれまで以上に有効に活用することができるであろう。今後はこのような周辺領域や他分野との融合によって、有機材料を最大限に活用させるところまでを俯瞰的にとりあげる有機材料システム分野を積極的に教育・研究していくことが重要である。

本専攻では、有機材料に関わる深い基礎知識と関連分野に関わる幅広い知識を習得し、有機材料の応用までを実践的に学習するとともに、そのようにして得られる知識を論理的に展開して、有機材料分野の高度な専門課題にも問題解決能力を有する人材、有機材料システム分野において新分野を開拓する素養を有する人材、高い倫理観を持った人材を養成する。

3-2 教育目的

有機材料に関する深い知識を有し、学際領域や異なる研究領域にも関心を持つことができ、グローバルな思考に基づいた実践ができる有機システム分野の専門家を育成することを目的とする。

3-3 教育目標

有機材料に関する基礎から先端分野に及ぶ専門科目に加え、有機材料に関わる学際領域や異なる研究領域に関する専門科目の履修の機会を与えることにより、有機材料システム分野の根幹と広がりを理解するとともに、研究室で行われる実験や演習等を通して、技術者・研究者としてグローバルに活躍できる素養を実践的に身につけることを目標とする。

3-4 学位論文審査基準

1. 山形大学大学院有機材料システム研究科ディプロマポリシーに従い、学位論文として適切な形式を踏まえていること。
2. 修士の学位論文は、新規性又は独創性がある有機材料システム専攻に関連する分野における新しい知見をもたらすか、又は当該分野における研究遂行に必要な基礎知識・理解力・問題解決能力等を証明する、独自の考察を含んだ論文であること。
3. 論文の構成について
 - (1) 論文の題目が適切であること。
 - (2) 研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。
 - (3) 研究方法が記述されており、目的に沿った方法であること。
 - (4) 結果が図表等を用いて適切に示されていること。
 - (5) 考察が結果に基づいて適切に導き出されていること。
 - (6) 目的に対応して結論が適切に導き出されていること。
 - (7) 参考文献が適切に引用されていること。
4. 提出された学位論文は審査委員（主査、副査）によって審査されること。
5. 審査基準1から4までのすべてを満たしたものを合格とする。

授業科目及び単位数表

授 業 科 目		単 位 数	開講期及び週時間				担当教員	備考
			2025 年度		2026 年度			
			前期	後期	前期	後期		
高度専門科目 I	精密重合反応特論 Precise Polymerization Reactions	2		2		(2)	森	英語可
	有機電子材料合成特論 A Synthesis of Organic Electronics Materials A	2		2		(2)	笹部	英語可
	高分子成形加工学特論 Advanced Polymer Processing	2		2		(2)	伊藤（浩）	英語可
高度専門科目 II	高分子特性解析学特論 Advanced Macromolecular Characterization	2	2		(2)		川口	英語可
	有機反応化学特論 Advanced Organic Reactions	2		2		(2)	羽場	英語可
	有機金属化学特論 Advanced Organometallic Chemistry	2	2		(2)		前山	英語可
	高分子電子材料合成特論 A Synthesis of Polymeric Electronics Materials A	2		2		(2)	東原	英語可
	有機材料構造化学特論 A Advanced Structural Organic Chemistry of Materials A	2		2		(2)	片桐	英語可
	機能性高分子ゲル特論 Functionalized Polymer Gels	2	2		(2)		宮	英語可
	機能性有機材料特論 A Advanced Functional Organic Materials A	2		2		(2)	山門	英語可
	環境高分子特論 Environmental Polymer Science	2	2		(2)		高田	英語可
	高分子トポロジー設計学特論 A Advanced Polymer Topology Design A	2		2		(2)	土肥	英語可
	有機半導体材料特論 Organic Semiconducting Materials	2	2		(2)		佐野	英語可
	有機材料物性物理学特論 Physical Properties of Organic Materials	2	2		(2)		高橋（辰）	英語可
	有機半導体物性特論 Semiconductor Physics of Organic Materials	2	2		(2)		松井	英語可
	光エレクトロニクス特論 Advanced Optoelectronics	2	2		(2)		横山（大）	英語可
	電気化学特論 Advanced Electrochemistry	2	2		(2)		吉田	英語可
	機能性有機複合材料学特論 Functionalized Organic Composite Materials	2		2		(2)	関根	英語可
	ナノマテリアル特論 Nano Materials A	2		2		(2)	千葉	英語可
	ナノ材料工学特論 Engineering for Advanced Nanomaterials	2		2		(2)	増原	英語可

高度専門科目 II	機能性高分子物性特論 Advanced Properties of Functional Polymers	2		2	(2)	西岡	英語可
	有機分子モデリング特論 Modeling of Organic Molecules	2	2		(2)	香田	英語可
	高分子応用レオロジー特論 A Applied Polymer Rheology A	2		2	(2)	杉本（昌）	英語可
	有機材料物性物理学 A Physical Properties of Organic Materials A	2		2	(2)	松葉	英語可
	高分子液体・固体物性特論 Properties of Polymeric Liquids and Solids	2	2		(2)	Sukumaran	英語可
	高分子材料設計特論 A Polymer Material Design A	2	2		(2)	西辻	英語可
	高分子実験力学特論 Advanced Polymer Experimental Mechanics	2	2		(2)	高山	英語可
	生体機能材料特論 Advanced Bioconjugated Functional Materials	2		2	(2)	鳴海	英語可
	高分子界面物性学特論 Physical Properties at Polymer Interfaces	2		2	(2)	松野	英語可
	生体機能分子科学特論 Advanced Lecture of Biofunctional Molecules Science	2		2	(2)	長峯	英語可
	包装システム工学特論 Packaging System	2	2		(2)	宮田	英語可
	食品応用学特論 Applied Food Science	2	2		(2)	非常勤講師	英語可
	有機材料システム特論 Advanced Organic Materials Science	2		2	(2)	硯里	英語可
	D X 技術社会実装特論 Advanced Lecture of Social Innovation with DX Technology	2	2		(2)	横山（道） 他	

授業科目名			単 位 数	開講期及び週時間数				担当教員	備考
				2025 年度		2026 年度			
				前期	後期	前期	後期		
高度専門 科目Ⅱ	グ ロ ー バ ル ・ 実 践 科 目	理工系のための実用英語I English for Engineering and Science I	2	2		(2)		長峯, 千葉	英語可
		理工系のための実用英語II English for Engineering and Science II	2	2		(2)		Sukumaran	英語可
		知的財産権 Intellectual Property	2		2		(2)	小原	
高度専門 科目Ⅲ	グ ロ ー バ ル ・ 実 践 科 目	学外実習（インターンシップ） Internship	2					専攻教員	
		研究開発実践演習（長期派遣 型） Practice for Research and Development	4					専攻教員	
		Project-Based Learning	2					専攻教員	英語可
		グローバル・コミュニケー ション演習Ⅰ※ Exercise for Global CommunicationⅠ	2					松葉 非常勤講師 他	英語可
		Presentation for Symposia/Seminars	1	1	1	(1)	(1)	松葉 古川 他	英語可
		有機材料システム特別演習 A Special Exercises on Organic Materials Science A	4	1	1	1	1	専攻教員	英語可
			有機材料システム特別実験 A Special Experiments on Organic Materials Science A	6	2	2	2	2	専攻教員

- (注) 1. グローバル・実践科目から必ず4単位以上修得のこと。
 2. () 内の数字は2026年度の開講予定週時間数を示す。
 3. ※印は履修人数の制限や履修のための条件があるため、履修登録に際しては掲示をよく確認すること。
 4. 備考欄の「英語可」は、留学生の理解を助けるため、英語を併用した授業が可能な講義科目を示す。

- (Notes) 1. At least 4 credits must be acquired from Global & Practical Subjects.
 2. The number in parentheses indicates that of scheduled weekly hours for the academic year 2026.
 3. Courses marked with a ※ denote a limit to the number of students who can enroll in a course and the existence of certain conditions for registration; therefore, students are requested to check the notice carefully when registering.
 4. The note “English available (英語可)” in the Remarks (備考) column indicates that the course can also be taught in English for the benefit of international students.

授業科目の内容

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
精密重合反応特論 Precise Polymerization Reactions	高分子合成における一次構造の精密制御法について解説する。特に分子量や分子量分布を制御するリビング重合系の基礎的理論と各重合手法の特徴、また生成ポリマーの解析手法について概説する。さらには分岐高分子やハイブリッド系材料への展開や高次構造体の構築など最近の研究動向について述べる。 A brief introduction to the overview of precise control techniques for polymer primary structures is presented. Basic theory of living polymerization systems to control molecular weight and molecular weight distribution, characteristics of each polymerization technique, and analytical methods for the resulting polymers are summarized. Recent advances in construction of highly-ordered structure and developments of branched polymers and hybrids, and recent research directions are also described.	教授 Professor 森 秀 晴 Mori Hideharu
有機電子材料合成特論 A Synthesis of Organic Electronics Materials A	有機エレクトロニクスは、文字通り有機分子材料を用いた電子デバイスに関する分野であり、その有機電子デバイスの高性能化において、新しい有機分子材料の開発はその根幹を成している。最近の研究例を紹介しながら、有機 EL、有機トランジスタ、有機太陽電池材料を中心に、様々な有機電子材料の合成法について学ぶ。また、材料の精製法や同定法についても解説する。 Organic electronics is a field that focuses on electronic devices utilizing organic molecular materials. The development of new organic molecular materials forms the foundation for enhancing the performance of organic electronic devices. By introducing recent research examples, we will explore the synthesis methods for various organic electronic materials, focusing on their application to organic light-emitting devices, organic field-effect transistors, and organic solar cells. Additionally, we will discuss techniques for purifying and identifying these materials.	准教授 Associate Professor 笹 部 久 宏 Sasabe Hisahiro
高分子成形加工学特論 Advanced Polymer Processing	高分子材料の諸特性と成形加工性、成形加工技術と高次構造形成及び成形加工品の各種物性について系統的に解説する。 A systematic overview of various properties of polymers and processability, processing techniques, higher-order structure development and various engineering properties of molded products.	教授 Professor 伊 藤 浩 志 Ito Hiroshi

高分子特性解析学特論 Advanced Macromolecular Characterization	高分子は比較的簡単な構造単位であるモノマーあるいは残基が多数繰り返してつながった巨大な分子である。高分子の性質は個々の高分子鎖の性質に強く影響される。したがって高分子鎖の形態や性質に関する知識は、高分子の基礎特性、有機材料の材料物性を制御・改良する上で本質的である。また、分子論にもとづいて有機材料の物性を考察することは、新規な材料開発への見通しを良くするためにも重要である。本講義では、高分子特性解析の基礎となる高分子溶液学、高分子量物質の不均一性、平均分子量の性質やその決定法、孤立鎖の統計的な性質、流体力学的性質、熱力学的性質について講義する。 A polymer is a giant molecule comprising many repeating units, or monomers, which are usually simple structural units. The properties of a polymer are strongly influenced by the properties of each polymer chain. Therefore, knowledge of the conformational properties of polymer chains is essential for controlling and improving the basic properties of polymers. In addition, considering the material properties based on molecular theory is important for improving the prospects for developing new materials. The lecture will cover the polymer solution, the basis for polymer characterization, the heterogeneity of high-molecular-weight substances, the properties and determination methods of average molecular weight, the statistical properties of isolated chains, hydrodynamic properties, and thermodynamic properties.	教授 川口 正剛 Kawaguchi Seigou
有機反応化学特論 Advanced Organic Reactions	学部で学習した有機化学をベースに、反応に関する部分を取り上げより詳細に解説する。まず、結合論、構造論、立体化学について概略を述べる。次に、反応の種類ごとに反応機構を説明し、さらに、立体や位置などが選択的な有機反応をどのように実現するかを、電子論、軌道論の立場から解説する。 Based on the organic chemistry learned in the undergraduate course, this lecture will focus on the reactions. First, bond theory, structure theory, and stereochemistry will be outlined. Next, the reaction mechanism is explained for each type of reaction, and how to realize stereo- and regio-selective organic reactions is explained from the viewpoint of electron theory and orbital theory.	教授 羽場 修 Haba Osamu
有機金属化学特論 Advanced Organometallic Chemistry	まず、金属-炭素結合を有する有機金属化合物の合成および用途について講義する。次に、有機金属化合物（触媒）を使った代表的な有機合成化学反応、高分子合成反応（重合反応）を解説し、金属の特性を生かした種々の有機変換反応が開発されていることを学ぶ。 First, the synthesis and applications of organometallic compounds, which have metal-carbon bonds, are studied. Next, typical organic synthetic chemical reactions and polymer synthesis reactions (polymerization reactions) using organometallic compounds (catalysts) are described.	教授 前山 勝也 Maeyama Katsuya

高分子電子材料合成特論 A Synthesis of Polymeric Electronics Materials A	π 共役系高分子の平均分子量，分子量分布，レジオレギュラリティー，鎖末端構造の精密制御法，特に分子内触媒移動重縮合法を中心に紹介する。さらに，電子デバイスに使用される π 共役系高分子材料の設計指針，合成法，高分子材料の精製法等についても解説し，高分子の一次構造とデバイス特性の相関関係について論ずる。 Methods for precise control of average molecular weight, molecular weight distribution, regioregularity, and chain-end functionality of π-conjugated polymers are introduced, emphasizing intramolecular catalyst transfer polycondensation. In addition, molecular design concepts, synthetic methods, and purification methods of π-conjugated polymers used in electronic devices are also explained, and the correlation between the primary structure of polymers and device properties are discussed.	教授 Professor 東原 知哉 Higashihara Tomoya
有機材料構造化学特論 A Advanced Structural Organic Chemistry of Materials A	分子の集合による自発的な構造形成は，有機機能性材料化学あるいは生命化学において極めて重要な役割を担っている。本講義では，分子集合体に欠かせない分子間力の特性，機能について解説する。 The spontaneous assembly of molecules into organized structures plays a fundamental role in organic functional materials chemistry, as exemplified by crystals, liquid crystals, and molecular recognition. This lecture systematically explores intermolecular interactions essential for molecular assembly, focusing on the fundamental nature of intermolecular forces through practical examples. The course aims to deepen understanding of molecular recognition and self-assembly principles, facilitating their application in the design of organic functional materials.	教授 Professor 片桐 洋史 Katagiri Hiroshi

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
機能性高分子ゲル特論 Functionalized Polymer Gels	機能性高分子ゲルは、国内外で活発に研究が行われており、将来の高度利用が期待される材料として認知されている。アクチュエータ（人工筋肉）やドラッグデリバリーシステム（DDS）、細胞培養、透過制御バルブ、形状記憶、分子認識、バイオセンサーなどの機能別に、高分子ゲルの材料設計から合成、機能機構について講義する。 Functional polymer gels have been actively researched both in Japan and overseas. These materials are recognized for their potential advanced future applications. This course will cover the material design, synthesis, and functional mechanisms of polymer gels, focusing on their various applications such as actuators (artificial muscles), drug delivery systems (DDS), cell culture, permeability control valves, shape memory, molecular recognition, and biosensors, among others.	教授 Professor 宮 瑾 Gong Jin
機能性有機材料特論A Advanced Functional Organic Materials A	次世代有機エレクトロニクス材料への応用を目的とした機能性分子の設計指針について、合成法および集積化の観点から概説する。合成法について、古典的手法から最新の手法までを講義し、集積化について基本理論および応用例を講義する。 Design guidelines for functional molecules aimed at next-generation organic electronic materials will be reviewed from the perspectives of synthesis and arrangement. Synthesis methods will cover approaches ranging from classical techniques to the latest advancements. Arrangement methods will be discussed in terms of fundamental theories and practical application examples.	准教授 Associate Professor 山 門 陵 平 Yamakado Ryohei
環境高分子特論 Environmental Polymer Science	環境と有機・高分子材料のかかわりを題材として、グリーンケミストリー、生分解性ポリマー、バイオベースポリマー、バイオリファイナリー、カーボンニュートラル技術、ライフサイクルアセスメントなどに関する基礎的な内容を学習する。また、これら分野における最新の技術に関する調査・議論を行うことで理解を深める。 Focusing on the relationship between the environment and organic and polymeric materials, students will learn the fundamentals of green chemistry, biodegradable polymers, biobased polymers, biorefineries, carbon-neutral technologies, and life cycle assessment. Additionally, they will deepen their understanding by researching and discussing the latest advancements in these fields.	准教授 Associate Professor 高 田 健 司 Takada Kenji
高分子トポロジー設計学 特論A Advanced Polymer Topology Design A	高分子は鎖の連結様式に応じて様々な構造（トポロジー）を取り、孤立状態（希薄溶液中）や凝集状態（濃厚溶液・メルト中）の分子特性に強く影響を与える。本講義では、分岐及び環状のトポロジーを有する高分子の合成手法と、孤立及び凝集状態における分子特性について解説し、高分子トポロジーの設計指針について論じる。 Polymers have various architectures (topologies) depending on their chain connecting manner, which strongly affects their molecular properties in isolation (in dilute solutions) and in aggregation (in concentrated solutions and melts). In this lecture, we will study synthetic methods for polymers with branched and cyclic topologies and their molecular properties, and discuss design guidelines for polymer topology.	准教授 Associate Professor 土 肥 侑 也 Doi Yuya

有機半導体材料特論 Organic Semiconducting Materials	光・電子機能性有機材料，高分子材料の分子設計からデバイス作製，デバイス動作メカニズムとその応用，最新技術や技術課題について議論する。特に，導電性高分子材料とその応用（例：透明導電膜やキャパシタ），有機発光材料とその応用（例：有機ELディスプレイ），ドナー・アクセプター型共重合体や非フラーレンアクセプター材料とその応用（例：有機薄膜太陽電池），有機無機ハイブリッド材料とその応用（例：ペロブスカイト太陽電池）について、詳細に解説する。 Molecular design, device fabrication, device operation mechanisms and their applications of photo- and electronically functional organic materials will be discussed. Conductive polymers and their applications (e.g. transparent conducting films and capacitors), organic light-emitting materials and their applications (e.g. OLED displays), donor-acceptor copolymers and non-fullerene acceptor materials and their applications (e.g. organic photovoltaic cells), organic-inorganic hybrid materials and their applications (e.g. perovskite solar cells) will be discussed in detail.	教授 Professor 佐野 健志 Sano Takeshi
有機材料物性物理学特論 Physical Properties of Organic Materials	高分子の化学構造が，高分子の物性や物理的な性質に与える影響について，エンジニアリングプラスチックなどを例に，研究開発に応用できる基本的な見方・考え方をわかりやすく示す。また，各自の研究テーマに関する特許調査も行い情報収集訓練もする。 The effect of macromolecular chemical structure on mechanical and physical properties is explained about fundamental views and way of thinking by using examples of engineering plastics, which can be applicable to research and development. Information collection skills are trained using research topics.	教授 Professor 高橋 辰宏 Takahashi Tatsuhiko
有機半導体物性特論 Semiconductor Physics of Organic Materials	有機太陽電池、有機発光ダイオード、有機トランジスタなどの有機エレクトロニクスデバイスを扱う上で必要となる、有機半導体材料の電子物性、構造、およびデバイス動作原理に関する基礎的センスを養うことをねらいとする。有機半導体特有の事柄を学ぶと同時に、無機半導体と共通するフェルミ統計等の考え方も併せて解説する。 The course aims to cultivate fundamental insights into the electronic properties, structures, and operational principles of organic semiconductor materials, which are essential for handling organic electronic devices such as organic solar cells, organic light-emitting diodes, and organic transistors. In addition to covering topics unique to organic semiconductors, the course explains concepts common to inorganic semiconductors, such as Fermi statistics.	教授 Professor 松井 弘之 Matsui Hiroyuki
光エレクトロニクス特論 Advanced Optoelectronics	光エレクトロニクスの周辺技術に関し，基礎的理論を体系的に学ぶ。基礎光学をベースに，各種光学素子の設計について解説する。光学素子の利用・開発のために必要な基礎知識として光学の基礎と応用を学び，光の挙動を理解する。特に，物質の光学定数と薄膜中の光学干渉について学ぶことで，各種光学素子および薄膜積層構造中の光の挙動について理解を深める。 In this course, the fundamental theory in optoelectronics and its applications are systematically Presented. Based on fundamental optics, the designs of optical elements and devices are explained. Optical constants of materials and interference in thin films are deeply discussed, leading to the understanding of the optical phenomena in optical devices and multilayer thin films.	准教授 Associate Professor 横山 大輔 Yokoyama Daisuke

電気化学特論 Advanced Electrochemistry	電気化学の基本的理論と分析測定や電解合成の実際との結びつけを解説すると共に、電気化学反応を利用した工業プロセスやデバイスについて講義する。特に蓄電池、燃料電池や太陽電池などのクリーンエネルギーデバイスについて、その最新動向を解説すると共に、未来技術を展望し、議論する。 Fundamentals of electrochemistry and physical chemistry are Presented with a focus on the achievement of sustainable development. Theories and practices of renewable energy are explained, such as novel photovoltaic devices, fuel cells, batteries and electrocatalysis. Latest trends and future prospects of related technologies are to be discussed.	教授 Professor 吉田 司 Yoshida Tsukasa
機能性有機複合材料学特論 Functionalized Organic Composite Materials	導電性高分子や誘電性材料、有機半導体などから成る機能性有機複合材料について、その組合せ理論と機能発現の現象論を電子状態と物性特性の観点から講義する。また、これらの有機デバイスへの応用展開について、とくに電子人工皮膚や人工筋肉など最新の動向に焦点を当てながら解説する。 Electronic states and physical properties are important issues in phenomenology of functional organic composites consisting of conductive polymers, dielectric materials, and organic semiconductors. In this lecture, we focus on the application of these materials to organic devices, such as electronic artificial skins and artificial muscles.	准教授 Associate Professor 関根 智仁 Sekine Tomohito
ナノマテリアルト論 A Nano Materials A	本講義では、発光デバイスや太陽電池などの光電子変換デバイスに用いられる有機・無機・ハイブリッド半導体材料について論じる。各種半導体材料の合成や精製方法、成膜技術およびデバイス作製について解説する。また、光学特性およびエネルギー準位などの基礎物性を講義する。 This lecture covers organic, inorganic, and hybrid semiconductors for optoelectronic devices such as LEDs and solar cells, focusing on their synthesis, film formation, device fabrication, and fundamental properties like optical characteristics and energy levels.	教授 Professor 千葉 貴之 Chiba Takayuki

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
ナノ材料工学特論 Engineering for Advanced Nanomaterials	有機・無機材料に拘わらず、ナノテクノロジーは、材料、情報通信、環境、エネルギー、等幅広い分野にわたる融合的かつ総合的な科学技術分野である。本講義では粒子に焦点を当て、その作製方法や粒子のサイズ制御及びそれら粒子の次元制御による特性の差異等、基本的な物性を講義し、最終的に粒子を基にした応用例について解説する Nanotechnology, regardless of whether it involves organic or inorganic materials, represents an interdisciplinary and comprehensive field of science and technology spanning diverse areas such as materials, information and communication, environment, and energy. This lecture focuses on particles, covering topics such as fabrication methods, size control, and the differences in properties arising from dimensional control of particles. In addition, it introduces practical applications based on these particles.	教授 Professor 増原 陽人 Masuhara Akito (理工学研究科) (Graduate School of Science and Engineering)
機能性高分子物性特論 Advanced Properties of Functional Polymers	高分子物性に関する基本的な事項を復習した後、高分子材料の物性的な特徴や加工性との相関について材料のレオロジー的な観点から論ずる。材料のレオロジー特性を制御する上での分子設計や構造的因子について実際の研究事例を用いて紹介する。また実際の研究開発現場での事例を紹介し、工学的視点から問題解決力を養う。適宜、高分子物性に関するテーマを設定しながら学生参加型の講義を実施することでディスカッション能力やプレゼンテーション能力も養う。 After reviewing the basic matters on polymer properties, the physical properties of polymeric materials and correlation with processability will be discussed from the viewpoint of rheological properties. Molecular design and structural factors in controlling rheological properties of materials will be introduced using actual research cases. Examples from actual research and development sites will be introduced to cultivate problem-solving skills from an engineering perspective. The lecture will be conducted with student participation, setting themes related to polymer properties as appropriate, to cultivate discussion and presentation skills.	教授 Professor 西岡 昭博 Nishioka Akihiro
有機分子モデリング特論 Modeling of Organic Molecules	計算機を使って有機分子の構造や動きを研究するためには、有機分子を表すモデルを決定し、そのモデルに従って作成した計算プログラムによって得られる結果を解析する必要がある。本講義では分子シミュレーションを通して分子のモデリングについて学び、理論的な背景や計算結果の解析方法についても解説する。 To study structure and dynamics of organic molecules in a framework of computer programming, we begin with a model to describe organic molecules for concerned material. We study molecular simulation, its theoretical background, and analysis method of simulation results.	教授 Professor 香田 智則 Koda Tomonori

高分子応用レオロジー 特論A Applied Polymer Rheology A	高分子材料の成形加工は突き詰めれば「流す」「形にする」「固める」工程からなる。「流す」工程は最もはじめの段階にあり、最終的な製品の物性や機能にも大きな影響を与える。ここでは、高分子材料開発や成形加工現象の理解のため流動特性（レオロジー）について論ずる。はじめに「流す」工程に必要な考え方（熱移動，レオロジーの基本）を述べ、具体的にいくつかの高分子材料の流動性改良についていくつかの高分子材料を例に挙げて論ずる。 The processing of polymer materials can ultimately be divided into three stages: "flowing," "shaping," and "solidifying." The "flowing" stage is the first step and significantly influences the physical properties and functionality of the final product. This lecture discusses the flow characteristics (rheology) essential for understanding polymer viscoelasticity and processing. First, the fundamental concepts necessary for the "flowing" stage, such as heat transfer and the basics of rheology, are explained. Then, specific examples for improving the flow properties of several polymer materials are presented and discussed.	教授 Professor 杉 本 昌 隆 Sugimoto Masataka
有機材料物性物理学A Physical Properties of Organic Materials A	有機材料，例えば多成分系高分子，有機デバイス材料の高次組織，その形成機構，組織と材料物性の関係について解説する。特に，有機材料によく用いられる構造・分子運動の解析の面から説明を行い，有機材料に関する物性物理について詳述する。 This section explains the higher-order organization of organic materials, such as multi-component polymers and organic device materials, the mechanisms of their formation, and the relationship between their organization and material properties. In particular, it explains the analysis of structures and molecular motion that are often used in organic materials and describes the physical properties of organic materials in detail.	教授 Professor 松 葉 豪 Matsuba Go
高分子液体・固体物性 特論 Properties of Polymeric Liquids and Solids	高分子の流体（溶液と熔融体）と固体（高分子ガラス，半結晶生高分子，高分子複合材料）の階層性と複雑性に関して，実験結果や理論からメゾスケールの構造やダイナミクスについて解説する。 This course will use experimental results and theory to understand the hierarchical structure and molecular dynamics of polymer liquids (solutions, melts) and solids (polymer glasses, semi-crystalline polymers, polymer composites) and on that basis, explain their physical properties.	准教授 Associate Professor Sukumaran, Sathish Kumar
高分子材料設計特論A Polymer Material Design A	高性能・高機能化を目的として，異種の高分子材料を混ぜることにより作製する多成分系高分子材料であるポリマーアロイの材料設計について論じる。具体的には，ポリマーアロイの特徴，高分子の相溶性，非相溶系ポリマーアロイの相の界面制御について解説する。	准教授 Associate Professor 西辻 祥太郎 Nishitsuji Shotaro

	In this lecture, material design of polymer alloy, which are multi-component polymer materials prepared by mixing different polymer materials for the purpose of achieving high performance and high functionality, are explained. Specifically, the characteristics of polymer alloy, compatibility of polymers, and interface control of phases in incompatible polymer alloys are discussed.	
高分子実験力学特論 Advanced Polymer Experimental Mechanics	高分子成形品はその成形加工条件や使用環境によってその振る舞いを大きく変化させる。本講義では高分子成形品の力学特性，特に信頼性を評価する手法や理論について解説する。さらに，信頼性を高める手法である複合化にも触れ，この原理や複合化設計指針について論じる。 The behavior of polymer molded products is highly variable, contingent upon the specific molding process conditions and the environmental context in which they are utilized. In this lecture, we will elucidate the methodologies and theoretical frameworks utilized for the assessment of the mechanical properties, particularly reliability, of polymer molded products. Additionally, we will address the concept of "compositization," a methodology employed to enhance reliability, and its underlying principles and composite design guidelines will be discussed.	准教授 Associate Professor 高山 哲生 Takayama Tetsuo

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
生体機能材料特論 Advanced Bioconjugated Functional Materials	生体分子や生体高分子に関する種類、分子構造、および機能などについての基礎知識を復習しつつ、今後ますます重要となるそれらの非枯渇資源としての高度利用、複合化による生体機能性材料や医療用材料の創出について講義する。 The molecular structures and functions of biomolecules and biopolymers will be learned, together with discussing their advanced utilization as inexhaustible resources and the creation of biofunctional materials and medical materials through their conjugation.	教授 Professor 鳴 海 敦 Narumi Atsushi
高分子界面物性学特論 Physical Properties at Polymer Interfaces	高分子の表面、あるいは、異種相と接した界面における分子鎖凝集状態、ならびに、熱運動性について概説する。これらのバルク状態との差異が、材料の性能・機能に及ぼす影響について論じるとともに、近年の表面・界面材料の新しい展開について解説する。 This class introduces an overview of aggregation states and thermal molecular motion at the surface or interface of polymers contacting different phases. The class will also discuss the effects of the differences in such properties between the bulk and interfacial regions on the functionality of materials, and explain recent developments in surface and interface materials in recent years.	教授 Professor 松 野 寿 生 Matsuno Hisao
生体機能分子科学特論 Advanced Lecture of Biofunctional Molecules Science	生体を構成する物質の種類と作用に着目した新たな材料・デバイス設計の基礎と応用について、それらの用途別に理解することを目指す。特にバイオセンサに着目し、その広い応用例を見ながら、実社会への貢献について多面的に講義する。 The purpose of this class is to understand the fundamentals and applications of new materials and devices, especially biosensors, focusing on the variations and functions of biomaterials. A multifaceted lecture on their contributions to society while observing a wide range of applications are provided.	教授 Professor 長 峯 邦 明 Nagamine Kuniaki
包装システム工学特論 Packaging System	現在の社会生活において包装は必須のシステムである。近代より紙や金属が使われ、昨今は高分子が多用されている。本講では、包装に要求される材料の特性、材料が包装システムを構成する機能性について概説する。またそれらの基盤となる様々な要素技術について多角的に論ずる。 Packaging is an essential system now. Since modern times, paper and metal have been used, and nowadays, polymers are widely used. This lecture will outline the characteristics of the materials required for packaging and the functionality of the materials that comprise the packaging system. Various elementary technologies that form the basis of these systems will also be discussed from different perspectives.	准教授 Associate Professor 宮 田 剣 Miyata Ken

食品応用学特論 Applied Food Science	「おいしさ」について，調理科学・食品物性学の視点から探求し，食品の多様性，機能性について考える。食品テクスチャー（食感）の評価に関する知識を習得し，官能評価等の評価技術について学習する。また，食品に関する論文を読み，プレゼンテーションやディスカッションを行う。 We will explore "tastiness" from the perspectives of cooking science and food physical properties, and consider the diversity and functionality of foods. We acquire knowledge about food texture evaluation and learn evaluation techniques such as sensory evaluation. Students will also read papers related to food and deliver presentations and conduct discussions.	非常勤講師 Part-time lecturer
---------------------------------	---	-----------------------------

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
有機材料システム特論 Advanced Organic Materials Science	今後の社会課題をデジタル技術、エネルギー問題、環境問題の観点から学習した上で、有機材料や有機エレクトロニクスデバイス、その作製プロセスも含め、既存技術と比較しながら、有機材料が活躍する有機材料システムの優位性や発展性を理解する。 To address future societal challenges, this class examines them from the perspectives of digital technology, energy issues, and environmental concerns. Through comparison with existing technologies, it aims to deepen the understanding of the advantages and developmental potential of organic material systems, focusing on organic materials, organic electronic devices, and their fabrication processes.	教授 Professor 硯里 善幸 Suzuri Yoshiyuki
D X技術社会実装特論 Advanced Lecture of Social Innovation with DX Technology	工学技術の社会貢献への向上を目的として、現代社会の課題と社会的ニーズを知り、工学シーズをICT/DX技術を活用して社会実装するために必要なスキルや方法を学ぶ。講義に加えて、講義内容に関する議論を通じて知見を得る。また、イノベーションを生み出す社会実装モデルの創出に関して、グループワーク形式で学修する。 Aiming to progress in social contribution of engineering, students will recognize contemporary problems and social needs, and learn skills and/or methods for realizing social innovation of technology seeds with ICT/DX. In addition, novel knowledge is expected to be acquired through discussion, moreover, group-works are performed regarding creations of the social innovation model.	教授 Professor 亀井 信一 Kamei Shin-ichi 教授 Professor 横山 道央 Yokoyama Michio 専攻教員他 外部講師 Other Lecturers
理工系のための実用英語 I English for Engineering and Science I	本講義では、英会話を積極的に行い、自分の主張を外国人とのコミュニケーションの中で通していけるような技術者になるための英会話の習得を行う。具体的には、英語で海外からの留学生とディスカッションしたり、海外に留学して専門知識を深めたりするときに必要な英語力や自己表現の仕方を身に付けることをねらいとする。 In this lecture, English linguistic ability to communicate with people in other countries and describe your original ideas to audiences will be given and trained. The aim of this lecture is to obtain sufficient skills in English present and discuss your own ideas and opinions with international students, and deepen your own expertise in study abroad.	教授 Professor 長峯 邦明 Nagamine Kuniaki 教授 Professor 千葉 貴之 Chiba Takayuki
理工系のための実用英語 II English for Engineering and Science II	The overall aim of this course is to enable you to improve your reading and writing skills. To improve your reading comprehension, you will read and analyze scientific and non-scientific articles. To improve your writing ability, you will review and summarize the articles.	准教授 Associate Professor Sukumaran, Sathish Kumar
知的財産権 Intellectual Property	特許および特許法について解説するとともに、特許検索法や特許の書き方、申請に関する具体的な方法について学ぶ。さらに、国内外の最新特許情報について紹介する。 In addition to explaining patents and patent law, students learn how to search for patents, how to write patents, and specific methods, when applying for patents. Furthermore, the latest information on domestic and international patents are introduced.	産学連携教授 Industry-Academia Collaboration Professor 小原 淳史 Obara Atsushi

学外実習 (インターンシップ) Internship	企業などにおいて、自らの専攻や将来の経験に関連した就業体験を行う。大学教育とは異なる、高い職業意識と自立心・責任感のある社会人となるための育成を目的とした実習である。業界や業種等に関する事前の調査、実習、事後の実習報告などにより職業意識の向上を図る。 Students will gain work experience related to their major at a company, etc. This training aims to develop students to become members of society with a high work, ethic independence, and responsibility, which is different from university education. It aims to improve occupational awareness through preliminary research, training, and post-training reports on industries.	
研究開発実践演習 (長期派遣型) Practice for Research and Development	企業現場において、当該企業の協力を得ながら、企業分析・産業分析を行い、課題発見と改善提案を行う。また、企業研究者と共同で開発研究活動を行う。 At the workplace, company and industry analysis to discover issues and propose improvements are conducted, with the cooperation of the company in question. In addition, development research activities jointly with corporate researchers will be conducted.	

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
Project-Based Learning	大学院修了後に、学生は大学や企業などで専門知識を活用してグローバルに活躍することが求められる。この実習では実際に学生がプロジェクト先等へ赴き、問題解決型の課題に主体的に取り組むことで、社会人として求められる基礎能力を育成する。また問題意識を持って課題解決ができ、チームをマネジメントできる能力と、コミュニケーション能力の形成を図る。プロジェクトに関わることで、理論と実践の間の溝、プロジェクトにおける障壁を理解し、これを乗り越えることができる力と、高い職業意識ならびに自立心・責任感を身につける。さらに技術者・研究者としての自立性（自律性）の育成も目指し、就業体験を通じた職業意識の向上と職業観の育成を図る。 After completing graduate school, students are expected to use their specialized knowledge to participate globally at universities, companies, etc. In this practical training, students actually go to a project site and work independently on problem-solving tasks, thereby developing the basic skills required as members of society. We also aim to develop the ability to solve problems through awareness, manage a team, and develop communication skills. Being involved in projects, students acquire an understanding of the gap between theory and practice, the barriers in projects, how to overcome these barriers, a high level of professionalism, and a sense of independence and responsibility. Furthermore, we aim to foster independence (autonomy) as engineers and researchers, and aim to improve professional awareness, and develop a view of work through work experience.	専攻教員 他 Major Faculty
グローバルコミュニケーション演習 I Exercise for Global Communication I	研究活動において、グローバルな舞台で活躍するためには、学会やシンポジウム、セミナーなどにおける聞く・話すという基本的な英語能力に加えて、議論する力、なかでも、人を惹きつけるプレゼンテーション力などが必然的に求められる。国際学会に参加・発表・議論を通して、実際のグローバルコミュニケーションの有り方を体験することを目指して本演習では、1年次に英語の発表、議論の練習を行う。 In addition to the basic English skills of listening and speaking at academic conferences, symposiums, and seminars, to be active on the global stage in research the ability to engage in discussion and give presentations that captivate people, is inevitably required. In this seminar, which aims to expose the nature of actual global communication through participation, presentation, and discussion at international academic conferences, students practice giving presentations and engaging in discussions in English in their first year.	教授 Professor 松葉豪 Matsuba Go 非常勤講師 他 Part-time Lecturer

Presentation for Symposia/ Seminars	国際シンポジウム／セミナーに参加し、発表と議論を通じて、プレゼンテーション力と英語力をはじめとするコミュニケーション力を強化する。さらに、学生同士が協力して企画する国際シンポジウムや国際セミナーの運営を補助することで、マネジメント能力を身につける。加えて若手研究者間の国際ネットワークを構築する。 By participating in international symposiums and seminars and making presentations and engaging in discussions, students will strengthen their communication, presentation, and English language skills. In addition, by assisting with international symposiums and seminars that are planned and organized by students working together, students will acquire management skills. Furthermore, they will build international networks among young researchers.	教授 Professor 松 葉 豪 Matsuba Go 教授 Professor 古 川 英 光 Furukawa Hidemitsu (理工学研究科) (Graduate School of Science and Engineering)
有機材料システム 特別演習 A Special Exercises on Organic Materials Science A	有機材料システムに関わる専門演習（討論及びゼミナール）が中心で、指導教員の指示に従って高度な知識と論理的討論方法を身に付ける。個別指導、または小グループに対する演習が中心となる。 Focusing on specialized exercises (discussions and seminars) related to organic material systems, students acquire advanced knowledge and logical discussion methods under the guidance of their supervisors. The main format is either individual instruction or small group exercises.	専 攻 教 員 Major Faculty
有機材料システム 特別実験 A Special Experiments on Organic Materials Science A	修士学位論文を作成するために行う専攻独自の個別実験で、基本的には指導教員の指示に従って行う。内容は、基礎的なものから最先端の研究も含む。 This subject is about an individual experiment unique to the major that is conducted in order to prepare a master's degree thesis, and is executed according to the instructions of the supervisor. The content ranges from basic to cutting-edge research.	専 攻 教 員 Major Faculty

大学院共通開講科目

大学院基盤教育科目 授業科目及び単位数

授業科目名	単 位 数	開講期及び週時間数				担当教員	備考
		2025 年度		2026 年度			
		前期	後期	前期	後期		
地域創生・次世代形成・多文化共生論 Advanced Regional Revitalization, Fostering of Responsible Researchers & Innovator in Future Generations, Promotion of Multicultural Coexistence	2	2		(2)		各キャンパス 担当教員他	遠隔講義システム

- (注) 1. 2026年度の「開講期及び週時間数」は、原則として2025年度の大学院基盤教育科目に倣うものとする。
2. () 内の数字は2026年度の開講予定週時間数を示す。
3. 備考欄には、対面・オンラインの別など、開講方式を記載する。

大学院基盤教育科目 授業科目の内容

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
地域創生・次世代形成・多文化共生論 Advanced Regional Revitalization, Fostering of Responsible Researchers & Innovator in Future Generations, Promotion of Multicultural Coexistence	本講義は、博士前期課程初年次学生に対し、地域における変化やグローバル化の進行に対応すべく、不断に生じる課題を正確に把握し、将来に向けて解決するために必要な豊かな人間力を涵養するものである。 本講義は、「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」の3つを主たるテーマとし、各々のテーマにつき各4回、講義を実施する。講義にあたっては、3つのテーマをSDGsと連関させることで、「地域創生」、「次世代形成」、「多文化共生」にまつわる諸問題が、現代においては一貫した課題として現れていることを明らかにする。 さらに、講義を通じ、地域の活性化やグローバル化を背景とした科学・技術・社会における諸課題に対し、研究者・実践家がどのような考えに基づいて向き合っているのかを体感させる。これにより、学生自身に自らの将来像を描かせ、その将来像からバックキャストすることで、大学において学生個々がどのように学修してゆくかを考えさせる。最終レポート作成にあたっては、自らの研究活動（およびその将来像）との関連を明示することを求めることで、研究の社会的意義と役割について自覚し、他者へと説明できる能力・資質を涵養する。 This course is aimed at first-year master's students to foster the virtues and depth of resourcefulness required to manage regional change and globalization, and to correctly understand and resolve emerging challenges in the future. The course has three major themes: Advanced Regional Revitalization, Fostering Responsible Researchers & Innovators in Future Generations, and Promotion of Multicultural Coexistence. Four lectures will be held on each theme. The lectures will reveal the links of the themes with the sustainable development goals (SDGs), clarifying how the issues associated	各キャンパス 担当教員他 Responsible teaching staff on each campus

	with regional revitalization, fostering responsible future generations and multicultural coexistence are a single set of challenges in today's world. Through the lectures, students will also be exposed to how researchers and practitioners analyze and address the numerous scientific, technological, and social issues in the background of regional revitalization and globalization. In this way, students will be able to envision a future version of themselves, and then to backcast in order to consider how they should best pursue their studies as individuals at the university. For their final reports, they are required to demonstrate the link with their own research (and their future selves). Thus, they become aware of the social significance and role of research, fostering their ability and qualifications to explain this to others.	
--	--	--

大学院基礎専門科目 授業科目及び単位数

授業科目名		単 位 数	開講期及び週時間数				担当教員	備考
			2025 年度		2026 年度			
			前期	後期	前期	後期		
全学共通開講科目	キャリア・マネジメント Career Management	1	1		(1)		下平	
	研究者としての基礎スキル Fundamental Skills for Researcher	1	1		(1)		富松	
	データサイエンス Data Science	1		1		(1)	各研究科担当教員他	
	Academic Skills: Scientific Presentations + Writing	1		1		(1)	落合，非常勤講師	
	異分野連携論 Interdisciplinary Communications and Collaboration	1		1		(1)	古澤	
	異分野実践研修 Practice for Interdisciplinary Research	1	1		(1)		古澤 主指導教員他	実習
各研究科開講科目	社会文化創造論Ⅰ Social and Cultural Innovation	1	1		(1)		渡辺，社会文化 創造研究科教員	
	知財と倫理 Intellectual Property and Research Ethics	1		集中		集中	小倉	
	AI デザイン演習 Artificial Intelligence Design Practice	1	1		(1)		高橋	オンライン
	技術経営学概論 Introduction to Management of Technology	1	集中		集中		小野，野田， 高澤	
	グローバル材料システム イノベーション Global Materials System Innovation	1	1		(1)		東原	
	先端医科学特論 The Special Lecture of the Up-dated Medical Science	2		2		(2)	医学系研究科教員他	e ラーニング
	食の未来を考える Overview: The Future of Food	1		1		(1)	藤科，農学研究 科教員	

(注) 1. 2026年度の「開講期及び週時間数」は、原則として2025年度の大学院基礎専門科目に倣うものとする。

2. () 内の数字は2026年度の開講予定週時間数を示す。

3. 備考欄には、対面・オンラインの別など、開講方式を記載する。

大学院基礎専門科目 授業科目の内容

	授業科目名	授業科目の内容	担当教員
全 学 共 通 開 講 科 目	キャリア・マネジメント Career Management	学界に寄与する優れた研究の推進あるいは先端的な技術開発の貢献等によって、研究者・高度専門職従事者として十分自立して活動するために必要な、大学院修了後のキャリアパスについて学ぶ。大学院生が自身のキャリアについて考察し、それを実現するためにどのような能力を獲得すべきかについて主体的に考えるキャリア・マネジメント力を身につけることを目的とする。 Students will learn about career paths after completing graduate school that are necessary for them to be able to work independently as researchers and highly-skilled professionals, through the promotion of excellent research that contributes to academia or the contribution of cutting-edge technological development. The aim is for graduate students to acquire career management skills that will enable them to think independently about their own careers and what skills to achieve them.	教授 Professor 下 平 裕 之 Shimodaira Hiroyuki (社会文化創造研究科) (Graduate School of Creative Studies in Society and Culture)
	研究者としての基礎スキル Fundamental Skills for Researcher	分野の枠を超えた多様なプレゼンテーション・研究マネジメントスキルに関する講義を通じて、これらの基礎的スキルに対する理解を深めるとともに、自身のスキルアップへ向けた課題発見および解決へ向けた取り組みを考えることを目的とする。また、研究倫理に関する基本的な知識と考え方を正しく理解することを目指す。 The aim of this course is to deepen understanding of these basic skills through lectures on a diverse range of presentation and research management skills that transcend the boundaries of academic fields, as well as to consider approaches to identifying and solve issues aimed at improving one's own skills. In addition, the aim is to correctly understand the basic knowledge and concepts related to research ethics.	教授 Professor 富 松 裕 Tomimatsu Hiroshi (理工学研究科(理学系)) (Graduate School of Science and Engineering (Faculty of Science))
	データサイエンス Data Science	データサイエンスの最新事情とそれを構成する技術群を理解するとともに、データ分析の基本的な手法を学び、研究や業務の中でデータサイエンスを適用した課題解決が行える知識・基礎的素養を身につける。 In addition to understanding the latest advancements in data science and its technologies students will learn basic data analysis methods and acquire the knowledge and basic skills to solve problems by applying data science in research and business.	各研究科担当 教員他 Responsible teaching staff on each graduate school
	Academic Skills: Scientific Presentations + Writing	この講義では、科学的・学術的な文書・プレゼンテーションにおいて、どのように英語／日本語を使うかを学びます。表現方法、文章構成、プレゼンテーション技法（図表の作成方法などを含む）などが対象です。 In “Academic Skills: Scientific Presentations + Writing,” we will learn how to use English/Japanese effectively for scientific purposes. This course will teach the usage of English and Japanese in academic presentations and academic writing. The course will focus on phrases as well as smart presentation techniques. Examples include meaningful comparisons, figures, and labels.	教授 Professor 落 合 文 吾 Ochiai Bungo 非常勤講師 Part-time Lecturer

全 学 共 通 開 講 科 目	異分野連携論 Interdisciplinary Communications and Collaboration	本講義は、科学・技術・社会における異分野連携・学際融合（マッチング・課題探索を含む。）に関する最先端の内容を紹介することで、分野の枠を超えた理解・協同のための取り組み・仕組み作りにおいて必要な要素を把握し理解させることを目的とする。これに加え、イノベーションや人災事故など陽と陰の両面の作用をもつ科学・技術による社会への様々な影響、および、反対に社会条件による科学・技術の制約／作用の両面を研究する「科学技術社会論」や「法と科学」を取り上げ、広義の科学を俯瞰する能力を育む。 The aim of this lecture is to introduce cutting-edge content related to interdisciplinary collaboration and integration (including matching and issue exploration) in science, technology and society, and to help students understand and grasp the elements necessary for initiatives and the creation of mechanisms for understanding and cooperation that transcend the boundaries of fields. In addition, we will also cover the “Science, Technology and Society” and “Law and Science” fields, which study the various effects of science and technology, on society, — both positive and negative effects. These include innovation and man-made disasters, as well as the constraints/effects of social conditions on science and technology, in order to develop the ability to view science in a broad sense.	教授 Professor 古澤 宏幸 Furusawa Hiroyuki (大学院基盤教育機構) (General Graduate Education)
	異分野実践研修 Practice for Interdisciplinary Research	本実習は、自らの専門とは異なる分野で課題に取り組む際の専門の枠を超えた理解・協働を促進する実践力あり方を習得するため、専門が異なる学内の異分野研究室での研修（例：研究室ローテーション）、異分野の産業現場における実習（学外企業へのインターンシップ）、異分野の研究施設における実習又は国外におけるフィールドワークへの参加等を通じて、異分野連携の実践を体感することを目的とする。 The aim of this practical training is to acquire practical skills that promote understanding and collaboration across disciplinary boundaries when tackling issues in fields apart from your own specialty, through practical training in various research laboratories on campus (e.g. laboratory rotation), in diverse fields of industry (internships at companies outside the university), at research facilities in different fields, or in fieldwork overseas, with the aim of experiencing practical collaboration between distinct fields.	教授 Professor 古澤 宏幸 Furusawa Hiroyuki (大学院基盤教育機構) (General Graduate Education) 主指導教員他 Primary supervisor

	授業科目名	授業科目の内容	担当教員
各 研 究 科 開 講 科 目	社会文化創造論 I Social and Cultural Innovation	「文化」を「社会」との関連の中で俯瞰的に捉える視点を学び、現代社会が直面する課題についての分析スキルを身につけ、課題が生じる原因を的確に理解して社会の変革に対応する力を修得する。 Students will learn to view culture from a broad perspective in relation to society, acquire analytical skills to address the issues facing modern society, and acquire the ability to respond to social change by accurately understanding the causes of these issues.	教授 Professor 渡 辺 文 生 Watanabe Fumio (社会文化創造研究科) (Graduate School of Creative Studies in Society and Culture) 社会文化創造研究科教員全6名 Creative Studies in Society and Culture Total6
	知財と倫理 Intellectual Property and Research Ethics	研究活動を進めていく上で必須となる知財及び倫理についての基本知識や考え方を修得することを目的とする。 The aim of this course is to acquire the basic knowledge and concepts of intellectual property and ethics that are essential for conducting research activities.	教授 小 倉 泰 憲 Ogura Yasunori (理工学研究科(理学系)) (Graduate School of Science and Engineering (Faculty of Science))
	AI デザイン演習 Artificial Intelligence Design Practice	人工知能 (artificial intelligence; AI) の基礎技術である機械学習に関する基本的な知識を学ぶ。また、さまざまなデータセットを用いたプログラミング演習を通して、機械学習の一連の処理を実装するための基本的な能力を身につける。 Students will learn the basic knowledge of machine learning, which is a fundamental technology of artificial intelligence (AI). They will also acquire the basic skills to implement a series of machine learning processes through programming exercises using various data sets.	助教 Assistant Professor 高 橋 茶 子 Takahashi Chako (理工学研究科(工学系)) (Graduate School of Science and Engineering (Faculty of Engineering))
	技術経営学概論 Introduction to Management of Technology	技術経営学全体を概観するとともに、マネジメント領域の専門科目の基盤となる基本的知識の理解を深める。マネジメント領域の科目群の学習を開始するにあたっての基本及び羅針盤的な位置づけである。 This course provides an overview of the field of technology management, and also deepens students' understanding of the basic knowledge that forms the foundation for specialized subjects in the field of management. It is a basic and guiding course for students starting to learn subjects in the field of management.	教授 Professor 小 野 浩 幸 Ono Hiroyuki 准教授 Assistant Professor 野 田 博 行 Noda Hiroyuki 准教授 Assistant Professor

各研究科開講科目			高澤 由美 Takazawa Yumi (理工学研究科(工学系)) (Graduate School of Science and Engineering (Faculty of Engineering))
	グローバル材料システムイノベーション Global Materials System Innovation	世界にインパクトを与える研究やイノベーションについて概説し、他分野との融合・連携による材料システムのイノベーションに必要な知識・能力・技術等の要素について理解を深めることを目的とする。 The purpose of this course is to provide an overview of researches and innovations that have a global impact, and to comprehend elements such as knowledges, abilities, and technologies that are essential for innovations in materials systems through integration and collaboration with technologies in other fields.	教授 東原 知哉 Higashihara Tomoya (有機材料システム研究科) (Graduate School of Organic Materials Science)
	先端医科学特論 The Special Lecture of the Up-dated Medical Science	21世紀型医療を取り巻く実際と将来的展望について理解し、医療における倫理とその問題について理解を深めることを目的とする。 The aim of this course is to study the realities and future prospects of 21st century medicine, and to understand medical ethics and its related issues.	医学系研究科教員他 Graduate School of medical science, Graduate School Faculty Member
	食の未来を考える Overview: The Future of Food	生産、加工、醸造、流通、安全といった食の川上から川下まで、食の未来について考え、専門分野の枠にとらわれず「食」に関する基礎知識を身につけることを目的とする。 The aim of this course is to analyze the future of food from upstream to downstream, including production, processing, brewing, distribution, and safety, and to acquire basic knowledge about food without being limited to a specific field of expertise.	教授 藤科 智海 Fujishina Tomoumi (農学研究科) (Graduate School of Agricultural Science) 農学研究科教員 全8名 Agricultural science faculty Total 8

Ⅱ 博士後期課程

1. 履修方法

1. Course Completion Method

1-1 指導教員グループ

学生には、入学の際、授業科目の履修、学位論文の作成等の指導のために、博士後期課程担当教員の中から主指導教員が定められる。主指導教員は、学生の研究計画に基づき、専門分野が偏らないように配慮し、3名以上の指導教員グループを組織する。

学生は、主指導教員と相談の上、各年度の初めに「研究計画書」を提出すること。(様式64～66頁掲載、工学部ホームページからダウンロード可能)

1-1 Faculty Advisors Group

At the time of admission, students will be assigned a primary advisor from among the faculty members in charge of the doctoral program who will provide guidance for the completion of the course, thesis preparation, etc. The primary advisor shall, while working to prevent bias toward the student's field of expertise, organize a group of at least three advisors based on the student's research plan.

Students must submit a “Research Plan” at the beginning of each academic year after consulting with the primary advisor. (The form is available on pages 64-66 and can be downloaded from the Faculty of Engineering website)

1-2 授業科目等

授業科目は、講義科目、有機材料システム特別演習B、有機材料システム研究計画（プロポーザル）、有機材料システム特別計画研究、有機材料システム特別教育研修及び有機材料システム特別実験Bである。

(1) 講義科目

講義科目は専門科目とグローバル・実践科目から成る。研究を遂行し発展させるための専門的知識と能力を、高度かつ総合的に涵養するために、関連する専門分野の講義科目に偏ることなく履修する。

(2) 有機材料システム特別演習B

専門分野関係の研究グループ内で、最新の文献の輪講などを、1年間を通じて行う演習科目である。合格・不合格の判定は、主指導教員が行う。

(3) 有機材料システム研究計画（プロポーザル）……（様式1）

授業科目の修得が進んだ段階で、専門分野の社会的ニーズに関して予備的実験や計算を行い、関連する国内、国外の研究状況についての調査・検討を踏まえて、それを将来性のある独創的な研究課題として提案する科目である。研究の目的、手段、期待される成果などを口頭で発表し、指導教員グループの審査を受ける。合格・不合格の判定は、主指導教員が行う。

(4) 有機材料システム特別計画研究……（様式2）

工学に対する視野を広め、問題提起・解決能力を養うために、産業の現場、各種研究施設又は他専門分野の研究室において、専門以外の領域の開発や生産などの実習及び情報収集に携わる実習科目である。

学生は、実習からの課題と調査・検討結果を報告書にまとめ、発表する。成績の評価は、主

指導教員が依頼した受入責任者が行う。

なお、ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が主催する「ジョブ型研究インターンシップ」における実習も、本科目の対象とする。

(5) 有機材料システム特別教育研修……（様式3及び4）

知識及び技術の教授法を研修すると同時に、共同作業における指導力を養うための実習科目であり、次の三つの中から選択する。

- ① 学部学生や博士前期課程（修士課程）学生の実験又は演習の指導
 - ② 学部学生や博士前期課程（修士課程）学生の学術講演会、シンポジウム等における原稿作成と発表技術の指導
 - ③ 企業等の生産・開発担当者に対する研究・技術指導
- ただし、①の実験又は演習は1学期分程度とする。②及び③の指導も同程度の時間数とする。合格・不合格の判定は、主指導教員が行う。

(6) 有機材料システム特別実験B

学位論文に関して所属専攻で行う実験である。数値シミュレーション、理論的思考実験なども含まれる。成績の評価は、主指導教員が行う。

＊ 「有機材料システム特別計画研究」及び「有機材料システム特別教育研修」について、入学以前に企業等で積んだ経験の読替を希望する場合には、科目履修認定申請書（様式5）により申請すること。ただし、科目履修認定申請書を提出した場合であっても、「特別計画研究審査報告書（様式2）」及び「特別教育研修終了報告書（様式4）」の提出は必要である。

国際社会で活躍するためには、外国語（特に英語）に関する力を十分に身に付ける必要があることは言うまでもない。積極的に外国語論文の執筆・投稿や国際会議における口頭発表を行うことが望ましい。

学位論文を執筆しようとする者は、研究の目的、手法の独創性と成果の有用性並びに論文構成と内容公開の計画について、論文計画として、指導教員グループを含んで構成される論文計画審査委員の審査を受けなければならない。

1-2 Class Subjects etc.

Subjects include Lecture Subjects, Special Exercises on Organic Materials Science B, Research Proposal on Organic Materials Science (Proposal), Special R&D Training on Organic Materials Science, Special Educational Training on Organic Materials Science, and Special Experiments on Organic Materials Science B.

(1) Lecture Subjects

Lecture subjects consist of Specialization Subjects and Global & Practical Subjects. Students must take lecture subjects in related specialized fields without bias so that they can cultivate advanced and comprehensive specialized knowledge and abilities to conduct research.

(2) Special Exercises on Organic Materials Science B

This is an exercise subject where students review the latest literature throughout the year in research groups related to their fields of expertise. The primary advisor determines the grade evaluation.

(3) Research Proposal on Organic Materials Science (Proposal)...(Submission Form 1)

As a part of this subject, students conduct preliminary experiments and calculate social needs related to their field of specialization and propose original research projects with future potential, after considering relevant domestic and international research. Students orally present the research objective, means, expected results, etc., which are reviewed by the group of faculty advisors. The primary advisor shall determine the pass/fail status for this subject.

(4) Special R&D Training on Organic Materials Science...(Submission Form 2)

In this practical training subject, students engage in practical training and information gathering related to development and production in fields other than their specialization. This takes place at industrial sites, various research facilities, or in laboratories of other specializations, with the aim of broadening their perspective on engineering and developing their problem-setting and problem-solving abilities.

Students summarize and present issues, their investigation, and the results obtained from their practical training. The evaluation of grades is carried out by the person in charge of the internship upon the primary advisor's request.

Furthermore, practical training in job-oriented research internships sponsored by the Job-Oriented Research Internship Promotion Council also falls under this subject.

(5) Special Educational Training on Organic Materials Science.....(Submission Forms 3 and 4)

This is a practical subject that teaches skills in collaborative work while training students in teaching methods for knowledge and technology, selecting one from the following three.

- ① Instructing undergraduate and Master's program students in experiments or exercises
- ② Instructing undergraduate and Master's program students in the preparation of papers and presentation techniques for academic lectures, symposia, etc.
- ③ Research and technical guidance for those in charge of production and development at companies, etc.

However, the experiments or exercises in ① are limited to approximately one semester. ② and ③ have the same number of hours.

The primary advisor determines the grade evaluation.

(6) Special Experiments on Organic Materials Science B

Experiments conducted in the student's affiliated major related to the thesis. Also includes numerical simulations, theoretical thinking experiments, etc. The primary advisor determines the grade evaluation.

* Students wishing to transfer their experience gained working at a company, etc., before enrolling for “Special R&D Training on Organic Materials Science” and “Special Educational Training on Organic Materials Science” may do so by applying through the Application for Certificate of Course Completion (Form 5). However, students must also submit the “Supervisor Opinions” (Note) and “Report on Completion of Special Education and Training (Form 4)” along with the Application for Certificate of

Course Completion. Note... The primary advisor may prepare this form only if replacing experience gained at a company, etc., before enrolling.

Students must acquire sufficient skills in foreign languages (especially English) so that they may play an active role in the international community. Students should actively write and submit foreign language papers and make oral presentations at international conferences.

Those intending to write a thesis should prepare a thesis plan that describes the research objective, originality of methods and usefulness of results, and thesis structure, and they must plan for the publication of the contents, which must be reviewed by a thesis plan review committee comprising the group of faculty advisors.

1－3 履修届

- (1) 学生は、学期始めに履修科目について主指導教員と相談の上、授業科目を決定すること。
- (2) 履修科目一覧に履修授業科目を記入し主指導教員の承認を得た上で、所定の期間内に教育支援担当に提出すること。なお記入する際は、事前に各授業担当教員に受講の許可を得ること。
- (3) 履修申告をした授業科目以外の科目は履修できないことがあるので、十分注意すること。また、履修する科目が実習、演習及び実験科目だけであっても申告すること。

1-3. Course Registration

- (1) Students will consult with their primary advisor at the beginning of the semester to determine the class subjects they must take.
- (2) Students must enter the course subjects in the list of courses to take, obtain the approval of the primary advisor, and submit it to the Academic Support Section within the prescribed period. When filling out the list of subjects, permission must be obtained in advance from the teachers in charge of each class.
- (3) Please note that students may not be able to take courses other than those for which they have registered. Subjects must be registered even if they are only practicals, exercises, and experiment subjects.

1－4 成績の審査及び単位の基準

博士前期課程の場合に準ずる。

1-4 Evaluation of Grades and Credit Criteria

Same as those for the Master's Program.

1－5 履修基準

修了に必要な最低修得単位数は、必修科目 12 単位（有機材料システム特別演習 B：2 単位，有機材料システム研究計画：2 単位，有機材料システム特別計画研究：2 単位，有機材料システム特別教育研修：2 単位，有機材料システム特別実験 B：4 単位），選択科目 6 単位（講義科目）の合計 18 単位である。

博士後期課程履修基準表

授業科目区分	単 位 数
講義科目（専門科目およびグローバル・実践科目）	6単位以上
有機材料システム特別演習 B	2 単 位
有機材料システム研究計画	2 単 位
有機材料システム特別計画研究	2 単 位
有機材料システム特別教育研修	2 単 位
有機材料システム特別実験 B	4 単 位

1-5 Criteria for Course Completion

Students must acquire a minimum of 18 credits for completion: 12 credits from the Required Subjects (Special Exercises on Organic Materials Science B: 2 credit; Research Proposal on Organic Materials Science: 2 credits; Special R&D Training on Organic Materials Science: 2 credits; Special Educational Training on Organic Materials Science: 2 credit; and Special Experiments on Organic Materials Science B: 4 credits) and 6 credits from lecture subjects.

Doctoral Program Course Completion Criteria Table

Class Subject Classification	Number of Credits
Lecture Subjects	At least 6 Credits
Special Exercises on Organic Materials Science B	2 Credits
Research Proposal on Organic Materials Science	2 Credits
Special R&D Training on Organic Materials Science	2 Credits
Special Educational Training on Organic Materials Science	2 Credits
Special Experiments on Organic Materials Science B	4 Credits

1-6 博士論文の審査及び最終試験

履修基準の授業科目を修得する見込みが付き、必要な研究指導を受けた学生は、論文計画の審査に合格した後に、博士論文を作成し、審査申請することができる。

提出された論文は、研究科委員会が選出する論文審査委員により審査される。

博士後期課程の学位論文審査基準及び最終試験審査基準は以下のとおりである。

大学院有機材料システム研究科博士後期課程学位論文審査基準

- (a) 研究テーマに新規性・独自性があること。
- (b) 自ら研究を計画・遂行するための専門的知識を基に、研究背景・目的が正しく述べられていること。
- (c) 学位論文の構成が適切で、体裁が整っていること。
- (d) 学位論文の記述が論理的で、設定した研究テーマに沿った明確な結論が述べられていること。

博士後期課程最終試験審査基準

研究内容を明確に説明し、これに関連のある質問について口頭又は筆答によりの的確に応えられること。

1-6 Thesis Review and Final Examination

After completing the required classes for the criteria for course completion, receiving the necessary research guidance, and passing their thesis plan review, students can prepare their doctoral degree thesis and apply for review following the prescribed procedures.

After the preliminary review, the submitted theses will be reviewed by thesis examiners selected by the Graduate School Committee.

Theses that do not pass the preliminary examination will not be reviewed.

The criteria for the thesis review and final examination of the Doctoral Program are as follows:

Graduate School of Organic Materials Science Doctoral Thesis Review Criteria

- (a) The research theme must be novel and original.
- (b) The research background and objective must be correctly stated according to the expertise required to plan and carry out the research.
- (c) The thesis structure should be appropriate and properly formatted.
- (d) The thesis description should be logical, with a clear conclusion stated according to the research theme outlined.

Doctoral Program Final Examination Criteria: Applicants must be able to clearly explain the contents of their research and accurately answer oral or written questions related to it.

1-7 修了要件

- (1) 博士後期課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、履修基準表の18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することである。
- (2) 在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者は、博士前期課程（修士課程）、博士後期課程を通算して、3年以上在学すれば足りるものとする。

なお、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められて入学した者の在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

ただし、「1年」とあるのは「博士後期課程の標準修業年限3年から修士課程又は博士前期課程における在学期間を減じた期間」と読み替えるものとする。

1-7. Requirements for Completion

- (1) Requirements for completing the doctoral program are enrollment in the graduate school for at least three years; acquiring at least 18 credits according to the Criteria for Course Completion Table; and receiving the necessary research guidance, passing the doctoral thesis review, and successfully completing the final examination.
- (2) For students who have particularly excellent research achievements, a period of a minimum of three years of enrollment in the Master's Program (Master's Course) and the Doctoral Program taken together may be sufficient.

Regarding the enrollment period of those with academic ability equivalent to or higher than those with a Master's Degree, an enrollment period of at least one year may be sufficient if they have attained excellent research achievements.

The term “one year” may be replaced with “the duration obtained by subtracting the period of enrollment in a Master's course or Master's program from the standard three-year enrollment period of a doctoral program.”

1－8 学位の授与

有機材料システム研究科博士後期課程を修了した者は、博士（工学）の学位が授与される（後掲「山形大学学位規則」別表参照）。

1-8 Conferral of Degrees

Students who have completed the Doctoral Program with the Graduate School of Organic Materials Science will be awarded a Doctoral Degree (Engineering or Philosophy) (see the attached “Yamagata University Degree Regulations”).

1－9 社会人受入れのための教育方法の特例措置について

本研究科では、社会人受入れに当たり、教育上特に必要と認められる場合には、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し、次の方法で履修できるものとする。

- (1) 通常の時間帯（8時50分から16時10分）以外に、夜間の時間帯（16時20分から21時10分）に授業及び研究指導を受けることができるものとする。
- (2) 土曜・日曜日にも授業及び研究指導を受けることができるものとする。
- (3) 必要に応じて夏季・冬季休業期間中にも授業及び研究指導を受けることができるものとする。
- (4) 特例の時間帯、時期による授業及び研究指導を受けることを希望する者は、当該年度当初に教育方法の特例適用申請書を提出し、主指導教員の承認を得た上、授業担当教員の許可を得るものとする。

なお、上記のほか、必要に応じて、パソコンやタブレット、モニターなどのICTツールを使った遠隔授業及び研究指導を受けることができる。希望する場合は、担当教員に相談すること。

1-9 Special Measures for Educational Methods for Accepting Working Adults

In this Graduate School, when the acceptance of working adults is deemed particularly necessary from an educational perspective, special measures for educational methods, as provided in Article 14 of the Standards for Establishment of Graduate Schools, shall be applied, allowing students to take courses in the following ways:

- (1) In addition to regular hours (8:50–16:10), classes and research guidance will be provided during evening hours (16:20–21:10).
- (2) Classes and research guidance shall also be provided on Saturdays and Sundays.
- (3) Classes and research guidance shall be provided during summer and winter vacations as necessary.
- (4) Students wishing to take classes and research guidance at specially appointed times and durations must submit an application for the special application of educational methods at the beginning of the academic year, obtain their primary advisor's approval, and obtain permission from the faculty in charge of the class.

In addition to the above, remote classes and research guidance shall be conducted using ICT tools such as PCs, tablets, and monitors, as required. Students wishing to utilize this are requested to consult with the teacher in charge.

1-10 博士課程5年一貫教育プログラムにおける履修方法について

博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」プログラムを履修している学生の履修については、別に定める博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」履修要項※1に記載する内容に従うものとする。

※1 「フレックス大学院」履修要項は、ホームページ (<https://iflex.yz.yamagata-u.ac.jp>) からダウンロード可能

1-10 Course Registration Procedure for the 5-Year Integrated Doctoral Program

The course of the five-year integrated doctoral “Flex Graduate School” program shall be carried out according to the specially stipulated requirements in the “Flex Graduate School” Course Guidelines (*) for this program.

* The Flex Graduate School course requirements may be downloaded from the website (<https://iflex.yz.yamagata-u.ac.jp>).

【学位審査に係る相談・通報窓口について】

山形大学では、本学が授与する学位の審査における透明性及び客観性を確保するため「学位審査に係る相談・通報窓口」を設置しています。学位の審査や取得に関して疑義が生じた場合は、エンロールメント・マネジメント部教務課にご相談等してください。

電 話 : 023-628-4841
メールアドレス : yu-kyoiku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

なお、相談された方がそのことを理由に不利益な取り扱いを受けることはありませんので、ご安心ください。

[Regarding the Consultation and Reporting Desk for Degree Examinations]

Yamagata University has established the “Consultation and Reporting Desk for Degree Examinations” to ensure transparency and objectivity in the evaluation of degrees awarded by the University. Students with any concerns about the evaluation or acquisition of their degree are requested to consult the Academic Division of the Enrollment Management Department.

Phone: 023-628-4841
email: yu-kyoiku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

Students can rest assured that this consultation will not result in unfavorable treatment.

年 月 日

研究課題

学生番号 氏名

Patient Information	
Full Name	
Date of Birth	
Gender	
Address	
City	
State	
Zip	
Phone	
Medical History	
Current Medications	
Previous Surgeries	
Chronic Conditions	
Family History	
Physical Examination	
Vital Signs	
General	
Head	
Eyes	
Ears	
Nose	
Throat	
Heart	
Lungs	
Abdomen	
Extremities	
Neurological	
Laboratory Tests	
Complete Blood Count	
Basic Metabolic Panel	
Liver Function Tests	
Uric Acid	
Urine Analysis	
Imaging Studies	
X-ray	
CT Scan	
MRI	
Ultrasound	
Treatment Plan	
Medications	
Procedures	
Follow-up	
Patient Education	
Instructions	
Referrals	
Physician Information	
Physician Name	
Physician Title	
Physician Address	
Physician City	
Physician State	
Physician Zip	
Physician Phone	

副指導教員 (印)

(S, A, B, Cの評語で表す。)

年度 研究計画書（一年目）

専攻名		学生番号	
氏名			
研究題目			
研究期間	年 月 日（入学年月日）～ 年 月 日（修了予定年月日）		
研究の背景			
目的			
指導教員	主指導教員		副指導教員
研究実施計画	【一年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【二年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【三年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
研究指導計画	研究指導計画：主指導教員が記入		
研究倫理教育確認欄	科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）を通読しました。 年 月 日 (署名)		

(署名又は記名・押印)

- *初年次に作成し、指導教員の承認を得て提出すること。
- *二年目以降はそれまでの研究実績に基づき、各年の様式に修正・加筆の上、提出すること。
- *長期履修学生及び過年度生は、在学期間分の研究実施計画を記載すること。

年度 研究計画書(二年目)

専攻名			学生番号		
氏名					
研究題目					
研究期間	年 月 日（入学年月日）～		年 月 日（修了予定年月日）		
研究の背景					
目的					
指導教員	主指導教員		副指導教員		
研究実施計画	【一年目】				
	4月～ 6月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	7月～ 9月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	10月～12月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	1月～ 3月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	【二年目】				
	4月～ 6月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	7月～ 9月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	10月～12月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	1月～ 3月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
	【三年目】				
	4月～ 6月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
7月～ 9月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○			
10月～12月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○			
1月～ 3月		○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○			
研究指導計画	研究指導計画：主指導教員が記入				
研究倫理教育 確認欄	科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）を通過しました。 年 月 日 (署名)				

*二年目以降はそれまでの研究実績に基づき、二年目の様式に修正・加筆の上、主指導教員の承認を得て提出すること。

*長期履修学生及び過年度生は、在学期間分の研究実施計画を記載すること。

年度 研究計画書(三年目)

専攻名		学生番号	
氏名			
研究題目			
研究期間	年 月 日（入学年月日）～ 年 月 日（修了予定年月日）		
研究の背景			
目的			
指導教員	主指導教員		副指導教員
研究実施計画	【一年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【二年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 【三年目】 4月～6月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 7月～9月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 10月～12月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 1月～3月 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○		
研究指導計画	研究指導計画：主指導教員が記入		
研究倫理教育確認欄	科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）を通読しました。 年 月 日 (署名)		

(署名又は記名・押印)

- * 三年目以降はそれまでの研究実績に基づき、三年目の様式に修正・加筆の上、主指導教員の承認を得て提出すること。
- * 長期履修学生及び過年度生は、在学期間分の研究実施計画を記載すること。

【様式2】

年 月 日

特別計画研究審査報告書

研究課題

年度入学有機材料システム研究科博士後期課程

有機材料システム専攻

学生番号 氏名

評 価

(S, A, B, Cの評語で表す)

発表年月日 年 月 日

主指導教員 印

受入責任者 印

【様式3】

年 月 日

特別教育研修申請書

有機材料システム研究科長 殿

標記のことについて、下記の方法での履修を申請します。

学 生 番 号	専 攻 名	氏 名
	有機材料システム専攻	

*各自が選択するものに○をつけること。

① 学部学生又は博士前期課程学生の実験又は演習の指導

科 目 名	開講年次	開講曜日	開講時間帯
		曜日	～ 校時

② 学部学生又は博士前期課程学生の学術講演会，シンポジウム等における原稿作成と発表技術の指導

③ 企業等の生産・開発担当者等に対する研究・技術指導

主指導教員

_____ ㊞

年 月 日

有機材料システム研究科長 殿

学 生 番 号	専 攻 名	氏 名
	有機材料システム専攻	
場 所	期 間	時 間
	年 月 日 ～ 年 月 日	～
〈研修内容〉		

印

【様式5】

年 月 日

科目履修認定申請書

有機材料システム研究科長 殿

標記のことについて、下記のとおり申請します。

学 生 番 号	専 攻 名	氏 名
	有機材料システム専攻	

〈申請事項〉

対象科目名	対 象 と な る 職 務 経 験

*対応する具体的な研究・開発歴も記入すること。

主指導教員

_____ 印

博士後期課程の履修モデル

	1 年次	2 年次	3 年次
講 義	講 義 科 目 (6 単位以上)		
実 習	有機材料システム 特別計画研究 (2 単位, 必修) 有機材料システム 特別教育研修 (2 単位, 必修)		
演 習 ・ 実 験	有機材料システム特別演習 B (2 単位, 必修) 有機材料システム特別実験 B (4 単位, 必修)		
研 究	論文執筆・投稿(英語によるものを含む)・学会発表		論文 計画 学位論文作成 学位論文審査 学位論文公聴会 最終試験
		有機材料システム研究計画 [フ・ホーザル] (2 単位, 必修)	

2. 博士学位論文審査の手引

履修基準の授業科目を修得する見込みがつき、必要な研究指導を受けた学生は、論文計画の審査に合格した後に、博士学位論文を作成し、所定の手続を経て審査申請することができる。提出された論文は、有機材料システム研究科学学位審査細則に従って審査される。学位論文審査の流れは、2-4の図に示すとおりである。

2. Thesis Review Guidelines

After completing the required classes for the criteria for course completion, receiving the necessary research guidance, and passing their thesis plan review, students can prepare their doctoral degree thesis and apply for review following the prescribed procedures. The submitted thesis will be reviewed in accordance with the Graduate School of Organic Materials Science Degree Review Regulations. The flow for the thesis review is shown in Figure 2-4.

2-1 論文計画の提出

「論文計画審査申請書」「論文計画内容」「内容公開」（各々所定の様式）を作成し、主指導教員に提出する。

論文計画の審査は指導教員グループが当たり、後期に学位論文を提出する場合（3月修了）は、前年の10月末日までに審査を実施する。また、前期に学位論文を提出する場合（9月修了）は、4月末日までに審査を実施する。

2-1 Submission of the Thesis Plan

Students should prepare the “Application for Review of the Thesis Plan,” “Thesis Plan Contents,” and “Publishing of Contents” (all in the prescribed form) and submit them to their primary advisor.

The Thesis Plan review shall be carried out by the faculty advisor group; it will be conducted at the end of October for theses submitted in the second semester (March completion). It will be conducted at the end of April for theses submitted in the first semester (September completion).

2-2 論文題目の提出

論文計画審査に合格した後、所定の様式に記入し、指導教員の承認を得て教育支援担当に提出する。

提出期限（休日の場合は、その前日又は前々日とする。）

- ① 後期提出（3月修了）の場合： 10月末日
- ② 前期提出（9月修了）の場合： 4月末日

2-2 Submission of Thesis Title

After passing the Thesis Plan Review, students should fill in the prescribed form, obtain their advisors' approval, and submit it to the Academic Support Section.

Submission Deadline (In case of a holiday, the deadline will be the day before the holiday or a day prior to that.)

- ① Second Semester (completion in March): End of October
- ② First Semester (completion in September): End of April

2-3 博士学位論文の審査申請

「学位論文審査申請書」に学位論文等を添えて、指導教員グループの承認を得た後、教育支援担当に提出する。学位論文は、2-5に示す「博士学位論文作成要領」を基に作成する。

(1) 学位論文の審査申請書類等、及び提出部数

- ① 学位論文審査申請書（所定の様式）…………… 1部
- ② 学位論文（このほか審査に必要な部数を作成する）…………… 全文の電子データ
- ③ 論文目録（所定の様式）…………… 5部
- ④ 論文内容要旨（和文及び英文）（所定の様式）…………… 各5部
- ⑤ 履歴書（所定の様式）…………… 1部
- ⑥ 共著者の同意書（所定の様式）…………… 各4部
- ⑦ 論文目録に記載した論文の別刷又は投稿中の論文原稿の写し
及びその掲載決定通知の写し…………… 各1部
（掲載決定していない場合は、投稿原稿の受付を証明するもの）

(2) 提出期限（休日の場合は、その前日又は前々日とする。）

- ① 後期提出（3月修了）の場合： 12月20日
- ② 前期提出（9月修了）の場合： 7月 1日

2-3 Application for Thesis Review

Submit the Application for Thesis Review along with the thesis and other materials to the Academic Support Section after receiving the approval of the group of faculty advisors.

The thesis must be prepared according to the “Doctoral Thesis Preparation Guidelines” given in 2-5.

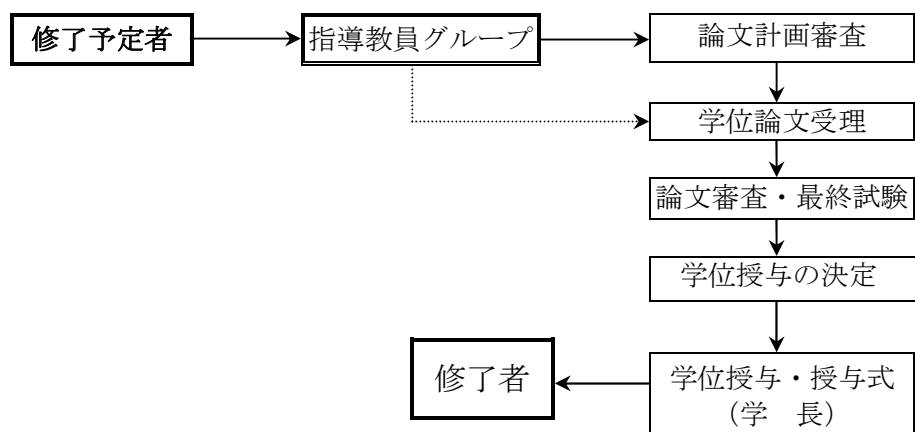
(1) Documents to be submitted for the Thesis Review and Number of Copies to be Submitted

- ① Application for Review of the Academic Thesis (Prescribed Form) 1 Copy
- ② Thesis (in addition to this, prepare the number of copies required for the review)
Electronic Data of Full Text
- ③ List of Papers (in the prescribed form) 5 Copies
- ④ Thesis Abstract (Japanese and English) (prescribed form) 5 Copies each
- ⑤ Curriculum Vitae (in the prescribed form) 1 Copy
- ⑥ Letter of Consent from Co-authors (prescribed form) 4 Copies Each
- Offprints of the thesis as given in the List of Papers or a copy of the under-submission manuscript and a copy of the notice of the decision to publish 1 Copy Each
(If the manuscript is not accepted for publication, proof of acceptance of the manuscript must be submitted.)

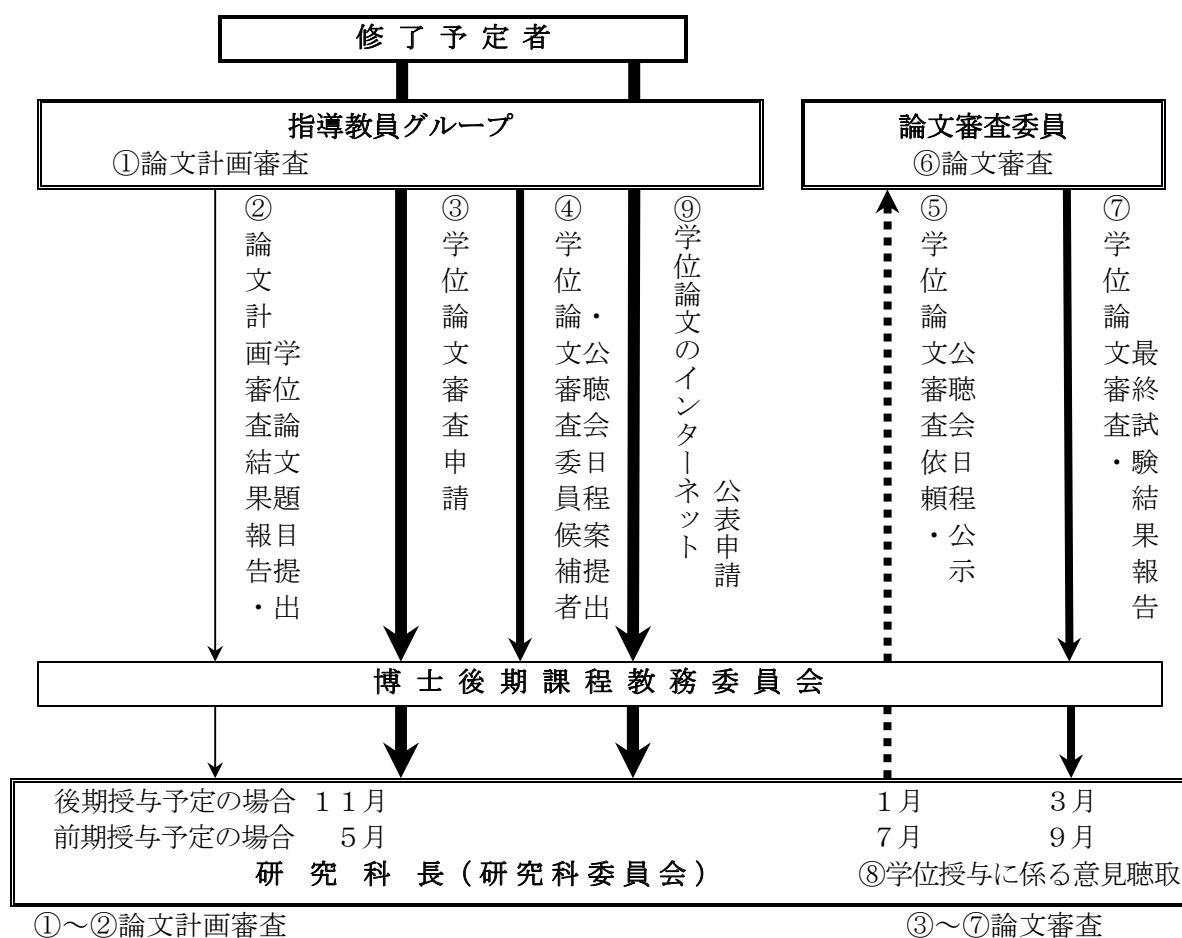
(2) Submission Deadline (In case of a holiday, the deadline will be the day before the holiday or a day prior to that.)

- ① Second Semester Submission (completion in March): December 20
- ② First Semester (completion in September): July 1

2-4 博士学位論文審査から学位授与までの流れ・博士学位論文審査に関わる 手続の流れ



博士学位論文審査から学位授与までの流れ



2-5 博士学位論文作成要領

1 学位論文

- (1) 学位論文は、和文又は英文とする。
- (2) 目次をつけページを記入する。ページの位置は、下部中央とする。
- (3) 用紙は、A4判白色紙を使用し、縦位置で横書きとする。
- (4) 学位論文の表紙には、論文題目、研究科名、氏名を記載する。また、学位論文が英文の場合には、論文題目の下に（ ）書きで和訳を付記する。
- (5) 学位論文は、パソコン、ワープロ等活字で作成することとし、手書きの場合は黒ボールペンを用いて楷書で清書する。英文はすべてパソコン、タイプ、ワープロ等の活字とする。
- (6) 学位論文の形式・頁数は特に指定しないが、図、表、写真も含めて、内容が理解し易いような適切な形式とする。
- (7) 参考文献は、著者（全員）、題名、学術雑誌名（書物名）、出版社、巻、号、頁（始頁－終頁）及び発表年（西暦）を明記すること。

2 学位論文内容要旨

- (1) 用紙は、A4判白色紙を使用し、縦位置で横書きとすること。
- (2) 所定の様式により、和文の要旨と英文の要旨の両方を作成すること。
- (3) 和文の要旨は、10pt、2,000字程度（2頁以内）、英文の要旨は、12pt、シングルスペース、300語程度とすること。

2-5 Doctoral Thesis Preparation Guidelines

1. Thesis

- (1) The thesis should be written in Japanese or English.
- (2) Add the table of contents along with page numbers. Page numbers should be positioned at the bottom center of the page.
- (3) The thesis must be written horizontally on a vertical A4-sized paper.
- (4) The cover page of the thesis should mention the thesis title, the major, and the applicant's name. If the thesis is in English, the Japanese translation of the title should be noted below it in parentheses.
- (5) The dissertation should be typed using a computer, word processor, etc.. If it is handwritten, it should be in printed form and a black ballpoint pen should be used. All text in English should be typed using a computer or word processor, etc.
- (6) There is no specified format or number of pages for the thesis, but it should be in an appropriate format, including diagrams, tables, and photographs, such that the contents are easy to understand.
- (7) The bibliography shall mention the books (all), titles, academic journal names (book titles), publishers, volume, page numbers (first-last), and year of publication.

2 Thesis Abstract

- (1) The abstract must be written horizontally on a vertical A4-sized paper.

- (2) Both the Japanese language abstract and the English language abstract should be prepared according to the prescribed format.
- (3) The Japanese language abstract should be within 2,000 characters (up to 2 pages) in 10pt, and the English language abstract should be in approximately 12pt, single-spaced, and approximately 300 words.

2-6 学位論文公表に関する書類の提出

学位授与決定後、学位論文公表に関する下記の書類を速やかに提出してください。

- ①別記様式1：博士学位論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ登録）確認書
- ②別記様式2：理由書（該当者のみ）
- ③別記様式3：論文内容要約

2-6 Submission of Documents Related to the Thesis Publication

After the decision to confer the degree has been made, students must promptly submit the following documents related to the thesis publication:

- ① Appendix Form 1: Confirmation of Internet Publication of the Doctoral Thesis (University Repository Registration)
- ② Appendix Form 2: Statement of Reasons (only if applicable)
- ③ Appendix Form 3: Summary of the Thesis Contents

2-7 博士学位論文審査申請に係る提出様式

次ページから記してある各種申請書類は、工学部ホームページから様式をダウンロードできます。

●ダウンロード方法

1. 山形大学のホームページから「学部・研究科・基盤共通教育」の学部「工学部」をクリックし、「工学部ホームページへ」をクリック
2. 「在学生の方」をクリック
3. 「大学院の授業、学位審査」の「学位論文の申請（後期課程）」をクリック

2-7 Submission Form for Application for Doctoral Thesis Review

The application forms listed on the next page may be downloaded from the Faculty of Engineering website.

● Method of Download

1. From the Yamagata University homepage, navigate to “**Faculties and Schools**” and click on the “**Faculty of Engineering Website**”
2. Click on “**Current Students**”
3. Under “**Graduate Course Classes, Degree Examination,**” click on “**Thesis Applications (Doctoral Program)**”

年 月 日

主 指 導 教 員 殿

年度入学 大学院博士後期課程

有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ 印

論文計画審査申請書

山形大学大学院有機材料システム研究科学位審査細則第12条第1項の規定により、下記のとおり申請します。

記

論文題目（仮題目） （英文の場合は、その和訳を（ ）を付して併記すること。）

論文計画内容

年度入学 有機材料システム専攻

学生番号_____ 氏 名 _____

〈論文題目（仮題目）〉

〈内 容〉

年 月 日

内 容 公 開

有機材料システム専攻

学 生 番 号

氏 名 _____

[論 文]

- ① Taro Yamagata, Jiro Yonezawa, △△△△△△△△△△△△△△△△ (論文名) (投稿準備中).
- ② 山形太郎, 米沢二郎, 東北三郎, △△△△△△△△△△△△△△△△ (論文名),
×××××××××× (誌名) (投稿中).
- ③ 山形太郎, 米沢二郎, 東北三郎, △△△△△△△△△△△△△△△△ (論文名),
×××××××××× (誌名) (印刷中).
- ④ Taro Yamagata, Jiro Yonezawa, △△△△△△△△△△△△△△△△ (論文名),
×××××××××× (誌名), Vol. 56, No. 3, PP. 234-238, (2007. 10).
- ⑤ 山形太郎, 米沢二郎, 東北三郎, △△△△△△△△△△△△△△△△ (論文名),
×××××××××× (誌名), 第30巻, 第2号, PP. 345-349, (2006. 2) .

- (注) ①全著者名(本人氏名に下線を引く), 論文名, 発表機関(学術雑誌名, 巻, 号, ページ: 始頁-終頁), (発表年月)を記入し, 最後に「.」(ピリオド)を記入してください。
- ②学位論文審査のための条件を満たす論文は, その番号を○で囲んでください。なお, ○をつけた論文については, 共著者がいる場合, 学位論文審査申請時に同意書を提出する必要があります。
- ③新しいものから古いものへ遡って年代順に記入してください。
- ④印刷中の場合は(印刷中), 投稿中の場合は(投稿中), 準備中の場合は(投稿準備中)と記入してください。

[国際会議]

- (1) Taro Yamagata, Jiro Yonezawa, △△△△△△△△△△△△△△△△ (タイトル),
××××××× (会議名), Yonezawa, Japan, PP. 456-457, (2007. 6).

- (注) ①全著者名(本人氏名に下線を引く), タイトル, 会議名, 開催地, ページ: 始頁-終頁, (開催年月)を記入し, 最後に「.」(ピリオド)を記入してください。
- ②新しいものから古いものへ遡って年代順に記入してください。

記載例及び(注)の部分は削除して使用してください。

主指導教員 _____ 印

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科長 殿

年度入学 大学院博士後期課程

有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ 印

論文題目提出書

山形大学大学院有機材料システム研究科学位審査細則第17条第2項の規定により、下記のとおり提出します。

記

論文題目（英文の場合は、その和訳を（ ）を付して併記すること。）

指導教員グループ承認印				

様式1-1

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科長 殿

年度入学 大学院博士後期課程

有機材料システム専攻

学生番号

氏 名 _____ 印

学位論文審査申請書

山形大学学位規程第18条第1項の規定により、博士（工学）の学位を受けたいので、下記の書類を添えて申請します。

記

- | | |
|------------------|----------|
| 1. 学 位 論 文 | 全文の電子データ |
| 2. 論 文 目 録 | 5部 |
| 3. 論 文 内 容 要 旨 | 各5部 |
| 4. 履 歴 書 | 1部 |
| 5. 共 著 者 の 同 意 書 | 各4部 |
| 6. 論 文 別 刷 | 各1部 |

指 導 教 員 グ ル ー プ 承 認 印

--	--	--	--	--

年 月 日

有機材料システム専攻

氏 名 印

- (○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○)

④掲載決定通知書のあるものは、その写しを添付し、(印刷中)又は(掲載決定)と記入してください。

主指導教員 印

論文内容要旨 (和文)

氏 名 _____ 印 _____

(○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○)

[illegible]

(注) 図表は用いないでください。

記載例及び（注）の部分は、削除して使用してください。

氏 名 _____

論文內容要旨 (英文)

氏 名 _____ 印

論 文 題 目 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

[illegible]

(注) 図表は用いないでください。

記載例及び（注）の部分は、削除して使用してください。

氏 名 _____

様式1-4

履 歴 書			
ふりがな		男・女	年 月 日生 (満 歳)
氏 名			
本 籍	都 道 府 県	現 住 所	〒 〇〇 〇〇 〇〇 市 〇〇 町 〇 丁目 〇 番 〇 号 電話 () -
学歴 (高等学校卒業以降)・職歴・研究歴・賞罰等について、各項目別にまとめて記入すること。			
項 目	年	月	事 項
学 歴			〇〇立〇〇高等学校卒業
			〇〇大学〇〇学部〇〇学科入学
			同上 卒業
			〇〇大学大学院〇〇研究科博士前期課程〇〇専攻入学
			同 上 修了
			〇〇大学大学院〇〇研究科博士後期課程〇〇専攻入学
			同 上 修了見込み
職 歴			
研 究 歴			研究期間，研究事項及び研究機関を明記すること。
賞 罰			
所属学会			
上記のとおり相違ありません。			
年 月 日			
氏 名 ㊟			

(注) ① 「年月日」は，申請日（論文提出日）とします。
② 「氏名」は戸籍のとおり記載し，通称・雅号等は一切用いないでください（他の書類についても同様とします。）。
③ 「本籍」は，都道府県名のみ記入してください（外国人は国籍を記入します。）。
④ 「現住所」は，住民票に記載されている住所（公称地名・地番）を記入し，連絡上必要がある場合は，団地名，宿舍名，番号等も記入してください。
⑤ 「学歴」欄は，原則として高等学校卒業以降順を追って記入してください。
⑥ 「職歴」欄は，常勤の職について，その勤務先，職名を順を追って記入してください。
ただし，非常勤の職であっても，特に教育・研究に関するものについては記入することが望ましい。また，現職については，当該職について記入した箇所に「現在に至る。」と明記してください。
記載例及び(注)の部分は，削除して使用してください。

様式1-5

同意書 (Form of Consent)

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日 (Year: _____ Month: _____ Day: _____)

山形大学大学院有機材料システム研究科長 殿

To: Dean of Yamagata University Graduate School of Organic Materials Science

氏 名 (Name) : 〇 〇 〇 〇 印 or Signature

所 属 (Affiliation) : _____

現住所 (Current Address) : _____

私は、私と共著（共同研究）の下記の論文を 〇 〇 〇 〇 が貴研究科に対して博士学位論文審査のために提出することに同意します。

I consent to the submission of the following paper(s), coauthored by 〇 〇 〇 〇 and myself to your University as part of the requirements for his/her Doctoral degree. なお、私は当該論文を自身の学位申請のためには使用いたしません。

I also agree not to use the same paper(s) for any academic degree of my own.

記

(1) 論 文 名 (Title) : 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

発 表 機 関 (Publisher) : 学術雑誌名 (Journal), 巻 (Vol.), 号 (No.), ページ (pp) (始頁－終頁 (first-last page)), (発表年月 (date of publication)).

(2) 論 文 名 (Title) : 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

発 表 機 関 (Publisher) : 学術雑誌名 (Journal), 巻 (Vol.), 号 (No.), ページ (pp) (始頁－終頁 (first-last page)), (発表年月 (date of publication)).

(注) 本同意書は、論文目録に記した関連論文の共著者（研究共同者）が記入・署名し、それによって当該論文を申請者が博士学位審査のために使用し、併せて共著者本人の学位申請のためには使用しないことを誓約する書類です。

This Form of Consent is to be completed by the coauthor (co-researcher) of the above listed paper(s). By signing it, the coauthor consents to the Doctoral degree applicant's use of the paper(s) for his/her Doctoral degree, and agrees not to use the same paper(s) for the coauthor's own academic degree.

(注) ① 共著者のうち、博士の学位を有する者については、同意承諾書の文中「私は当該論文を自身のいかなる学位申請のためにも使用いたしません。」旨の文章は削除したものとします。

If the coauthor has already obtained his/her Doctoral degree, the statement, "I also agree not to use the same paper for any academic degree of my own." will be treated as null.

② 「年月日」は、申請日（論文提出日）以前でなければなりません。

The date of this Form of Consent must be on or before the date of submission of the applicant's doctoral dissertation.

③ 共著者（研究共同者）が外国に在住している場合、共著者からあらかじめ同意書を取り寄せておくのは博士学位論文審査申請者の責任です。

If the coauthor resides overseas, it is the Doctoral degree applicant's responsibility to obtain this Form of Consent from the coauthor(s) in advance.

④ 共著者（研究共同者）が外国人の場合で印鑑を有していない場合は、署名でも可とします。

If the coauthor is a non-Japanese citizen, he/she may provide his/her signature in place of a name seal.

記載例及び（注）の部分は、削除して使用してください。

Please delete all examples and notes before using this form.

3. カリキュラム

授業科目及び単位数表

区分	授業科目名	単位数	開講期及び週時間数						担当教員	備考
			2025年度		2026年度		2027年度			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	高分子設計学特論 Molecular Design and Characterization of Macromolecules	2	2						川口	英語可
	機能性高分子反応学特論 Reactions of Functional Polymers	2		2					森	英語可
	機能材料化学特論 Chemistry of Functional Materials	2	2						羽場	英語可
	エンジニアリングプラスチック開発特論 Advanced Chemistry of Engineering Plastics	2	2						前山	英語可
	高分子電子材料合成特論B Synthesis of Polymeric Electronics Materials B	2		2					東原	英語可
	有機材料構造化学特論B Advanced Structural Organic Chemistry of Materials B	2		2					片桐	英語可
	工業材料加工技術特論 Advanced Processing Technologies of Engineering Materials	2	2						宮	英語可
	サステナブル高分子特論 Sustainable Polymer Chemistry	2		2					高田	英語可
	高分子トポロジー設計学特論B Advanced Polymer Topology Design B	2		2					土肥	英語可
	光エレクトロニクスサイエンス特論 Optoelectronics Science	2		2					佐野	英語可
	材料システム学特論 Materials System Engineering	2	2						高橋（辰）	英語可
	有機電子材料物性特論 Physics of Organic Electronic Materials	2		2					松井	英語可
	ナノマテリアル特論B Nano Materials B	2		2					千葉	英語可
	有機エレクトロニクス材料化学特論 Material Chemistry for Organic Electronics	2	2						笹部	英語可
	有機光物理学特論 Advanced Organic Photophysics	2		2					横山（大）	英語可

専 門 科 目	太陽光エネルギー変換工学特論 Conversion and Storage of Solar Energy	2		2					吉田	英語可
	有機ナノ粒子材料工学 Materials on Organic Nano Particles	2	2						増原	英語可
	高分子加工学特論 Advanced Polymer Processing	2		2					伊藤（浩）	英語可
	ソフト材料加工学特論 Advanced Processing Technique of Soft Materials	2		2					西岡	英語可
	ソフトマテリアル工学特論 Advanced Soft Material Engineering	2	2						香田	英語可
	高分子応用レオロジー特論B Applied Polymer Rheology B	2	2						杉本（昌）	英語可
	有機材料物性物理学B Physical Properties of Organic Materials B	2	2						松葉	英語可
	ソフトマター科学 Soft Matter Science	2	2						Sukumaran	英語可
	複合材料工学特論 Advanced Polymer Composite Engineering	2	2						高山	英語可
	高分子材料設計特論B Polymer Material Design B	2		2					西辻	英語可
	高分子包装システム工学特論 Polymer Packaging System	2		2					宮田	英語可

	授業科目名	単位数	開講期及び週時間数						担当教員	備考
			2025年度		2026年度		2027年度			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期		
区分	天然物複合材料特論 Natural-Product Hybridized Materials	2		2					鳴海	英語可
	生体分子機能性材料特論 Advanced Functional Biomaterials	2	2						古澤	英語可
	高分子界面解析学特論 Advanced Analysis of Polymer Interfaces	2		2					松野	英語可
	先端ナノ炭素材料特論 Advanced Nano-carbon Materials	2		2					沖本	英語可
	生体機能計測学特論 Advanced Lecture of Electrophysiological Measurement Devices	2	2						長峯	英語可
	機能性有機薄膜デバイス特論 Advanced Functional Organic Thin-Film Devices	2	2						関根	英語可
	機能性有機材料特論B Advanced Functional Organic Materials B	2		2					山門	英語可
グローバル・実践科目	Exercise for Global Communication II※	1	1						高橋（辰） 非常勤講師 他	英語可
	International Internship	2	4	(4)					高橋（辰） 他	英語可
	Management of Symposia/Seminars	1	2	(2)					松葉 古川 他	英語可
	有機材料システム特別演習B Special Exercises on Organic Materials Science B	2								英語可
	有機材料システム研究計画 （プロポーザル） Research Proposal on Organic Materials Science	2			2	(2)				英語可
	有機材料システム特別計画研究 Special R&D Training on Organic Materials Science	2	2	(2)						英語可
	有機材料システム特別教育研修 Special Educational Training on Organic Materials Science	2	2	(2)						英語可
	有機材料システム特別実験B Special Experiments on Organic Materials Science B	4								英語可

- (注) 1. 2026年度及び2027年度の「開講期及び週時間数」は、2025年度に倣うものとする。
2. () 内の数字は前期開講科目の後期開講予定週時間数を示す。
3. ※印は履修人数の制限や履修のための条件があるため、履修登録に際しては注意すること。
4. 備考欄の「英語可」は、留学生の理解を助けるため、英語を併用した授業が可能な授業科目を示す。

- (Notes) 1. The semester and weekly hours for the academic years 2026 and 2027 are the same as that for 2025.
2. The number in parentheses indicates that of scheduled weekly hours for the second semester for courses starting in the previous semester.
3. Subjects marked with a ※ represent a limit on the number of students who can enroll and the existence of certain conditions for registration.
4. The note “English available (英語可)” in the Remarks (備考) column indicates that the course can also be taught in English for the benefit of international students.

授業科目の内容

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
高分子設計学特論 Molecular Design and Characterization of Macromolecules	高分子重合反応を反応速度論および確率過程から考察し、末端構造を含む高分子の1次構造の制御合成（ラジカル、逐次、イオン）の基本的理解について解説する。さらに、直鎖型、星型、櫛型などの基礎構造をもつ多相系高分子の精密合成、微粒子合成、分子特性解析および応用について論じる。 The lecture discusses polymerization from the perspectives of reaction kinetics and statistical processes, and the basic understanding of controlled synthesis (radical, sequential, ionic) of the primary structure of end-functionalized polymers. The lecture also discusses the precise synthesis of linear, star-, and comb-shaped polymers, molecular characterization, fine particle synthesis, and applications.	教授 Professor 川 口 正 剛 Kawaguchi Seigou
機能性高分子反応学特論 Reactions of Functional Polymers	重合反応・高分子反応の有用性・特異性を把握すると共に、高分子に特定の機能を付与する手法や、機能性材料を化学構造・高次構造の観点から構築する手法について概説する。また、構築された高分子材料の構造が、どのように機能に結びつき、最終的に機能性材料としての有用性を発現するかといった内容を総括的に論述する。 In addition to understand usefulness and specificity of polymer reactions and polymer analogous reactions, methodologies to impart specific functions into polymers and construct functional materials are presented, concerning chemical structures and highly ordered structures. A comprehensive understanding of structure-function relationship of polymeric materials, and its usefulness as a functional material are also described.	教授 Professor 森 秀 晴 Mori Hideharu
機能材料化学特論 Chemistry of Functional Materials	さまざまな機能性材料が開発・実用化されているが、本講義ではデンドリマーを取り上げて、その合成手法、および機能性付与の手法について述べる。さらに、液晶についての基礎的な事柄を解説し、液晶がどのようにディスプレイへと応用されているかについて述べる。最後に、デンドリマーの液晶ディスプレイへの応用例について述べる。 In this lecture, dendrimers will be discussed among the various functional materials. First, the syntheses and functionalization methods of dendrimers will be introduced. Next, the fundamentals of liquid crystals will also be explained. Finally, examples of the application of dendrimers to liquid crystal displays are discussed.	教授 Professor 羽 場 修 Haba Osamu

エンジニアリングプラスチック開発特論 Advanced Chemistry of Engineering Plastics	優れた機械的強度と耐熱性を有するエンブラ・スーパーエンブラの開発例を中心に、高性能高分子の分子設計・反応設計について概説する。その中で、近年大きく進歩した遷移金属精密重合触媒を用いるエンブラ・スーパーエンブラの開発動向についても論じる。 This subject provides an overview of the molecular design and reaction design of high-performance polymers, focusing on the development of engineering plastics and super engineering plastics with excellent mechanical strength and heat resistance. Furthermore, the development trends of engineering plastics and super engineering plastics using transition metal precision polymerization catalysts are also explained.	教授 Professor 前山 勝也 Maeyama Katsuya
高分子電子材料合成特論B Synthesis of Polymeric Electronics Materials B	π共役系高分子鎖を含む多元系ブロック、グラフト、およびスターポリマーの合成方法論を中心に、本分野の最新動向を紹介しつつ、多元系高分子材料のミクロ相分離、結晶構造、自己組織化構造について述べる。高分子の一次構造、二次構造、および電子デバイス特性の関連付けを包括的に論ずる。 Microphase separation, crystal structures, and self-assembled structures of functional polymeric materials are discussed, emphasizing synthetic methodologies for functional block, graft, and star polymers containing π-conjugated polymer segments, as well as the latest developments in this field. The relationships between the primary/secondary structures of polymers and their electronic device properties are comprehensively discussed.	教授 Professor 東原 知哉 Higashihara Tomoya

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
有機材料構造化学特論 B Advanced Structural Organic Chemistry of Materials B	有機構造解析は基礎有機化学の分野のみならず，超分子化学，薬学，材料化学などの分野で重要であり，近年の顕著な分析技術進歩に伴い単一小分子からより大きな系へと対象が移っている。特に，分子認識，自己組織化，触媒，バルク構造，動的挙動の解析等において最新の分析技術を取り入れた研究の推進が求められている。本科目は，各種電子分光やX線解析，NMRおよび質量分析等の大型機器による分析・解析技術を学び，各自の研究に役立つ知識と技術の習得を目的としている。また，最新の研究における具体的な構造解析例を詳細に分析することによって先端分析技術の有機化学への応用について深く学び，現時点における各分析装置の守備範囲と適用限界について正しく理解する。 Organic structure analysis plays a crucial role not only in the field of basic organic chemistry but also in supramolecular chemistry, pharmaceutical sciences, and materials chemistry. Recent remarkable advances in analytical technology have shifted the focus from single small molecules to larger systems. The field particularly demands research that incorporates the latest analytical techniques in areas such as molecular recognition, self-organization, catalysis, bulk structure, and dynamic behavior analysis. This course covers analytical and characterization techniques using various advanced instruments, including electronic spectroscopy, X-ray analysis, NMR, and mass spectrometry, with the aim of providing knowledge and skills useful for students' research. The detailed analysis of specific structural characterization examples from recent research will provide a deep understanding of the application of cutting-edge analytical techniques to organic chemistry and will clarify the current scope and limitations of various analytical instruments.	教授 Professor 片 桐 洋 史 Katagiri Hiroshi
工業材料加工技術特論 Advanced Processing Technologies of Engineering Materials	工業材料として，金属材料，高分子材料および複合材料を取り上げ，それぞれの歴史と特徴を紹介し，材料加工技術の基礎からわかりやすく解説する。さらに，切削，鋳造，圧延，押出，射出，接着，溶接などの伝統的な加工技術に加え，最先端の3Dプリンティングについても，それぞれの原理および歴史，現状と今後の展開について講義する。 This course will focus on industrial materials, including metal, polymer, and composite materials. It will introduce their history and characteristics, and provide a clear explanation of the basics of processing technology for these materials. Furthermore, this course will cover traditional processing techniques, such as cutting, casting, rolling, extrusion, injection, bonding, and welding, as well as cutting-edge 3D printing. The principles, history, status, and future developments of these processing techniques will also be covered in this course.	教授 Professor 宮 瑾 Gong Jin

サステナブル高分子特論 Sustainable Polymer Chemistry	環境負荷を最小限に抑えながら持続可能な素材を生産するサステナブルな開発は重要な分野である。本講義では、再生可能資源やバイオマス資源の活用、循環型社会を促進する素材設計、廃棄物の削減や再利用、生分解ポリマーの開発など、多角的なアプローチによる材料開発の先端を学び、議論する。 Sustainable development, which focuses on producing sustainable materials while minimizing environmental impact, is a critical field. In this lecture, we will explore and discuss the forefront of materials development through a multifaceted approach. Topics will include the use of renewable and biomass resources, material design aimed at fostering a recycling-oriented society, waste reduction and reuse, and the advancement of biodegradable polymers.	准教授 Associate Professor 高田 健 司 Takada Kenji
高分子トポロジー設計学 特論B Advanced Polymer Topology Design B	高分子は鎖の連結様式に応じて様々な構造（トポロジー）を取り、孤立状態（希薄溶液中）や凝集状態（濃厚溶液・メルト中）の分子特性に強く影響を与える。本講義では、単一成分から成る分岐及び環状の他、異種成分から成るブロック状のトポロジーを有する高分子の合成手法と、孤立及び凝集状態における分子特性について解説し、高分子トポロジーの設計指針について論じる。 Polymers have various architectures (topologies) depending on their chain connecting manner, which strongly affects their molecular properties in isolation (in dilute solutions) and in aggregation (in concentrated solutions and melts). In this lecture, we will study synthesis and molecular properties with branched and cyclic topologies consisting of single and multiple components, and discuss design guidelines for polymer topology.	准教授 Associate Professor 土肥 侑也 Doi Yuya
光エレクトロニクスサイ エンス特論 Optoelectronics Science	有機半導体、導電性高分子、有機無機ハイブリッド材料及び、それらを用いた次世代太陽電池や発光素子など最新の応用デバイスを題材に、基礎あるいは物理的な現象の理解、課題とその要因、課題解決及び革新的な性能実現に向けての取り組みなどについて学習ならびに議論を行い、理解を深め、体系的な知識の獲得を目指す。 The course aims to deepen students' understanding and to acquire systematic knowledge on organic semiconductors, conductive polymers, organic-inorganic hybrid materials, and the latest applied devices such as organic photovoltaic cells, perovskite solar cells, and organic light emitting diodes. We also discuss fundamental or physical phenomena, technical issues and their factors, solutions to problems, and efforts to realize innovative performance.	教授 Professor 佐野 健 志 Sano Takeshi

材料システム学特論 Materials System Engineering	高分子・炭素・セラミックス・金属を，材料科学の観点からとらえる。原子構造，結合様式，結晶構造について系統的に整理する。これらの微視的な特徴と巨視的な特性である物性，機能性との相関関係について系統的に考える。さらに各々の材料の成形加工方法の特徴について体系的にとらえ概説する。 From the perspective of material science, polymer, carbon, ceramics, and metals are overviewed from atom structure, bonding type, and crystal structure. These characteristics are considered systematically on a small scale and are correlated with various properties and functionalities on a large scale. Furthermore, the features of the processing method of each material is systematically explained.	教授 Professor 高 橋 辰 宏 Takahashi Tatsuhiro
--	---	--

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
有機電子材料物性特論 Physics of Organic Electronic Materials	有機電子材料および有機トランジスタや有機センサなどの有機電子デバイスに関連する物性について体系的に学ぶ。加えて、これらのデバイスの応用先として、ヘルスケア、ロボティクス、ディスプレイ、スマート農業などへの展開を議論する。 This course systematically explores the physical properties related to organic electronic materials and organic electronic devices, such as organic transistors and organic sensors. Additionally, the potential applications of these devices in fields such as healthcare, robotics, displays, and smart agriculture are discussed.	教授 松井 弘 之 Matsui Hiroyuki
ナノマテリアル特論B Nano Materials B	導電性高分子、有機 EL 材料、有機太陽電池材料、有機トランジスタ材料について高分子と低分子に分類し、その分子設計、合成法について講義する。材料の純度測定や精製技術などを整理し、それらが有機電子デバイス特性へ与える影響についても述べる。 This lecture covers conductive polymers, organic EL, solar cells, and transistor materials, focusing on their classification, molecular design, synthesis, and purification. It further explores how these factors affect organic electronic device performance.	教授 千葉 貴 之 Chiba Takayuki
有機エレクトロニクス材料化学特論 Material Chemistry for Organic Electronics	有機エレクトロニクスデバイスに用いられる半導体機能を持つ有機材料の設計、合成、熱・光学特性、デバイス化について論じる。特に、π電子系化合物の合成法、材料分子の構造とデバイス特性の繋がりについて、材料化学の視点から学ぶ。 This course will cover the design, synthesis, thermal and optical properties, and device fabrication of organic materials with semiconducting functions used in organic electronic devices. In particular, the syntheses of π-conjugated molecules and the relationship between the molecular structure of materials and their device properties will be examined from the perspective of materials chemistry.	准教授 Associate Professor 笹部 久 宏 Sasabe Hisahiro
有機光物理学特論 Advanced Organic Photophysics	有機材料およびそれを用いた光デバイスの光機能を制御するためには、有機材料特有の光学物性を正しく理解し、その特性に応じて材料設計・デバイス設計を行うことが重要になる。本講義では、有機材料の光学特性およびその物理的・化学的基礎について解説しつつ、その多彩な特徴を利用した有機半導体デバイス応用技術について紹介する。 To control the optical functions of organic materials and devices, it is important to understand physical properties specific to organic materials and design the materials and devices properly. This lecture covers physical and chemical	准教授 Associate Professor 横山 大 輔 Yokoyama Daisuke

	fundamentals of optical properties of organic materials and introduces applications of organic semiconductor devices with those properties.	
太陽光エネルギー変換 工学特論 Conversion and Storage of Solar Energy	カーボンニュートラル実現への背景と課題を解説すると共に、再生可能な一次エネルギーとしての太陽光の太陽光発電による電力への変換、蓄電池による電力貯蔵、光触媒、水電解や炭酸ガス還元によるグリーン燃料生成について、その技術動向を紹介し、持続可能な社会へのエネルギー技術課題を議論する。 Environmental, technological, economical, and political backgrounds for the realization of a sustainable carbon neutral society are discussed. Promising technologies for wide use of solar energy as a sustainable and renewable primary energy source are introduced, such as novel photovoltaic devices, large-scale storages and conversion into storable chemical energies via electrocatalysis and artificial photosynthesis.	教授 吉 田 司 Yoshida Tsukasa
有機ナノ粒子材料工学 Materials on Organic Nano Particles	ナノ材料を基盤にしたナノテクノロジーは、幅広い分野にわたる総合的な科学技術分野である。本講義ではナノ材料の中でも特にナノ結晶・ナノ粒子に焦点を当て、これらの作製法や次元制御方法、さらに各粒子の特性を活かした実装デバイスに関して論文を中心として講義する。 Nanotechnology based on nanomaterials is a comprehensive field of science and technology that spans a wide range of disciplines. This lecture focuses on nanocrystals and nanoparticles, exploring their fabrication methods, dimensional control techniques, and the implementation of devices that leverage the unique properties of these particles, with an emphasis on discussions centered around academic papers.	教授 増 原 陽 人 Masuhara Akito (理工学研究科) (Graduate School of Science and Engineering)
高分子加工学特論 Advanced Polymer Processing	高分子材料、高分子複合材料の成形加工特性と高次構造形成や物性発現について論究する。具体的には、材料の熔融特性、成形加工性、得られた製品の構造と物性の相関について解説するとともに、最新の加工技術や今後の高分子材料を用いた「ものづくり」や高付加価値製品、デバイスなどへの応用について述べる。 This lecture will discuss the molding and processing properties of polymers and polymer composites, including the development of higher-order structure and physical properties. Specifically, we will discuss the correlation between the melting properties of materials, processing performance, and the structure and physical properties of the obtained products, as well as the latest processing technologies and future applications of polymers in manufacturing, high value-added products, its devices, etc.	教授 伊 藤 浩 志 Ito Hiroshi

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
ソフト材料加工学特論 Advanced Processing Technique of Soft Materials	ソフト材料としてプラスチック材料からバイオマス材料（澱粉やセルロースなど）という広範な研究対象にわたり、それらのレオロジー特性及び加工特性を体系的に解説する。ソフト材料の成形加工性を決定づける構造や物性及びその制御手法を高分子工学の立場から解説する。本講義により高分子レオロジーやプラスチック成形加工という観点で、材料の物性制御手法を習得できるようにする。 The rheological properties and processability for a wide range of soft materials, from plastics to biomass materials (starch, cellulose, etc.), will be systematically explained. The structures and properties that determine the molding and processing properties of soft materials and their control methods will be explained from the standpoint of polymer engineering. This lecture will enable students to learn how to control the properties of materials from the viewpoint of polymer rheology and polymer processing.	教授 Professor 西岡 昭博 Nishioka Akihiro
ソフトマテリアル 工学特論 Advanced Soft Material Engineering	高分子や液晶などのソフトマテリアルについて、構造や物性が発現する仕組みを分子論的に講述する。また、ソフトマテリアルの振る舞いを理論的に取り扱う手法と計算機シミュレーションについても解説する。分子それぞれの個性が物性に反映される仕組みを理解する。 The mechanism of structure and physical properties of soft materials such as polymers and liquid crystals is discussed from a molecular theoretical viewpoint. Theoretical and computational methods to understand the behavior of soft materials is also explained. Students will understand how the characters of molecules are reflected in physical properties of soft materials.	教授 Professor 香田 智則 Koda Tomonori
高分子応用レオロジー 特論B Applied Polymer Rheology B	高分子材料の成形加工は突き詰めれば「流す」「形にする」「固める」工程からなる。「流す」工程は最もはじめの段階にあり、最終的な製品の物性や機能にも大きな影響を与える。ここでは、高分子材料のレオロジーと成形加工性の関係について論ずる。複雑形状における熱可塑性高分子の流動、一軸押出機における可塑化、非相容ポリマーブレンドのコンパウンド時におけるモルフォロジー変化に加え、Tダイを用いたフィルム加工、共押出における流動不安定などを論じる。 The molding and processing of polymer materials can ultimately be broken down into three steps: "flowing," "shaping," and "solidifying." Flowing is the earliest stage and has a significant impact on the material properties and functions of the final product. This lecture discusses the relationship between polymer materials' rheology and moldability. It covers topics such as the relation between polymer melt rheology and foaming, blow molding, film casting using a T-die, and flow instability in co-extrusion.	教授 Professor 杉本 昌隆 Sugimoto Masataka

有機材料物性物理学 B Physical Properties of Organic Materials B	有機材料, 例えば多成分系高分子, 有機デバイス材料の高次組織, その形成機構, 組織と材料物性の関係について解説する。特に, 有機材料によく用いられる構造・分子運動の解析を, 特に放射光や中性子散乱など大型量子ビーム施設を利用した手法について説明し, 有機材料に関する物性物理について詳述する。 This lecture will explain the higher-order organization of organic materials, such as multi-component polymers and organic device materials, the mechanisms of their formation, and the relationship between their organization and material properties. In particular, it will explain the analysis of structures and molecular motion often used in organic materials, particularly using large quantum beam facilities such as synchrotron radiation and neutron scattering, and will provide a detailed description of the physical properties of organic materials.	教授 Professor 松 葉 豪 Matsuba Go
ソフトマター科学 Soft Matter Science	ソフトマター (液晶, コロイド, 高分子などソフトな物質) の物性について, 実験結果と理論からメゾスケールの構造とダイナミクスを解説し, ソフトマターの構造階層性と複雑性について理解する。 This course will use experimental results and theory to elucidate the mesoscale structure and dynamics of soft matter (polymers, colloids, liquid crystals, etc.) and on that basis, understand the structural hierarchy and complexity of these materials.	准教授 Associate Professor Sukumaran, Sathish Kumar
複合材料工学特論 Advanced Polymer Composite Engineering	材料の高機能化を目的として異種の材料と複合化させることはあらゆる分野において行われている。本講座では複合化した材料が発現する物性を材料学, 物性工学および粉体工学的観点から捉えていくことで, 要求される材料特性を満足するための材料設計手法を学ぶ。 The use of composite materials comprising disparate components is a common practice across a range of disciplines, with the objective of improving the functionality of the materials in question. This course will provide an in-depth exploration of the methodologies employed in the design of such materials, while focusing on of the physical properties of composite materials from the perspectives of materials science, physical properties engineering, and powder engineering.	准教授 Associate Professor 高 山 哲 生 Takayama Tetsuo
高分子材料設計特論 B Polymer Material Design B	高性能・高機能化を目的として異種の高分子材料を混ぜることにより作製する多成分系高分子材料であるポリマーアロイの材料設計について論じる。具体的には, ポリマーアロイの特徴, 高分子の相溶性, 非相溶系ポリマーアロイの相の界面制御について解説する。 In this lecture, material design of polymer alloy, which are multi-component polymer materials prepared by mixing	准教授 Associate Professor 西辻 祥太郎 Nishitsuji Shotaro

	different polymer materials for the purpose of achieving high performance and high functionality, are explained. Specifically, the characteristics of polymer alloy, compatibility of polymers, and interface control of phases in incompatible polymer alloys are discussed.	
--	---	--

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
高分子包装システム 工学特論 Polymer Packaging System	包装システムに要求される高分子材料の特性，高分子材料が包装システムを構成する機能性について，それらの基盤となる様々な要素技術について高分子科学，機械工学等の立場から概説する。理工学的な視点のみならず，社会科学的視点も踏まえ現在から将来に亘る包装システムについて述べる。 The properties of polymeric materials required for packaging systems, the functionality of these materials in packaging systems, and the various elementary technologies that form the basis of these materials will be reviewed from the standpoint of polymer science, mechanical engineering, and other fields. Packaging systems from the present to the future will be discussed not only from a scientific and engineering perspective, but also from a social science perspective.	准教授 Associate Professor 宮 田 剣 Miyata Ken
天然物複合材料特論 Natural-Product Hybridized Materials	天然物の性質，生体機能，および非枯渇型の原材料としての有用性に着眼した，光感受性化合物との複合化，汎用のビニルポリマーあるいはインテリジェントポリマーなどの合成高分子とのハイブリッド化について，その意義と合成ルートについて論じる。生成物の医療用光増感剤や自己組織化材料などへの応用について述べる。 Hybridization of synthetic polymers and/or photosensitive compounds with natural products such as saccharides will be discussed, focusing on their significance and synthetic routes. Applications of the products to photosensitizers for medical use and self-assembling materials will be discussed.	教授 Professor 鳴 海 敦 Narumi Atsushi
生体分子機能性材料特論 Advanced Functional Biomaterials	自律的に活動する生体内での複合体構築における生体分子間相互作用に基づく複合体形成の機構とその発現される機能について俯瞰し，その評価・解析手法について合わせて講義するとともに，これらの知見を機能性材料創成へ展開する方法論について解説する。 This lecture will provide an overview of the mechanisms of complex formation based on biomolecular interactions in the construction of complexes in living organisms that function autonomously, and the functions that are expressed, including lecture on evaluation and analysis methods for these biomolecular interactions. It will also explain the methodology for applying these findings to the creation of functional materials.	教授 Professor 古 澤 宏 幸 Furusawa Hiroyuki
高分子界面解析学特論 Advanced Analysis of Polymer Interfaces	高分子系デバイスの機能向上の鍵となる埋もれた界面における分子描像を理解するのに必要な界面選択的分析・解析手法について講義する。具体的には，プローブ顕微鏡法，光電子分光法，反射率法，振動分光法等に焦点をあてて解説する。	教授 Professor 松 野 寿 生 Matsuno Hisao

	This class introduces various interface-selective analyses to understand the molecular picture at buried interfaces, which is the key to improving the functionality of polymeric devices. Specifically, the class will focus on scanning probe microscopy, photoelectron spectroscopy, reflectivity measurement, vibrational spectroscopy, and so on.	
--	---	--

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
先端ナノ炭素材料特論 Advanced Nano-carbon Materials	ナノ炭素材料は高分子樹脂との複合から電子デバイス応用までその応用範囲は非常に広い。本講義では、ナノ炭素材料の中でもフラーレン・カーボンナノチューブ・グラフェンに関する基礎知識（合成、分離、基礎物性）と応用例について学ぶ。最後に、各々の研究分野におけるナノ炭素材料の新たな利用に関する可能性や将来展望について考え議論する。 Nano carbon materials such as fullerene, carbon nanotube, and graphene; Learn the fundamentals (synthesis, separation, properties) and application of carbon materials, and learn cutting-edge topics in related fields.	助教 Assistant Professor 沖 本 治 哉 Okimoto Haruya
生体機能計測学特論 Advanced Lecture of Electrophysiological Measurement Devices	健康への意識が高まる近年、これまで病院等の医療機関でのみ扱われてきた大型の医療機器が身近な小型健康管理機器として浸透しており、パーソナル医療が現実味を帯びつつある。本講義はこの現状を学び、将来の医療機器のあり方を考える。本講義はこの現状を学び、将来の医療機器のあり方を考えていくことが目的である。講義では、体の部位ごとにフォーカスを当て、従来と現在の計測装置とその動作原理、そして最新のトピックを解説・論述し、比較しながら技術の進歩を学ぶ。 In recent years, as health awareness has increased, some medical devices that were previously used only in hospitals have been miniaturized and simplified for the personal uses. The purpose of this lecture is to learn about the current progress in the medical and healthcare devices. The lecture will focus on each part of the body, explaining and discussing conventional and current devices and their operating principles, including the latest topics, and learning about technological advances while comparing them.	教授 Professor 長 峯 邦 明 Nagamine Kuniaki
機能性有機薄膜デバイス特論 Advanced Functional Organic Thin-Film Devices	機能性高分子材料のなかには強誘電性高分子を代表とするスマートマテリアルが存在する。これらは分子構造や結晶構造に依存して機能を発現するユニークな材料である。本講義では、上記を用いた薄膜デバイスを中心に、機能発現のメカニズムや誘電現象、リラクサーモデルといった基礎材料物性について解説する。また、低分子系材料と高分子系材料にも焦点を当てながら、分子量の違いが機能性に与える影響についても議論する。 Printable polymeric materials have unique features that exhibit a variety of functionalities in flexible device applications. Among them, ferroelectric polymers have different crystal structures and functionalities depending on deposition methods and annealing temperature. Therefore, it is academically important to understand the origin of this functional expression.	准教授 Associate Professor 関 根 智 仁 Sekine Tomohito

機能性有機材料特論B Advanced Functional Organic Materials B	電子機能性，光機能性，誘導性，イオン電導性などの機能性をもつ有機材料は，有機エレクトロニクス，クリーンエネルギー，プラスチック光学用材料として次世代産業に必要不可欠な存在である。 本講義では，有機合成，高分子合成，超分子化学の観点から，有機材料への様々な機能付与の指針，および古典的手法から最新の手法に至る機能性有機材料の創製手法を系統的に整理し，概論する。 Organic materials with functionalities such as electronic properties, photofunctionality, and ion conductivity are essential for next-generation industries, serving as key materials for organic electronics, clean energy, and plastic optics. This lecture will systematically review the strategies for imparting various functionalities to organic materials, focusing on organic synthesis, polymer synthesis, and supramolecular chemistry. Additionally, methods for creating functional organic materials will be discussed, ranging from classical approaches to the latest advancements.	准教授 Associate Professor 山門 陵平 Yamakado Ryohei
Exercise for Global Communication II	研究活動だけに限らず，グローバルな世界を舞台に活躍をするためには，学会やシンポジウム，セミナーなどにおける英語能力のみでなく，国際的な企業交渉や外交交渉などに挑めるような交渉力，調整力，説得力，人を惹きつける力，プレゼンテーション力などが必然的に求められることになる。本演習では，1年次に実践演習として短期海外研修に参加もしくは他の海外研修経験等により実際のグローバルコミュニケーションの有り方を体験するとともに，講義演習形式で各種交渉・商談および国際標準化を成し遂げるために必要な専門用語を学ぶことに加えて，ディベート型学習を通じて交渉力を身につけることを目指す。 To work actively not only in research activities but also globally, students are required to have not only the English language skills required for academic conferences, symposiums, seminars, etc., but also and the skills in negotiation, coordination, persuasion, ability to attract people, presentation, etc. required for international business negotiations, diplomatic negotiations, etc. In this practical class, students in their first year will experience global communication by participating in short-term overseas training as a practical exercise or other overseas training experiences, and will also learn the technical terms required for various negotiations, business negotiations, and international standardization in a lecture-style seminar format, with the aim of acquiring negotiation skills through debate-style learning.	教授 Professor 高橋 辰宏 Takahashi Tatsuhiko 非常勤講師 他 Part-time Lecturers and others

授業科目名	授業科目の内容	担当教員
International Internship	国外の企業・大学等の研究室において研究活動を行うことで、専門分野の更なる強化と拡大を図るほか、国外の文化・社会・価値観を分析・理解する。コミュニケーション能力と研究能力を飛躍的に向上させ、グローバル人材として活動するための実践力を確実に習得する。専門分野への理解を深化させて最先端の技術と理論を知るとともに、世界の研究動向や教育・研究手法を習得する。また異なる文化圏において長期間に亘って滞在して研修を行うことで、異文化適応やグローバルコミュニケーション能力の向上を目指す。 By conducting research activities in laboratories at companies and universities overseas, students will further strengthen and broaden their fields of expertise, as well as analyze and understand foreign cultures, societies, and values. Students will dramatically improve their communication and research skills, and acquire the practical skills necessary to function as global talent. Students will deepen their understanding in their fields of expertise, learn about cutting-edge technology and theories, and acquire knowledge of global research trends, education, and research methods. Students will also aim to improve their adaptability to different cultures and global communication skills by training in different cultural regions for a long time.	教授 Professor 高橋 辰宏 他 Takahashi Tatsuhiko and others
Management of Symposia/Seminars	学生同士が協力して、国際シンポジウムや国際セミナーを企画し開催する。シンポジウム/セミナーの企画・立案・運営を学生が行うことで、マネジメント能力を身につける。加えて、若手研究者間の国際ネットワークを構築する。本実習では、シンポジウム/セミナーにおける企画・立案・運営を通じて、マネジメント力、英語力および交渉力を強化する。 Students will work together to plan and hold international symposiums and seminars. By having students plan, propose, and manage the symposiums/seminars, they will acquire management skills. In addition, they will build an international network among young researchers. In this practical training, students will strengthen their management, English, and negotiation skills through planning, proposing, and managing symposiums/seminars.	教授 Professor 松 葉 豪 Matsuba Go 教授 Professor 古川 英光 Furukawa Hidemitsu (理工学研究科) (Graduate School of Science and Engineering) 他
有機材料システム 特別演習 B Special Exercises on Organic Materials Science B	有機材料システムに関わる最新の文献の輪講などを、指導教員の指示に従って研究グループ内等で行う演習科目である。	専攻教員 Major Faculty

	This is a seminar course in which students will review the latest literature related to organic materials systems within their research group, following the instructions of their supervisor.	
有機材料システム 研究計画（プロポーザル） Research Proposal on Organic Materials Science	専門分野の社会的ニーズに関して予備的な実験や計算を行い、関連する国内、国外の研究状況についての調査・検討を踏まえて、将来性のある独創的な研究課題として提案する。 The preliminary experiments and calculations regarding the social needs of our specialized field are conducted. In addition, original research topics with future potential based on surveys and examinations of the related research status in Japan and abroad, are proposed.	専攻教員 Major Faculty
有機材料システム 特別計画研究 Special R&D Training on Organic Materials Science	工学に対する視野を広め、問題提起・解決能力を養うために、産業の現場、各種研究施設または他専門分野の研究室において、専門以外の領域の開発や生産などの実習および情報収集に携わる。 In order to broaden your perspective on engineering and develop your ability to pose and solve problems, you will engage in training and information gathering in areas other than your specialty, such as development and production, at industrial sites, various research facilities, or laboratories in other specialized fields.	専攻教員 Major Faculty
有機材料システム 特別教育研修 Special Educational Training on Organic Materials Science	知識および技術の教授法を研修すると同時に、共同作業における指導力を養うため、学生の実験または演習の指導、学生の学術講演会、シンポジウム等における原稿作成と発表技術の指導、企業等の生産・開発担当者に対する研究・技術指導から選択して実習する。 Simultaneously, supervisors provide training in teaching methods for knowledge and technology, guidance on student experiments, and exercises, manuscript preparation and presentation techniques for student academic lectures and symposiums, and production/presentation techniques for companies, etc., to develop leadership skills in collaborative work. Choose from research and technical guidance for development staff and receive practical training.	専攻教員 Major Faculty
有機材料システム 特別実験B Special Experiments on	博士学位論文に関して専攻で行う実験であり、数値シミュレーション、理論的思考実験なども含まれる。	専攻教員 Major Faculty

Organic Materials Science B	This is an experiment conducted by the doctoral dissertation department and includes numerical simulations and theoretical thought experiments.	
-----------------------------	---	--

Ⅲ 博士課程5年一貫教育プログラム 「フレックス大学院」

1. 博士課程5年一貫教育プログラム「フレックス大学院」ポリシー

1. Five-Year Integrated Doctoral Program “Flex Graduate School” Policy

1-1 プログラムの概要

フレックス大学院は、博士課程前期・後期一貫した大学院教育プログラムであり、優秀な学生をグローバルな視点を持ちながら主体的に活躍する実践的なリーダーへと導くものである。このために、グローバルリーダー人材に必要な2つの資質である『創造性』と『主体性』を修得するための教育を行う。

1-1. Program Overview

Flex Graduate School is a graduate school education program that integrates the first and second parts of the doctoral program. It leads excellent students to become practical leaders who are proactive on a global level. To this end, the program provides education on the two qualities necessary for human resources who are global leaders: creativity and initiative.

1-2 教育目標

本プログラムは、幅広い領域において「実践的グローバルリーダー」として活躍する上で必要な、以下の2つの資質（『創造性』及び『主体性』）を兼ね備えた人材を育成することを目標とする。

I 創造性

新たな研究領域を開拓し、複眼的な思考を起点としながら価値創成・学理探究を実践することができる『創造性』の修得のため、以下の2つの能力を養成する。

I-1 複眼的思考力・価値創成力

一つの事象を俯瞰的、かつ、複数の視点から捉え、客観的な評価を行うことができる能力を獲得した上で、新たな価値を提案できる。

I-2 高度な実践力

深い専門的知識及び幅広い異分野の知識を併せて修得するとともに、それらの知識を融合させて運用する手法を会得することによって、新たな研究領域の創造に向けた取り組みを実践することができる。

II 主体性

幅広い領域にわたりグローバルな視点から主体的に活躍することができる『主体性』の修得のため、以下の能力及び意識を高める。

II-1 グローバル・企画・コミュニケーション力

グローバルな視点を持ちながらチームのマネジメントなどにおいてリーダーシップをとるために必要な企画力・提案力・コミュニケーション力を発揮できる。

II-2 高い問題意識と未来志向の使命感

現在の、あるいは、将来起こりうる社会問題に対して関心を持ち、その背景・要因を把握して、問題の解決方法を提案できる。

1-2 Educational Objectives

This program aims to develop human resources who can combine the qualities of “creativity” and “initiative” required to play an active role as practical global leaders in a wide range of fields.

I. Creativity

The program aims to cultivate the following two abilities, enabling students to develop “creativity” in pioneering new research areas and to practice value creation and scientific inquiry through multifaceted thinking.

I-1 Ability of Multifaceted Thinking and Value Creation

The program aims to enable students to acquire the ability to view a single event from multiple perspectives, make objective evaluations, and propose new values.

I-2. Advanced Practical Ability

Students should acquire deep professional knowledge and a broad understanding of different fields, as well as learn methods to integrate and apply this knowledge, enabling them to put into practice initiatives to create new research areas.

II Initiative

The following abilities will be enhanced to acquire the “independence” required to play an active role from a global perspective across a wide range of fields:

II-1 Global planning and communication skills

Demonstrate the planning, proposal, and communication skills necessary for leadership in team management, etc., while maintaining a global perspective.

II-2 High problem awareness and a future-oriented sense of mission

Students must have an interest in current and possible future social problems, understand the background and factors, and be able to propose solutions to the problems.

1-3 教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本プログラムでは、所属する専攻で行われる専門性を修得する教育に加えて、以下の方針に従って教育を実施する。

【教育方法】

- 主分野に加えて広い関連知識を修得できるように、主・副分野制度により、自らが設定した副分野の講義科目・演習科目を履修する。
- 教育目標に掲げる2つの資質（『創造性』及び『主体性』）を修得できるように、プログラムが指定する授業科目を履修する。

1-3 Curriculum Policy

In addition to providing education that helps students acquire expertise in their major, this program will implement education in accordance with the following policies:

[Educational Methods]

- In addition to the main field of study, students will attend lectures and seminars in the sub-fields of their choice as a part of the main field/sub-field system so that they can acquire a broad range of knowledge.
- Students will take courses designated under the program to acquire the qualities mentioned in the educational goals (“creativity” and “initiative”).

1-4 アドミッション・ポリシー

本プログラムでは、以下の人材を求める。

- 産学官にわたり、グローバルに活躍する実践的なリーダーを目指す人

1-4. Admission Policy

This program seeks the following individuals:

- Those aiming to be practical leaders who are active globally across industry, academia, and government.

1-5 プログラムの特色

- 主・副分野制度により、複数の分野の科目履修を求められる。
- 実践力の養成のために、実習科目の履修を求められる。
- 博士課程5年一貫教育プログラムであり、博士後期課程進学試験とプログラム進級試験に合格するとともに、博士前期課程修了要件を満たすことで、3年次に進級することができる。
- 3～5年次に在学する学生が本プログラムを修了するには、各自の主分野での博士論文の審査及び最終試験、並びに本プログラム独自のEPE（End-of-Program Examination：フレックス大学院プログラム修了試験）に合格することが求められる。このことにより、専門性に加えて、『創造性』と『主体性』の2つの資質を獲得したことが保証される。

1-5 Program Features

- Students will study subjects in multiple fields according to the main/sub-field system.
- Students will take practical subjects to develop practical skills.
- The program is a five-year integrated doctoral program in which students can advance to the third year by passing the doctoral course preparatory examination and the advancement examination of the program and by completing the requirements for the Master's Program.
- To complete the program, third to fifth-year students of this program must pass the thesis review and final examination of this course in their main field of study, as well as the Flex Graduate School's unique EPE (End-of-Program Examination: Flex Graduate School Program Final Examination). Through this, students are guaranteed to have acquired two qualities: “creativity” and “initiative.”

2. 履修方法

2. Course Completion Method

2-1 主分野・副分野

本プログラム学生は、入学した研究科の自らが所属する専攻若しくは選択した分野を5年一貫教育における「主分野」の基盤とする。プログラム1年次の9月までに、所属する研究科により、以下に従い「副分野」を決定する。

- ・理工学研究科（工学系）の専攻に所属する学生：副分野として有機材料システム専攻，又は理工学研究科（工学系）の自らが所属する専攻以外のいずれかの専攻から選択
- ・有機材料システム専攻に所属する学生：副分野として理工学研究科（工学系）のいずれかの専攻から選択
- ・理工学研究科（理学系）理学専攻に所属する学生：理学専攻内の，自らが選択した主分野以外のいずれかの分野から選択

2-1. Main and Sub-Fields

Students in this program should select their major or chosen field in their graduate school as the basis of their “main field” in the five-year integrated education program. Their sub-field shall be determined by the graduate school by September of the first year of their program, based on the following:

- ・ Graduate School of Science and Engineering major students: Select a sub-field from the Organic Materials System Major or a major from the Graduate School of Science and Engineering other than your own
- ・ Organic Materials System major students: Select a sub-field from the majors under the Graduate School of Science and Engineering
- ・ Graduate School of Science and Engineering (Engineering) major students: Select a sub-field other than your major from the Faculty of Science

2-2 プログラム授業科目

【1～2年次】

1～2年次において履修を求められる授業科目は、各研究科ないしは大学院共通の授業科目に加え、「3. カリキュラム」（別紙で配布）で示される本プログラム独自のフレックス大学院科目である。

これらの科目の履修により、将来において実践的なグローバルリーダーとして必要不可欠な主体的に行動する力、及び実践基礎力を身につける。

【3～5年次】

3～5年次において履修を求められる授業科目は、「3. カリキュラム」（別紙で配布）で示される科目である。3年次入プログラム学生について、1～2年次において取得すべき単位で読み替え未了の単位がある場合には、当該単位の修得に相当する活動を3年次以降に行う。

これらの科目の履修により、将来において実践的なグローバルリーダーとして必要不可欠な「複眼的思考力、提案力、実践力」を身につける。

2-2 Program Class Subjects

[First and Second Years]

In the first and second years, students will take common subjects for all graduate schools or faculties in addition to the Flex Graduate School courses unique to this program, as given in “3. Curriculum (See attached).”

These subjects will instill in the students the necessary skills for proactive behavior and the practical foundation to be global leaders in the future.

[Third to Fifth Years]

In the third through fifth years, students will take subjects required for this program, as given in “3. Curriculum (See attached).” If students entering the program in the third year have credits they must earn from the first or second years, activities equivalent to earning these credits shall be offered in the third year or later.

Completing these subjects will instill in students the necessary “multifaceted thinking skills, proposal skills, and implementation skills” required to become practical global leaders in the future.

2-3 履修申告・異議申し立て

- (1) フレックス大学院科目の履修登録は、所属する研究科における履修登録に合わせて行う。
- (2) 3～5年次の履修については、3年次の年度に配付される「フレックス大学院」履修要項に従い博士後期課程用の履修届を提出すること。
- (3) フレックス大学院科目の成績評価に関して、疑義が生じた場合の問い合わせは、成績が発表された日から原則3日以内に、「成績評価照会票」（様式は山形大学ホームページの「学生生活」タブ内の「授業について」の該当リンクからダウンロードできる。）に必要事項を記入の上、各研究科学務担当窓口へ提出すること。なお、詳細については、各研究科学務担当窓口を確認すること。

2-3 Course Application and Appeals

- (1) Enrollment in Flex graduate courses is carried out in conjunction with enrollment in the student's graduate school.
- (2) For the third to fifth years of study, students must submit the course registration for the Doctoral Program in accordance with the “Flex Graduate School” Course Guidelines.
- (3) In case of any questions regarding the grade evaluation of Flex Graduate School subjects, download the “Grade Evaluation Inquiry Form” (the form can be downloaded from the link in the About Classes section of the Student Life tab on the Yamagata University website.) and submit it to the Academic Support Section of the respective graduate school within three working days from the announcement of grades. For details, please contact the Academic Affairs Desk of the respective graduate school.

2-4 履修基準

【1～2年次】

本プログラムで3年次に進級するための修得単位数は、本プログラムが履修要件とする授業科目の修得単位5単位、及び副分野の講義科目（副分野が有機材料システム専攻の場合は専門科目、理学専攻に所属する学生は分野横断科目）から4単位以上である。これに加え、フレックス大学院科

目2単位（必修）を履修しなければならない。この他に主専攻の博士前期課程修了要件を満たす必要がある。

【3～5年次】

本プログラム修了に必要な修得単位数は、本プログラムが履修要件とする授業科目の修得単位4単位である。この他に学生便覧に示された主専攻の博士後期課程修了要件を満たす必要がある。

	1～2年次	3～5年次
本プログラムにおける履修基準	1～4の要件を満たすこと 1. 本プログラムで履修要件とする授業科目から5単位以上 2. 副分野の科目から4単位以上 3. フレックス大学院科目2単位 4. 博士前期課程履修基準表に示された主専攻の修了に必要な単位数 要件1及び2の単位数は要件4との重複を認める。	1及び2の要件を満たすこと 1. 本プログラムで履修要件とする授業科目から4単位 2. 博士後期課程履修基準表に示された主専攻の修了に必要な単位数

2-4 Criteria for Course Completion

[First and Second Years]

To advance to the third year of this program, students must earn 5 credits from the class subjects required for enrollment in this program and 4 or more credits from the lecture subjects of the sub-field (Specialization Subjects if the sub-field is Organic Materials System and interdisciplinary subjects for the Science sub-field). In addition, students must earn 2 credits (Compulsory) from Flex Graduate School courses. Furthermore, students must complete the requirements for completion of their Master's Program in their main field.

[Third to Fifth Years]

Students are required to earn 4 credits from the courses required in this program for completion. In addition, students must also fulfill the requirements to complete their doctoral program, as indicated in the Student Handbook.

	First and Second Years	Third Through Fifth Years
Criteria for Course Completion of this Program	Meet Requirements 1-4 1. Earn at least 5 credits from the class subjects required in this program 2. At least 4 credits from the sub-field 3. 2 credits from Flex Graduate School subjects 4. The number of credits required for completing the major, as indicated in the Master's Program Course Completion Criteria Table The number of credits for requirements 1 and 2 may overlap with that for requirement 4.	Meet Requirements 1 and 2 1. 4 credits from class subjects required to complete this program 2. The number of credits required for completing the major, as indicated in the Doctoral Program Course Completion Criteria Table

2-5 博士前期課程の修了・博士後期課程への進学・プログラム3年次進級

本プログラムで3年次に進級するためには、QE（Qualifying Examination：博士後期課程進学試験及びプログラム進級試験）に合格するとともに、博士前期課程の修了要件を満たす必要がある。この過程として、QEを受験するとともに、博士前期課程の履修基準を満たした上で、山形大学大学院規則第19条第3項に定められた特定審査を受ける方法と、同規則第19条第1項に定められた修士論文の審査及び最終試験を受ける方法がある。

QE受験申請は、原則としてQEを受ける年度の7月に行う。

QEのうちプログラム進級試験を受験するには、1～2年次履修基準の単位数を修得する見込みがあり、かつ、次の受験要件のいずれかを満たす必要がある。

①英語による国際学会発表1件を発表済み若しくは英文予稿1件を投稿済みであること

②査読付学術論文1件（英語を推奨し、査読付プロシーディングも認める）を投稿済みであること

受験要件①あるいは②ともにQEを受ける学生が筆頭著者であることが必要である。

受験要件の確認は、原則としてQEを受ける年度の10月に行う。

QEは、博士後期課程への進学とプログラム3年次への進級において求められる研究基礎力及び本プログラムが教育目標に掲げる能力の獲得に関する口頭試問を行う形で実施される。

博士前期課程の修了要件は、博士前期課程の履修基準を満たすとともに、次の①又は②に合格することで満たされる。

①特定審査

②修士論文の審査及び最終試験

QEに合格し、博士前期課程の修了要件を満たした学生は、博士前期課程を修了し、修士の学位を取得の上、3年次に進級することができる。

2-5 Completion of the Master's Program and Advancement to the Doctoral Program/Advancement to the Third Year of the Program

Students must pass the QE (qualifying examination: Master's Program Advancement Examination & Program Advancement Examination) and meet the requirements to complete the Master's Program to progress to the third year of this program. This process may be completed in two ways: by appearing for the QE and fulfilling the Master's Course Criteria by undergoing a specific examination stipulated in Article 19, Paragraph 3, of the Yamagata University Graduate School Regulations or by completing a Master's thesis review and final examination stipulated in Article 19, Paragraph 1, of the same Regulations.

In principle, the application for the QE shall be made in July of the academic year in which the student will appear for it.

To appear for the program advancement examination as a part of the QE, students are expected to acquire the number of credits required for the first and second years of study and satisfy one of the following examination requirements:

① Publication of one international conference presentation in English or submission of one English language manuscript for publication

② Submission of one peer-reviewed academic paper (English is recommended; ongoing peer review process is acceptable)

The student taking the QE must be the first author in the case of both (1) and (2).

In principle, the confirmation of the examination requirements will be carried out in October of the academic year in which the student will appear for the QE.

The QE is conducted as an oral examination to assess the acquisition of basic research skills required for advancement to the doctoral program and the third year of the program, as well as of the abilities listed in the educational goals of this program.

The requirements for completing the Master's Program will be met by satisfying the Master's Program course criteria in addition to (1) or (2) below.

① Specific examination

② Thesis Review and Final Examination

Students who have passed the QE and met the requirements for completing the Master's Program may complete the Master's Program, obtain a Master's Degree, and proceed to the third year of this program.

2-6 EPE (End-of-Program Examination : フレックス大学院プログラム修了試験)

フレックス大学院自己評価報告書(所定の様式)を作成し、博士論文の審査と最終試験の審査を申請することができ、かつ、履修基準に示されたフレックス大学院科目の単位修得の見込みがある学生は、EPEを受けることができる。

EPEは、EPE審査委員が行い、本プログラムの教育目標に掲げる能力を身につけていることを、口頭試問により審査する。

2-6 EPE (Flex Graduate School End-of-Program Examination)

Students who complete the Flex Graduate School Self-Assessment Report (prescribed form), apply for the doctoral thesis review and final examination, and earn credits for the Flex Graduate School subjects indicated in the enrollment criteria may take the EPE.

The EPE is conducted by the EPE Examiner, who conducts oral examinations to verify that students have acquired the abilities listed in the educational objectives of this program.

2-7 修了要件

本プログラムの修了要件は、本プログラムにおいて1～2年次の履修基準を満たしQEに合格した後、3～5年次の履修基準に示された所定の単位を修得し、かつ、博士論文の審査及び最終試験並びにEPEに合格することである。ただし、3年次入プログラム学生については、1～2年次の履修基準に定められた単位は、上記2-2に記載の活動で読み替える。

本プログラムを履修できる期間（プログラム履修期間）は、1～2年次は2年、3～5年次は3年とし、原則として5年間を超えて履修することはできない。

特に優れた研究業績を上げて在学期間の短縮により課程（博士前期課程、博士後期課程）を修了（早期修了）する場合は、プログラム履修期間の短縮を認めることがある。

2-7 Requirements for Completion

To complete this program, students must obtain the prescribed credits indicated in the criteria for course completion for the first and second years, pass the QE, and complete the criteria for course completion for the third through fifth years, as well as pass the doctoral thesis review, final examination, and EPE. For students entering the program in the third year, the credits specified in the course completion criteria for the first and second years shall be read as the activities mentioned in 2-2 above.

The duration of this program (program enrollment period) is two years for the first and second years and three years for the third through fifth years; in principle, this program cannot exceed five years.

Students with outstanding research achievements may be allowed to shorten the program duration in case of early completion of a program (Master's Program or Doctoral Program).

2-8 プログラムの修了

本プログラムを修了した者には、博士の学位記に、本プログラムを修了したことが付記される。

2-8 Completion of the Program

Upon completing this program, students receive a Certificate of Completion in addition to the Doctor's Degree awarded to them.

2-9 プログラムからの離脱及び在籍年限延長の特例

休学等によりプログラム履修期間での修了が困難となった学生、指導教員、プログラムコーディネーター若しくは教育ディレクターがプログラム履修期間での修了が困難と判断した学生、又はプログラム履修中に進路を変更する必要がある学生は、本プログラムを離脱しなければならない。ただし、やむを得ない事情があるとプログラムコーディネーターが認めた場合、引き続きプログラムを履修することができる。

2-9 Special Provisions for Withdrawal from the Program and Extension of the Enrollment Period

Students unable to complete the program within the duration because of a leave of absence, etc., students who are found to be unable to complete the program within the duration by their advisor, program coordinator, or director of education, or students who need to change their career path during the program must withdraw from the program. However, if the program coordinator recognizes the existence of unavoidable circumstances, the student may be allowed to continue the program.

Ⅳ 学 生 生 活 案 内

学 生 生 活 案 内

1. 学生生活の心得

1-1 構内交通規則について

学生用駐車場として確保できる敷地の余裕がないため、自動車通学は厳しく制限しております。特別な事情がある場合（通学の最短距離が片道5km以上の者や身体障がい者等の特別な理由がある者）は、許可された者に限り、指定された駐車場への駐車を認めています。

なお、駐車違反は厳正に対処します。

1-2 学生への通知・連絡・呼出等

学生への通知・連絡・呼出等は掲示、WebClass及びCampus Squareによって行いますので、掲示板は常時注意して見る習慣をつけ、重要な掲示を見逃して自己に不利益な結果を招くことのないよう心がけてください。

● 大学院有機材料システム研究科の掲示板は、5号館1階ピロティに設置してあります。

1-3 喫煙

キャンパス内は、全面禁煙となっています。

1-4 交通事故について

本学部（研究科）では、学生が当事者となった交通事故が毎年発生しております。ひとたび事故が起こると学業への支障ばかりでなく、精神的・経済的にも多大な負担が生じます。自動車、バイク等を運転する際は、自己本位の姿勢は捨て、交通ルールを厳守するとともに、無謀な運転は厳に慎み、安全運転を心がけてください。

また、交通事故の当事者となった場合は、被害者側、加害者側の如何にかかわらず、直ちに事件事故等報告書を学生支援担当に提出してください。帰省先等で発生した事故についても同様に提出してください（届出用紙は工学部学生支援担当にあります。また、工学部HPに様式が掲載されています）。

1-5 その他

日頃の学生生活において、警察に検挙（交通法規違反等を含む）された場合は、速やかに、事件事故報告書を学生支援担当へ届け出てください。

2. 諸手続について

2-1 学生証について

- 学生証は、学生としての身分を証明する重要なものですから必ず携帯してください。
- 修了、退学、除籍又は有効期間が経過した場合は、直ちに返納してください。
- 学生証を紛失したとき又は使用に耐えなくなったときは、速やかに山形大学生協ホームページ上のリンクから再発行手続きを行い、交付（有料）を受けてください。

2-2 諸証明書について

証明書は自動発行機によるものを除き、原則として申込日の2日後に交付します。証明書自動発行機による証明書類は、在学証明書、修了見込証明書、成績証明書（博士後期課程学生を除く）、学生旅客運賃割引証、健康診断証明書です。

(1) 学生旅客運賃割引証（学割証）

- 自動発行機により交付を受けてください。
- 他人に譲渡したり、不正に使用したりしないでください。
- 乗車券の購入及び旅行の際は、必ず学生証を携帯してください。

(2) 列車の通学証明書

自動発行機により交付を受けてください。

(3) 健康診断証明書

4月の定期健康診断を受診した場合は自動発行機で受け取ることができます。

(4) 在学証明書

自動発行機により交付を受けてください。

(5) 成績証明書

博士前期課程の学生は、自動発行機により交付を受けてください。

博士後期課程の学生は、諸証明書交付願に所要事項を記入し、申し込んでください。

(6) 修了見込証明書

修了予定年次に入ってから、自動発行機により交付を受けてください。

2-3 諸届出について

(1) 連絡先等変更届（学生支援担当）

学生本人の住所（住所、電話番号、E-mail、本籍、氏名）又は父母等（帰省先）（住所、電話番号、氏名）に変更が生じた場合は、速やかに学務情報システム（Campus Square）から修正してください。

(2) 学外研修届

学外で行われる研修、学会等に参加する場合は、「学外研修届」を学生支援担当へ提出してください。移動は原則「公共交通機関」を利用してください。やむを得ず自家用自動車を使用する場合は、自家用自動車使用申出書も併せて提出してください。

(3) 海外渡航・留学届

海外渡航又は留学を計画している学生は、「海外渡航・留学届」を渡航前に必ず学生支援担当へデータにより提出してください。

2-4 休学・復学・退学・除籍について

(1) 休学

病気その他の理由で2か月以上修学できない場合は、願い出により休学することができます。休学しようとする者は、休学願を父母等連署の上、指導教員（主指導教員）及び専攻長の許可を得た上で提出してください。病気の場合は、医師の診断書を添付してください。

休学期間は1か年以内です。ただし、特別の理由により引き続き休学する場合は、改めて願い出なければなりません。なお、休学期間は通算して、博士前期課程にあっては2年を、博士後期課程にあっては3年を超えることはできません。また、休学期間は在学期間に算入されません。

学期開始の月の末日（前期は4月30日，後期は10月31日）までに休学を許可された場合は，月割計算によって休学する翌月から復学する前月までの授業料は免除されます。したがって，学期開始の月の末日後に休学が許可された者は，その学期の授業料は全額納付しなければなりません。

(2) 復 学

休学期間内にその理由が消滅した場合は，復学願を父母等連署の上，指導教員（主指導教員）及び専攻長の許可を得た上で提出してください。なお，休学期間満了に伴う復学の場合には，休学期間満了前に復学届を提出してください。

(3) 退 学

退学しようとする者は，退学願を父母等連署の上，詳細な理由を記入し，指導教員（主指導教員）及び専攻長の許可を得た上で提出してください。

退学する場合には，その学期に属する授業料は納付しなければなりません。

また，退学する者は学生証を返納しなければなりません。

(4) 除 籍

在学期間が修業年限の2倍を超えた者，成業の見込みがないと判断された者は除籍されます。また，授業料の納付を怠り，催促を受けてもなお納付しない者も除籍されます。

※(1)～(3)を申請する際は，所定の様式を教育支援担当に提出して下さい。

3. 授業料

3-1 授業料の納入方法

授業料は、次の4つの納付パターンから選択して口座振替により納付していただきます。

この方法は、本学指定の銀行の口座（学生本人又は保護者名義）を届け出ていただき、選択された納付パターンに応じて引き落としを行うものです。各月の引落日は、ホームページを参照してください。（山形大学ホームページ→学生生活→学費・授業料免除・奨学金）

納付パターン

1. 年1回払い（1年間分の授業料を4月に振替）
2. 年2回払い（前期分は4月、後期分は10月に振替）
3. 年10回均等払い（前期分は4～8月、後期分は10月～2月の各月に振替）
4. 年10回ボーナス併用払い（年10回払いで、前期分は8月、後期分は1月にボーナス分を加算して振替）

3-2 授業料の免除について

授業料の納付が困難な場合に、願い出により選考の上、前期・後期毎に、その期の授業料の全額又は半額を免除する制度があります。

経済的理由による免除：経済的理由等によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる者

特別な事情による免除：授業料の納期前6ヶ月（新入学者については1年）以内において、学生の学資を主として負担している者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の被害を受け授業料の納付が困難と認められる場合

授業料の免除に関する諸手続きは、学生支援担当で取り扱います。

注意事項

- 申請手続、提出書類、期日等については、その都度掲示板やホームページで周知しますので注意してください。
- 授業料の免除の願い出をした者は、判定結果が出るまで授業料を納付しないでください。

4. 奨学制度について

4-1 日本学生支援機構（旧日本育英会）

(1) 出願の資格

学業、人物ともに優秀、かつ健康で、経済的理由により修学困難と認められる者

(2) 奨学金の種類と貸与月額

種 別			貸 与 月 額
第 一 種 奨 学 金	第 一 種 奨 学 金	博士前期	50,000円 又は 88,000円の何れかを選択する。
		博士後期	80,000円 又は 122,000円の何れかを選択する。
	授 業 料 後払い制度	博士前期	○授業料支援金 最大 535,800円 (1年間の額。この額を「支援対象授業料」といい、学校が金額を決定します。) に、保証料相当額を加えた額 ※申込者は支援対象授業料の額を選択することはできません。 支援対象授業料の額は、学校が課している授業料の状況 (納付済みの授業料や授業料減免等)によって変動することがあります。 ○生活費奨学金 0円(利用しない) 20,000円 40,000円のうち、 何れかを選択
第二種奨学金		博士前期 ・ 博士後期	50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 及び150,000円のうち、 何れかを選択する。

(3) 奨学生出願の手続

- 学生支援担当から申請書等の交付を受け、必要書類を提出した上でインターネットにより入力し、手続してください。
- 奨学生募集は、掲示又は山形大学ホームページにより周知しますので期日に遅れないようお願いしてください。

(4) 奨学金継続願の提出

奨学生に採用された者は、毎年冬に奨学金継続願を提出しなければなりません。定めた期限までに提出しない者は「廃止」と認定され、貸与が受けられなくなります。

(5) 奨学生の異動届

奨学生に身分上の異動が生じた場合は、速やかに届け出てください。

4-2 その他の奨学団体

地方公共団体等の奨学生募集は、大学を経由するもの以外に、公報などで周知し本人から直接出願させるものなどがあります。募集通知があり次第、その都度山形大学のホームページにより周知しますので注意してください。

5. 保 健

よりよい学生生活の基盤は何といっても健康です。また、意欲的な学業修得の第一条件も心身ともに健康であることに他なりません。それを全うするためには、学生の皆さんが日々心身に留意し、あらゆる機会と施設を利用して、常に自分の健康は自分が進んで保持し、増進するよう心がけることが大切です。

5-1 保健管理室

日常の軽いけがや大学内での正課、課外活動中、又はその他において負傷又は急病等不時の疾病の場合、開室中であればいつでも診療や応急処置を行いますので利用してください。

5-2 健康診断

(1) 定期健康診断

学生の定期健康診断は、学校保健安全法に基づき毎年4月に行い、注意を要するものについては精密検査を実施し、療養に関する注意や適切な助言指導を行っています。

健康は、自分で作り出すものであるという認識にたって、病気の予防、早期発見のために積極的に健康診断を受診してください。定期健康診断を受診していなければ、健康診断書の発行はできません。未受診の場合は、進学・就職の際支障を来しますので注意してください。

(2) 学校医（専門医）による健康相談

● 内科、毎月1～2回、学校医が学生の健康相談に応じています。詳しい日時は、前もって掲示板に掲示します。

(3) スポーツ関係者健康診断

対外試合出場学生等に対して、随時行います。

5-3 飲酒について

アルコールの多量飲酒や未成年飲酒は、がん等臓器障害やアルコール依存症、さらには暴力や飲酒運転にもつながる可能性があります。

本人のみならず、家族や大学にも深刻な事態をもたらす、お酒にまつわるさまざまな問題をきちんと理解してください。

- ・お酒は20歳になってから。未成年には絶対に飲ませない！
- ・「いっき飲み」は絶対にさせない。
- ・体調の悪い時や服薬中は飲まない。
- ・飲んだら、車・バイク・自転車を絶対に運転しない。
- ・飲酒する人に車を貸さない。飲酒運転の車に同乗しない。

5-4 学生相談室

心の悩みや学習上の悩み等について気軽に相談してもらうことを目的に学生相談室を設けていますので、問題解決の第一歩として是非利用してください。秘密は厳守します。場所は、保健管理室となっています。

5-5 キャンパス・ハラスメント相談

セクシャル・ハラスメント及びアカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等、大学内で起こり得る次のようなハラスメント行為（キャンパス・ハラスメント）は、個人の人権を侵害するものであり、いかなる場合でも許されません。

- ・地位や権限や力関係を利用して、学習、研究等に関する自由と権利を侵害すること。
- ・相手又は周囲の者を不愉快にさせ、学習・研究環境を損なう状況をもたらすこと。
- ・本人が意識しなくとも、相手が「望まない言動」と受け取ること。

キャンパス・ハラスメント防止のためには、お互いの人格を尊重し合う等、ひとりひとりの心構えが最も重要ですが、不幸にも発生してしまった場合には、一人で悩まずに、キャンパス・ハラスメント相談員に相談してください。

キャンパス・ハラスメント相談員は山形大学のホームページ（学内限定）で公開されており、誰にでも相談できます。

(<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/university/open/compliance/camhara/>)

キャンパス・ハラスメント相談員やキャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員には守秘義務がありますので、相談したことが外部に漏れる心配はありません。ハラスメントに限らず悩み事がある場合は学生相談室がありますので、遠慮なく相談してください。

6. 学生教育研究災害傷害保険

学生の傷害に対する救済措置として「学生教育研究災害傷害保険制度」が設けられています。これは、全国の大学に学ぶ学生諸君が「互助共済制度」によって災害事故に適切な救済援助を行うものです。詳細については、「学生教育研究災害傷害保険のごあんない」及び「学生教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。請求手続は、保健管理室で行っています。

7. その他

7-1 図書館の利用について

工学部内に図書館が設けられています。学生証を提示して利用してください。

利用時間	平	日	8 : 45 ~ 21 : 00 (当面の間)
	土	曜	9 : 00 ~ 17 : 00
	日曜・祝日		13 : 00 ~ 17 : 00

ただし、学生の休業等における期間中は、平日のみ8 : 45 ~ 17 : 00となります。

(HP アドレス <https://www.lib.yamagata-u.ac.jp/yztop/>)

7-2 火災防止

- (1) 火災防止については、特に注意を払い災害の起こらぬよう心がけてください。
- (2) 整備に不完全な点を認めた場合は、直ちに警務員室又は施設管理担当に連絡してください。
- (3) キャンパス内は全面禁煙です。
- (4) 実習、実験等で火気を使用する場合は、その取扱い及び後始末は特に注意してください。
また、木造の施設を使用する場合も、火の後始末は十分に注意してください。
- (5) 屋外での焚火はしないでください。

7-3 遺失，拾得物

構内，教室等において，遺失，拾得したときは，速やかに学生支援担当に届け出てください。

7-4 盗難の予防

キャンパス内は，外部からの出入りが容易であり，不審者の特定も困難であるため，盗難予防には十分に留意してください。教室内，研究室内，課外活動共用施設等において被害に遭わないよう，金品の管理を怠りなく，また，自転車等にも鍵をかけ忘れのないよう，十分気をつけてください。

7-5 緊急時の連絡について

地震，風水害，火災等で被災した学生は，自分及び友人の安否，被災の程度について，速やかに学生支援担当と指導教員（主指導教員）に連絡してください。

学生支援担当 TEL：0238-26-3017 FAX：0238-26-3406

Mail：yu-kougakusei@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

V 諸 規 則 等

1. 山形大学大学院規則

昭和39年4月1日

目次

第1章 総則(第1条・第1条の2)

第2章 標準修業年限(第2条・第3条)

第3章 入学, 進学, 休学, 退学等(第4条―第11条)

第4章 教育方法等(第11条の2―第17条)

第5章 教育職員免許(第18条)

第6章 課程修了の要件及び学位の授与(第19条―第23条)

第7章 科目等履修生, 研究生, 特別聴講学生, 特別研究学生及び外国人留学生(第24条―第28条)

第8章 検定料, 入学料, 授業料及び寄宿料(第29条)

第9章 岩手大学大学院連合農学研究科における教育研究の実施(第30条)

第10章 雑則(第31条)

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は, 国立大学法人山形大学及び山形大学基本組織規則第25条第3項の規定に基づき, 山形大学大学院(以下「本大学院」という。)における教育の実施について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第1条の2 本大学院は, 学術の理論及び応用を教授研究し, その深奥を究め, 又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い, 文化の進展に寄与することを目的とする。

2 各研究科の目的, 課程・専攻及び収容定員は, 次のとおりとする。

研究科	目的	課程・専攻	入学定員	収容定員
理工学研究科	種々の分野で先端科学技術を将来にわたり維持し発展させるために, 広範な基礎学力に基づいた高度の専門知識と能力を備えた, 柔軟で独創性豊かな科学者及び技術者の養成を目的とする。	博士前期課程		
		理学専攻	53	106
		化学・バイオ工学専攻	67	134
		情報・エレクトロニクス専攻	62	124
		建築・デザイン・マネジメント専攻	12	24
		機械システム工学専攻	63	126
		小計	257	514
		博士後期課程		
		地球共生圏科学専攻	5	15
		先進工学専攻	16	48
有機材料システム研究科	有機材料を最大限に活用した新たな付加価値を持つシステムである有機材料システムは, 人と人, 人とモノを有機的につなげ, アンビエントな社会を実現するための社会基盤技術として期待が高まっている分野であり, 当該技術を社会(地域)実装するためのエンジンとなる人材の養成を目的とする。	博士前期課程		
		有機材料システム専攻	98	196
		博士後期課程		
		有機材料システム専攻	10	30
		計	108	226

備考 博士課程(医学系研究科医学専攻を除く。)は, これを前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)及び後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分し, 博士前期課程は, これを修士課程として取り扱う。

第2章 標準修業年限

(標準修業年限)

第2条 修士課程及び専門職学位課程の標準修業年限は、2年とする。

2 医学系研究科看護学専攻及び先進的医科学専攻、理工学研究科並びに有機材料システム研究科の博士課程の標準修業年限は、5年とし、博士前期課程の標準修業年限は2年、博士後期課程の標準修業年限は、3年とする。

3 医学系研究科医学専攻博士課程の標準修業年限は、4年とする。

4 在学期間は、標準修業年限の2倍の年数を超えることができない。

(在学期間の短縮)

第2条の2 第15条の規定により入学する前に修得した単位(学校教育法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により修士課程及び博士前期課程又は博士課程(医学系研究科医学専攻に限る。以下同じ。)の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、修士課程及び博士前期課程又は博士課程については、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。

(長期履修学生)

第3条 学生が、職業を有している等の事情により前条に規定する標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する場合は、研究科長が許可する。

2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 入学、進学、休学、退学等

(入学等)

第4条 入学、進学、休学、退学等は、国立大学法人山形大学及び山形大学基本組織規則第26条に規定する研究科委員会(以下「委員会」という。)の意見を聴いた上で、学長が許可する。

(入学の時期)

第5条 入学の時期は、毎年4月とする。

2 学年の途中においても、学期の区分に従い、入学させることがある。

(修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程の入学資格)

第6条 修士課程及び博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に定める大学(以下「大学」という。)を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

(9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(10) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得

したものと認めた者

(11) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(12) 研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

2 専門職学位課程に入学することのできる者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に定める免許状を有し、かつ、前項各号のいずれかに該当する者とする。

(博士後期課程の入学資格)

第7条 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 修士の学位又は専門職学位を有する者

(2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者

(5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(以下「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

(6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、第19条第3項に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)

(8) 研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

(医学系研究科医学専攻博士課程の入学資格)

第8条 医学系研究科医学専攻博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 大学の医学科、歯学科又は修業年限が6年の課程の薬学科若しくは獣医学科を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により医学、歯学、薬学又は獣医学を専攻分野とする学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者

(5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、その最終の課程が医学、歯学、薬学又は獣医学であった者

(6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価をうけたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者

(7) 文部科学大臣の指定した者(昭和30年文部省告示第39号)

(8) 大学(医学、歯学又は修業年限が6年の課程の薬学若しくは獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修

得したものと認めた者

- (9) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (11) 研究科において、個別の入学資格審査により、大学の医学科、歯学科又は修業年限が6年の課程の薬学科若しくは獣医学科を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したものの

(入学者選抜)

第9条 入学志願者については、別に定める入学者受入れ方針に基づき、選抜を行う。

2 入学者の選抜については、別に定めるところによる。

(博士後期課程への進学)

第9条の2 修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学を志願する者については、選考の上、進学を許可する。

2 第13条の2に規定する博士課程5年一貫教育プログラムを選択している者で、博士前期課程に2年以上在学し、引き続き博士後期課程に進学する者については、選考の上、進学を許可する。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が定めた要件を満たした者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(休学)

第10条 休学期間は通算して、修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程にあつては2年を、博士後期課程にあつては3年を、医学系研究科医学専攻博士課程にあつては4年を超えることはできない。

(留学)

第11条 本大学院と協定を締結している外国の大学院又はこれに相当する教育研究機関に留学しようとする者は、願い出なければならない。

2 留学期間は、在学期間に算入する。

3 第1項に規定する外国の大学院又はこれに相当する教育研究機関との交流協定に基づく留学生の派遣に関する必要な事項は、別に定める。

第4章 教育方法等

(教育課程)

第11条の2 本大学院(専門職学位課程を除く。次項並びに第12条及び第12条の2において同じ。)は、当該大学院、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために、別に定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき、必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、本大学院は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

3 専門職学位課程は、その教育上の目的を達成するために、別に定める学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき、専攻分野に応じ必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

4 専門職学位課程は、専攻に係る職業を取り巻く状況を踏まえて必要な授業科目を開発し、当該職業の動向に即した教育課程の編成を行うとともに、当該状況の変化に対応し、授業科目の内容、教育課程の構成等について、不断の見直しを行うものとする。

(教育方法)

第12条 本大学院における教育は、授業科目の授業及び研究指導により行う。

2 専門職学位課程における教育は、授業科目の授業により行う。この場合において、専門職学位課程は、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう専攻分野に応じ事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮するものとする。

(成績評価基準等の明示等)

第12条の2 本大学院においては、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本大学院においては、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するために、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

3 専門職学位課程においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

4 専門職学位課程においては、学修の成果に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(履修方法等)

第13条 各研究科における授業科目の内容及び単位数、履修方法等については、当該研究科において定める。

(博士課程5年一貫教育プログラム)

第13条の2 優秀な学生を高度な基盤力をもった博士リーダー人材へと導くため、博士前期課程から博士後期課程までの一貫した教育を行う特別な教育プログラムとして、博士課程5年一貫教育プログラムを履修させることができる。

2 博士課程5年一貫教育プログラムにおける授業科目の内容及び単位数、履修方法等については、大学院基盤教育機構において定める。

(成績の評価)

第13条の3 一の授業科目を履修し、成績の審査に合格した者には、所定の単位を与える。

2 前項の成績の評価は、試験、報告書、論文、平常の成績等によって行う。

3 各授業科目の成績は、100点を満点として次の評価点、成績区分及び評価基準をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

評価点	成績区分	評価基準
100～90点	S	到達目標を達成し、きわめて優秀な成績をおさめている。
89～80点	A	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている。
79～70点	B	到達目標を達成している。
69～60点	C	到達目標を最低限達成している。
59～0点	F	到達目標を達成していない。

(他の大学院における履修等)

第14条 教育上有益と認めるとき、研究科長は、他の大学院との協定に基づき、学生が当該大学院において履修した授業科目について修得した単位を、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第11条に規定する留学の場合に準用する。

3 前2項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて15単位を超えないものとする。

4 前項の規定にかかわらず、専門職学位課程にあっては、第22条第1項に規定する修了要件として定める単位数の2分の1を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第15条 教育上有益と認めるとき、研究科長は、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、転入学及び再入学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとする。

3 前項の規定にかかわらず、専門職学位課程にあっては、転入学及び再入学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条の規定により本大学院において修得したものとみなす単位数及び第22条第2項の規定により免除する単位数と合わせて、第22条第1項に規定する修了要件として定める単位数の2分の1を超えないものとする。

(他の大学院等における修得単位の取扱い)

第15条の2 本大学院において前2条により修得したものとみなすことができる単位数は、合わせて20単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第16条 教育上有益と認めるとき、研究科長は、他の大学院又は研究所等とあらかじめ協議の上、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の研究指導を受けようとする者は、研究科長の許可を得なければならない。

3 第1項の規定による研究指導は、課程の修了の要件となる研究指導として認定することができる。

(教育方法の特例)

第17条 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第5章 教育職員免許

(教育職員免許)

第18条 教育職員の免許状を受けようとするときは、教育職員免許法及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院の研究科の専攻において、取得できる教育職員の免許状の種類及び教科は、別表のとおりとする。

第6章 課程修了の要件及び学位の授与

(修士課程及び博士前期課程の修了要件)

第19条 修士課程及び博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の場合において、研究科が当該課程の目的に応じ適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3 博士前期課程の修了の要件は、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合には、前2項に規定する研究科の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、研究科が行う次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。

(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験

(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期課程において修得すべきものについての審査

(博士後期課程の修了要件)

第20条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、研究科が定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第16条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者については、前項ただし書中「1年」とあるのは「博士後期課程の標準修業年限3年から修士課程又は博士前期課程における在学期間を減じた期間」と読み替えて、同項の規定を適用する。

(医学系研究科医学専攻博士課程の修了要件)

第21条 医学系研究科医学専攻博士課程の修了の要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

(専門職学位課程の修了要件)

第22条 専門職学位課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、研究科が定める授業科目について、45単位以上を修得することとする。

2 前項の規定にかかわらず、専門職学位課程において、教育上有益と認めるときは、入学する前の小学校等の教員としての実務経験を有する者について、10単位を超えない範囲で、前項に規定する修了要件単位数を免除することがある。

(学位の授与)

第23条 第19条から前条までの規定により課程修了の要件を満たした者に、当該研究科委員会の意見を

聴いた上で、山形大学学位規程に定めるところにより、学位を与える。

2 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第7章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、特別研究学生及び外国人留学生

(科目等履修生)

第24条 本大学院の学生以外の者で、本大学院が開設する一又は複数の授業科目を履修しようとする者があるときは、授業及び研究に妨げのない限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第25条 本大学院において、専門事項について更に攻究しようとする者があるときは、授業及び研究の妨げのない限り、選考の上、研究生として入学を許可する。

2 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第26条 本大学院との協定による他の大学院の学生で、本大学院の特定の授業科目を履修しようとする者があるときは、委員会の意見を聴いた上で、学長が特別聴講学生として許可する。

2 特別聴講学生については、山形大学(以下「本学」という。)の諸規則中、学生に関する規定を準用する。

3 第1項に規定する外国の大学院との交流協定に基づく留学生受入れに関する必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第27条 他の大学院の学生で、本大学院において研究指導を受けようとする者があるときは、あらかじめ他大学院との協議の上、研究科長が特別研究学生として許可する。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第28条 外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可する。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料等の額)

第29条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、国立大学法人山形大学における授業料その他の費用に関する規程の定めるところによる。

2 前項の規定にかかわらず、科目等履修生及び研究生については検定料、入学料及び授業料を、特別聴講学生及び特別研究学生については授業料を、協定の定めるところにより、徴収しないことができる。

第9章 岩手大学大学院連合農学研究科における教育研究の実施

(連合大学院)

第30条 岩手大学大学院に設置される連合農学研究科の教育研究の実施に当たっては、本学は、弘前大学及び岩手大学とともに協力するものとする。

2 前項の連合農学研究科に置かれる連合講座は、弘前大学農学生命科学研究科及び地域共創科学研究科並びに岩手大学総合科学研究科の教員とともに、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として本学農学部配置された教員がこれを担当するものとする。

第10章 雑則

(学部規則の準用)

第31条 この規則に定められていない事項については、山形大学学部規則を準用する。この場合において、「学部教授会」とあるのは「研究科委員会」と、「学部長」とあるのは「研究科長」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、昭和39年4月1日から施行する。

(省略)

附 則(令和4年12月21日)

1 この規則は、令和5年4月1日から施行する。

2 理工学研究科博士後期課程(物質化学工学専攻、バイオ工学専攻、電子情報工学専攻、機械システム工学専攻、ものづくり技術経営学専攻)は、改正後の規則第1条の2第2項の規定にかかわらず、令和

5年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

- 3 改正後の規則第1条の2第2項の規定にかかわらず、令和5年度から令和6年度までの医学系研究科、理工学研究科及び農学研究科の各専攻の収容定員は、次のとおりとする。

研究科・専攻	令和5年度収容定員	令和6年度収容定員
医学系研究科		
博士課程		
医学専攻	104	104
博士前期課程		
看護学専攻	26	20
先進的医科学専攻	12	12
博士後期課程		
看護学専攻	9	9
先進的医科学専攻	12	12
計	163	157
理工学研究科		
博士前期課程		
理学専攻	106	106
化学・バイオ工学専攻	134	134
情報・エレクトロニクス専攻	124	124
建築・デザイン・マネジメント専攻	24	24
機械システム工学専攻	126	126
博士後期課程		
地球共生圏科学専攻	15	15
先進工学専攻	16	32
物質化学工学専攻	6	3
バイオ工学専攻	8	4
電子情報工学専攻	8	4
機械システム工学専攻	6	3
ものづくり技術経営学専攻	4	2
計	577	577
農学研究科		
修士課程		
農学専攻	70	76
計	70	76

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

別表

研究科	専攻	免許状の種類	教科
理工学研究科	理学専攻	中学校教諭 専修免許状	数学，理科
		高等学校教諭 専修免許状	数学，理科
	化学・バイオ工学専攻	高等学校教諭 専修免許状	工業
	機械システム工学専攻	高等学校教諭 専修免許状	工業

2. 山形大学学位規程

昭和54年4月21日
全部改正

目次

- 第1章 総則(第1条—第4条)
- 第2章 学士の学位授与(第5条・第6条)
- 第3章 修士の学位授与(第7条—第16条)
- 第4章 博士の学位授与
 - 第1節 課程による博士(第17条—第26条)
 - 第2節 論文審査等による博士(第27条—第38条)
- 第5章 教職修士(専門職)の学位授与(第39条—第42条)
- 第6章 雑則(第43条—第48条)
- 附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号。以下「省令」という。)第13条第1項、山形大学学部規則(以下「学部規則」という。)第39条第2項及び山形大学大学院規則(以下「大学院規則」という。)第23条第2項の規定に基づき、山形大学(以下「本学」という。)が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、博士及び教職修士(専門職)とする。

(専攻分野の名称)

第3条 学位に付記する専攻分野の名称は、別表のとおりとする。

(学位の名称)

第4条 本学の学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、「山形大学」と付記するものとする。

第2章 学士の学位授与

(学士の学位授与の要件)

第5条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(学位の授与)

第6条 学長は、学部規則第38条の規定に基づき、卒業を認定した者に所定の学位記を交付して学士の学位を授与する。

第3章 修士の学位授与

(修士の学位授与の要件)

第7条 修士の学位は、本学大学院修士課程又は博士前期課程(以下「修士課程」という。)を修了した者に授与する。

(修士に係る学位論文の提出)

第8条 修士の学位論文(大学院規則第19条第2項に規定する特定の課題についての研究の成果を含む。以下同じ。)は、当該学位論文の提出者が所属する研究科の研究科長に提出するものとする。

2 前項の提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

3 審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の訳本、模型又は標本等の資料を提出させることができる。

(学位論文の返付)

第9条 前条の規定により受理した学位論文は、いかなる事情があっても返付しない。

第10条 削除

(審査委員)

第11条 研究科長は、第8条の規定による学位論文を受理したとき又は大学院規則第19条第3項に規定する試験及び審査(以下「特定審査」という。)を行うときは、学位論文内容又は特定審査に関連する科目の教授の中から3人以上の審査委員を選出し、学位論文の審査及び最終試験又は特定審査を行うものとする。ただし、必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として当該研究科に配置された教授以外の教員を審査委員に選ぶことができる。

2 研究科長は、学位論文の審査及び最終試験又は特定審査に当たって必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として本学大学院の他の研究科に配置された教員又は

他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

(最終試験)

第12条 修士の学位論文の提出者に課す最終試験は、学位論文の審査が終わった後、当該学位論文を中心として、これに関連のある事項について口頭又は筆答により行う。

(特定審査)

第12条の2 特定審査は、博士前期課程において修得し、又は涵養すべき専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養について筆記等による試験を行うとともに、博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力について研究報告の提出及び口頭試問等による審査を行うものとする。

(審査委員の報告)

第13条 審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は特定審査を終了したときは、直ちにその結果を文書をもって研究科長に報告しなければならない。

(研究科委員会の意見聴取)

第14条 研究科長は、大学院規則第19条の規定に基づき、修士の学位を授与すべきか否かについて、研究科委員会から意見を聴取するものとする。

(学長への報告)

第15条 研究科長は、前条の意見聴取の結果について、学長に報告しなければならない。

2 学長は、前項の報告に疑義があるときは、理由を付して研究科長に再審査を求めることができる。

この場合において、当該研究科委員会は、再審査を行い、その結果を研究科長は遅滞なく学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第16条 学長は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを決定し、学位を授与すべき者には、所定の学位記を交付して修士の学位を授与する。

第4章 博士の学位授与

第1節 課程による博士

(博士の学位授与の要件)

第17条 博士の学位は、本学大学院博士課程を修了した者に授与する。

(課程による博士に係る学位論文の提出)

第18条 課程による博士の学位論文は、当該学位論文の提出者が所属する研究科の研究科長に提出するものとする。

2 前項の提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

3 審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の訳本、模型又は標本等の資料を提出させることができる。

(学位論文の返付)

第19条 前条の規定により受理した学位論文は、いかなる事情があっても返付しない。

第20条 削除

(審査委員)

第21条 研究科長は、第18条の規定による学位論文を受理したときは、論文内容に関連する科目の教授の中から3人以上の審査委員を選出し、論文の審査及び最終試験を行うものとする。ただし、必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として当該研究科に配置された教授以外の教員を審査委員に選ぶことができる。

2 研究科長は、学位論文の審査に当たって必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として本学大学院の他の研究科に配置された教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

(最終試験)

第22条 課程による博士の学位論文の提出者に課す最終試験は、学位論文の審査が終わった後、当該学位論文を中心として、これに関連のある事項について口頭又は筆答により行う。

(審査委員の報告)

第23条 審査委員は、学位論文の審査及び最終試験を終了したときは、直ちにその結果を文書をもって研究科長に報告しなければならない。

(研究科委員会の意見聴取)

第24条 研究科長は、大学院規則第20条又は第21条の規定に基づき、博士の学位を授与すべきか否かについて、研究科委員会から意見を聴取するものとする。

(学長への報告)

第25条 研究科長は、前条の意見聴取の結果について、学長に報告しなければならない。

- 2 学長は、前項の報告に疑義があるときは、理由を付して研究科長に再審査を求めることができる。
この場合において、当該研究科委員会は、再審査を行い、その結果を研究科長は遅滞なく学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第26条 学長は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを決定し、学位を授与すべき者には、所定の学位記を交付して博士の学位を授与する。

第2節 論文審査等による博士

(論文審査等による博士の学位)

第27条 第17条の規定によるもののほか、博士の学位は、博士課程を経ない者であっても本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、本学大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

(論文による学位授与の申請)

第28条 前条の規定により博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書(別記様式1)に学位論文、論文目録、論文内容の要旨、履歴書及び学位論文審査手数料を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。

- 2 前項の場合において、本学大学院博士課程(医学系研究科先進的医科学専攻及び看護学専攻、理工学研究科並びに有機材料システム研究科にあっては博士後期課程)に標準修業年限以上在学し所定の単位を修得して退学した者が、退学後1年以内に学位論文を提出した場合には、学位論文審査手数料は免除する。

- 3 第1項の提出する学位論文は、1編とする。ただし、参考として他の論文を添付することができる。

- 4 審査のため必要があるときは、学位論文の提出者に対して当該論文の訳本、模型又は標本等の資料を提出させることができる。

- 5 第1項の学位論文審査手数料の額は、山形大学における授業料その他の費用に関する規程の定めるところによる。

(学位論文及び学位論文審査手数料の返付)

第29条 前条の規定により受理した学位論文及び収納した学位論文審査手数料は、いかなる事情があっても返付しない。

第30条 削除

(審査委員)

第31条 研究科長は、第28条第1項の申請を受理したときは、論文内容に関連する科目の教授の中から3人以上の審査委員を選出し、論文の審査及び学力の確認を行うとともに、学長に学位申請書等を提出するものとする。ただし、必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として当該研究科に配置された教授以外の教員を審査委員に選ぶことができる。

- 2 研究科長は、学位論文の審査に当たって必要があるときは、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として本学大学院の他の研究科に配置された教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に加えることができる。

(学力の確認)

第32条 第27条の規定により博士の学位の授与を申請した者に課す学力の確認は、口頭又は筆答により、専攻学術及び外国語について、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認するために行う。この場合において、外国語については原則として2種類を課するものとする。

(学力確認の特例)

第33条 第27条の規定により博士の学位の授与を申請した者が、本学大学院の博士課程(医学系研究科先進的医科学専攻及び看護学専攻、理工学研究科並びに有機材料システム研究科にあっては博士後期課程)に所定の標準修業年限以上在学し所定の単位を修得した者であるときは、前条の学力の確認を免除することができる。

(審査期間)

第34条 第27条の規定による博士の学位論文の審査及び学位授与に係る学力の確認は、学位授与の申請を受理した日から1年以内に終了するものとする。

(審査委員の報告)

第35条 審査委員は、学位論文の審査及び学力の確認を終了したときは、直ちにその結果を文書をもって研究科長に報告しなければならない。

(研究科委員会の意見聴取)

第36条 研究科長は、前条の報告に基づき、博士の学位を授与すべきか否かについて、研究科委員会から意見を聴取するものとする。

(学長への報告)

第37条 研究科長は、前条の意見聴取の結果について、学長に報告しなければならない。

2 学長は、前項の報告に疑義があるときは、理由を付して研究科長に再審査を求めることができる。この場合において、当該研究科委員会は、再審査を行い、その結果を研究科長は遅滞なく学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第38条 学長は、学位論文の審査に合格し、かつ、学力が確認された者に所定の学位記を交付して博士の学位を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。

第5章 教職修士(専門職)の学位授与

(教職修士(専門職)の学位授与の要件)

第39条 教職修士(専門職)の学位は、本学大学院専門職学位課程を修了した者に授与する。

(教育実践研究科委員会の意見聴取)

第40条 教育実践研究科長は、大学院規則第22条の規定に基づき、教職修士(専門職)の学位を授与すべきか否かについて、教育実践研究科委員会から意見を聴取するものとする。

(学長への報告)

第41条 教育実践研究科長は、前条の意見聴取の結果について、学長に報告しなければならない。

2 学長は、前項の報告に疑義があるときは、理由を付して教育実践研究科長に再審査を求めることができる。この場合において、教育実践研究科委員会は、再審査を行い、その結果を研究科長は遅滞なく学長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第42条 学長は、前条の報告に基づき、学位を授与すべきか否かを決定し、学位を授与すべき者には、所定の学位記を交付して教職修士(専門職)の学位を授与する。

第6章 雑則

(学位授与の報告)

第43条 学長は、第26条及び第38条の規定により博士の学位を授与したときは、省令第12条の規定に基づき、文部科学大臣に報告するものとする。

(学位論文要旨等の公表)

第44条 本学は、博士の学位を授与したときは、省令第8条の規定に基づき、学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第45条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内にその学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位の授与を受ける前に公表しているときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、学長の承認を受けて、論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、学長は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供しなければならない。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

4 第1項及び第2項の規定により公表する場合には、「山形大学審査学位論文」又は「山形大学審査学位論文要旨」と明記しなければならない。

(学位授与の取消)

第46条 本学において学位を授与された者が、その名誉を汚す行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該教授会又は当該研究科委員会の意見を聴いた上で学位の授与を取り消し、学位記を返付させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(学位記等の様式)

第47条 学位記の様式は、別記様式2のとおりとする。

(その他)

第48条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に関し必要な事項は、当該学部長又は当該研究科長が学長の承認を得て定める。

附 則

この規則は、昭和54年4月21日から施行し、昭和54年4月1日から適用する。

(省略)

附 則(平成28年1月25日)

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。ただし、別表「博士の学位(論文審査等による博士)」の改正規定は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の山形大学学位規程の規定にかかわらず、平成28年3月31日に理工学研究科博士前期課程の機能高分子工学専攻及び有機デバイス工学専攻並びに同研究科博士後期課程の有機材料工学専攻に在学する者の学位授与の取扱いについては、なお従前の例による。

附 則(平成29年1月23日)

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 改正後の山形大学学位規程の規定にかかわらず、平成29年3月31日に人文学部、地域教育文化学部(地域教育文化学科の異文化交流コース、造形芸術コース、音楽芸術コース、スポーツ文化コース、食環境デザインコース、生活環境科学コース、システム情報学コース)、理学部、工学部(機能高分子工学科、物質化学工学科、バイオ化学工学科、応用生命システム工学科、情報科学科、電気電子工学科)、医学系研究科博士前期課程の生命環境医科学専攻、同研究科博士後期課程の生命環境医科学専攻及び理工学研究科博士前期課程の数理科学専攻、物理学専攻、物質生命化学専攻、生物学専攻、地球環境学専攻に在学する者の学位授与の取扱いについては、なお従前の例による。

附 則(平成31年1月11日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日に博士課程教育リーディングプログラムを履修している者については、なお従前の例による。

附 則(令和2年12月16日)

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 改正後の山形大学学位規程の規定にかかわらず、令和3年3月31日に社会文化システム研究科修士課程(文化システム専攻、社会システム専攻)、地域教育文化研究科修士課程(臨床心理学専攻、文化創造専攻)、理工学研究科博士前期課程(物質化学工学専攻、バイオ化学工学専攻、応用生命システム工学専攻、情報科学専攻、電気電子工学専攻、ものづくり技術経営学専攻)及び農学研究科修士課程(生物生産学専攻、生物資源学専攻、生物環境学専攻)に在学する者の学位授与の取扱いについては、なお従前の例による。

附 則(令和3年3月18日)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則(令和4年12月21日)

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定にかかわらず、令和5年3月31日に理工学研究科博士後期課程(物質化学工学専攻、バイオ工学専攻、電子情報工学専攻、機械システム工学専攻、ものづくり技術経営学専攻)に在学する者の学位授与の取扱いについては、なお従前の例による。

附 則(令和6年3月19日)

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

別表

学士の学位

学部	学科	履修コース	学位の種類及び専攻分野の名称
工学部	高分子・有機材料工学科		学士(工学)
	化学・バイオ工学科		
	情報・エレクトロニクス学科		
	機械システム工学科		
	建築・デザイン学科		
	システム創成工学科		

修士の学位

研究科	専攻	課程	学位の種類及び専攻分野の名称
理工学研究科	理学専攻	博士前期課程	修士(理学)
	化学・バイオ工学専攻	博士前期課程	修士(工学)
	情報・エレクトロニクス専攻		
	建築・デザイン・マネジメント専攻		
	機械システム工学専攻		
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻	博士前期課程	修士(工学)

博士の学位(課程による博士)

研究科	専攻	課程	学位の種類及び専攻分野の名称
理工学研究科	地球共生圏科学専攻	博士後期課程	博士(理学)
			博士(工学)
			博士(学術)
	先進工学専攻	博士後期課程	博士(工学)
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻	博士後期課程	博士(工学)

博士の学位(論文審査等による博士)

研究科	学位の種類及び専攻分野の名称
理工学研究科	博士(理学)
	博士(工学)
	博士(学術)
有機材料システム研究科	博士(工学)

3. 山形大学大学院長期履修学生に関する規程

平成16年6月9日
改正 令和4年5月18日

(趣旨)

第1条 この規程は、山形大学大学院規則第3条の規定に基づき、長期にわたる教育課程を履修する学生(以下「長期履修学生」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(対象)

第2条 長期履修学生を希望することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。ただし、修了予定年次に在籍する者は希望することができない。

- (1) 職業を有し、所属長の承諾を得た者
 - (2) その他やむを得ない事情であると研究科長が認める者
- (申請手続)

第3条 本学大学院に入学する者で、長期履修学生を希望する者は、別記様式1により、各研究科が別に定める期間内に学長に申請しなければならない。

2 本学大学院に在籍する者(修了予定年次に在籍する者を除く。)で、長期履修学生を希望する者は、別記様式1により、長期履修の期間となる学期前の各研究科が別に定める期間内に、学長に申請しなければならない。

(許可)

第4条 前条の申請に対しては、研究科が行う審査を経て、学長が許可する。

2 審査は、申請書及び面談により行うものとする。

(長期履修の期間)

第5条 長期にわたる教育課程を履修することができる期間は、山形大学大学院規則第2条第4項に規定する期間以内とし、年又は学期単位とする。

(履修期間の変更)

第6条 長期履修学生が、許可された履修期間の変更を希望する場合は、別記様式2により、変更を希望する学期前の各研究科が別に定める期間内に、学長に申請しなければならない。

2 許可された履修期間の変更は、在籍期間中1回限りとする。ただし、修了予定年次開始後の変更はできないものとする。

(履修期間変更の許可)

第7条 前条の申請に対しては、第4条の規定を準用する。

(教育課程の編成)

第8条 長期履修学生に係る教育課程の編成は、当該研究科が定める履修方法を弾力的に運用するものとし、長期履修学生に限定した教育課程の編成は行わないものとする。

(長期履修学生となる時期等)

第9条 長期履修学生となる時期及び履修期間を変更する時期は、原則として学期の初めとする。

(授業料)

第10条 長期履修学生の授業料の年額は、国立大学法人山形大学における授業料その他の費用に関する規程の定めるところによる。

2 長期履修学生として許可された履修期間を超えた場合の授業料は、一般の学生と同様の授業料を適用する。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行し、平成16年度入学者から適用する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則(令和4年5月18日)

この規程は、令和4年5月18日から施行する。

別記様式1(第3条関係)

長期履修学生申請書

年 月 日

山形大学長 殿

研究科

専攻

ふりがな
氏 名

印

下記のとおり，長期履修学生を希望したいので申請します。

記

受験番号（学生番号）			
入 学 年 月 日		修 了 予 定 年 月 日	修業予定年数
年 月 日入学		年 月 日修了	年 か月
現住所	〒 - Tel - -		
勤務先	勤務先名（職種等） 所在地 〒 - Tel - -		
申請理由 長期履修の必要性： 長期履修計画：			
指導教員の意見			
指導教員氏名			印

別記様式2(第6条関係)

長期履修期間変更申請書

年 月 日

山形大学長 殿

研究科 専攻

ふりがな
氏 名 印

下記のとおり，長期履修期間を変更したいので申請します。

記

学 生 番 号			
入学年月日	年 月 日 入学		
現在の修了 予定年月日	年 月 日 修了		
現在の 履修期間	年 月 日 から (年 か月) 年 月 日 まで		
変更後の修了 予定年月日	年 月 日 修了		
変更後の 履修期間	年 月 日 から (年 か月) 年 月 日 まで		
長期履修期間変更を必要とする理由：			
指導教員の意見			
指導教員氏名			印

4. 山形大学大学院有機材料システム研究科長期履修学生に関する内規

平成28年8月30日

改正 令和4年7月20日

(趣旨)

- 1 この内規は、山形大学大学院長期履修学生に関する規程に基づき、山形大学大学院有機材料システム研究科における長期履修学生の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(対象)

- 2 長期履修学生を希望することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、修了予定年次に在籍する者は希望することができない。

(1) 職業を有し、所属長の承諾を得た者

(2) その他やむを得ない事情であると研究科長が認める者

(申請手続)

- 3 本学大学院有機材料システム研究科に入学する者で、長期履修学生を希望する者は、指導教員の承諾を得て、原則として学期前に長期履修学生申請書を研究科長に提出しなければならない。
- 4 本学大学院有機材料システム研究科に在籍する者(修了予定年次に在籍する者を除く。)で、長期履修学生を希望する者は、指導教員の承諾を得て、原則として学期前に長期履修学生申請書を研究科長に提出しなければならない。

(審査)

- 5 研究科長は、前2項の申請書を受理したときは、教務委員会にその審査を付託する。
- 6 教務委員会は、申請書及び面談により審査し、その結果を研究科委員会に報告する。
- 7 研究科委員会は、前項の報告に基づき審査し、可否を決定する。

(長期履修の期間)

- 8 長期履修学生の履修期間は、年又は学期単位とし、標準修業年限の2倍を超えることはできない。

(履修期間の変更)

- 9 長期履修学生が、許可された履修期間の変更を希望する場合は、指導教員の承諾を得て、原則として変更を希望する学期前に長期履修期間変更申請書を研究科長に提出しなければならない。
- 10 前項の申請の審査に対しては、第5項から第7項までの規定を準用する。
- 11 許可された履修期間の変更は、在籍期間中1回限りとする。ただし、修了予定年次開始後の変更はできないものとする。

(審査結果の通知)

- 12 研究科長は、審査結果を審査結果通知書(別記様式)により通知するものとする。

(履修方法)

- 13 長期履修学生は、現行の教育課程の範囲内で指導教員と履修計画について打合せの上、履修するものとする。

(その他)

- 14 この内規に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て別に定める。

附 則

この内規は、平成28年8月30日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

附 則(令和4年7月20日)

この内規は、令和4年7月20日から施行する。

別記様式(第12項関係)

審 査 結 果 通 知 書

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科
有機材料システム専攻
様

山形大学大学院有機材料システム研究科長

申請のあった長期履修について、下記のとおり決定されましたので、お知らせします。

記

	入学年月日	修了予定年月日	修業予定年数
申請期間	年 月 日	年 月 日	年 か月

審査の結果、以上の申請を許可する。(不許可とする)

山 形 大 学 長

審 査 結 果 通 知 書

年 月 日

山形大学大学院有機材料システム研究科
有機材料システム専攻
様

山形大学大学院有機材料システム研究科長

申請のあった長期履修期間の変更について、下記のとおり決定されましたので、お知らせします。

記

入学年月日	年 月 日 入学
現在の修了 予定年月日	年 月 日 修了
現 在 の 履 修 期 間	年 月 日 から (年 か月) 年 月 日 まで
変更後の修了 予定年月日	年 月 日 修了
変 更 後 の 履 修 期 間	年 月 日 から (年 か月) 年 月 日 まで

審査の結果、以上の申請を許可する。(不許可とする)

山 形 大 学 長

5. 山形大学大学院有機材料システム研究科学位審査細則

平成28年8月30日
改正 令和元年9月10日
令和3年3月5日
令和3年7月21日
令和3年8月30日

目次

- 第1章 総則(第1条)
- 第2章 修士の学位(第2条—第11条)
- 第3章 課程修了による博士の学位(第12条—第26条)
- 第4章 論文提出による博士の学位(第27条—第37条)
- 第5章 雑則(第38条)

附則

- 第1章 総則
(趣旨)

第1条 この細則は、山形大学大学院規則(以下「大学院規則」という。)及び山形大学学位規則(以下「学位規則」という。)に定めるもののほか、本学大学院有機材料システム研究科の修士及び博士の学位審査等に関し必要な事項を定めるものとする。

- 第2章 修士の学位
(学位論文の審査申請要件)

第2条 学位論文の審査を申請しようとする者(以下「申請者」という。)は、前期又は後期の当該修了日までに、大学院規則第19条に定める修了要件を満たす見込みのある者でなければならない。

- (特定審査)

第2条の2 大学院規則第13条の2に規定する博士課程5年一貫教育プログラムを履修している者は、学位論文審査及び最終試験に代えて、学位規程第12条の2に規定する特定審査を受けることができる。

- 2 特定審査に関し必要な事項は別に定める。

- (学位論文の題目)

第3条 学位論文を提出しようとするときは、あらかじめその論文の題目及び研究内容について指導教員の承認を受けなければならない。

- 2 学位論文の題目は、所定の様式により論文提出の2箇月前に、研究科長に届け出なければならない。
- 3 学位論文の題目を変更しようとする場合の手続は、第1項に準ずるものとする。

- (学位論文の審査申請)

第4条 申請者は、指導教員の承認を得た上、申請書に次に掲げる論文等を添付して研究科長に提出しなければならない。

- (1) 学位論文(和文又は英文)(A4判, 原本) 1部
このほか審査に必要な部数
- (2) 論文内容の要旨(所定の様式) 1部

- 2 申請書等の提出期限は、次のとおりとする。

- (1) 後期提出の場合 2月10日
- (2) 前期提出の場合 8月10日

- 3 前項に定める日が土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日(以下「休業日」という。)に当たるときは、休業日の前日を提出期限とする。

(学位論文審査申請の通知)

第5条 研究科長は、前条の申請書を受理したときは、専攻長にその旨を通知し、山形大学大学院有機材料システム研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)に学位論文審査及び最終試験を付託するものとする。

(学位論文の審査委員の選出)

第6条 研究科長は、研究科委員会に学位規程第11条に規定する修士論文に係る審査委員(以下「修士論文審査委員」という。)の選出を付託する。

2 研究科委員会は、提出された学位論文の修士論文審査委員を博士前期課程担当教員の中から3人以上選出するものとする。ただし、選出された修士論文審査委員が、やむを得ない事由により論文審査を行うことが出来なくなったときは、研究科委員会の議を経て、新たに修士論文審査委員を選出することができる。

3 研究科委員会は、学位論文の審査に当たって必要があるときは、本学大学院の他の研究科又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を修士論文審査委員に加えることができる。この場合、研究科委員会は、その者の資格審査を行うものとする。

(審査委員主査の指名)

第7条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、修士論文審査委員のうちから主査を指名する。その際、原則として申請者の主指導教員以外から主査を指名することとする。ただし、研究科長が当該分野の特殊性を鑑み必要と判断する場合には、主指導教員を主査として指名することができる。なお、指名された主査が、やむを得ない事由により論文審査を行うことが出来なくなった時は、改めて主査を指名する。

(学位論文公聴会)

第8条 専攻長は、提出された学位論文について公聴会を開催するものとする。

(学位論文の審査及び最終試験)

第9条 修士論文審査委員は、学位論文の審査及び最終試験を行い、主査はこれらを主宰する。

2 最終試験は、学位論文の審査が終了した後に学位論文を中心として、これに関連のある科目について、口頭又は筆答により行う。

3 修士論文審査委員は、学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験を行わないものとする。

4 学位論文の審査及び最終試験の結果は、合格又は不合格の評語をもって表す。

(学位論文の審査及び最終試験の結果の報告)

第10条 学位論文の審査及び最終試験が終了したときは、修士論文審査委員は学位論文の審査及び最終試験の結果の要旨を作成し、修士論文審査委員の主査が研究科委員会に報告しなければならない。

(学位授与に係る修了要件の確認)

第11条 研究科委員会は、前条の報告に基づき、大学院規則第19条に定める修了要件を満たしているかを確認する。

2 研究科委員会は、学位規程第14条の規定に基づき、修士の学位を授与すべきか否かについて、研究科長に対し修了要件に基づいて意見を述べるものとする。

第3章 課程修了による博士の学位

(論文計画の提出)

第12条 学位論文についての論文計画(以下「論文計画」という。)の審査を受けようとする者は、主指導教員に論文計画を提出するものとする。

2 論文計画の審査を受けることができる者は、後期課程に2年以上在学し、博士後期課程の履修基準に定める条件を満たした者でなければならない。ただし、在学期間に関し、大学院規則第20条ただし書を適用する者にあつては、この限りでない。

(論文計画審査委員の構成)

第13条 提出された論文計画の審査は、論文計画審査委員として指導教員グループが当たる。

2 前項の場合において、論文計画審査のため必要があるときは、他の大学院又は研究所等の教員等(以下「他教員等」という。)を加えることができる。

3 研究科委員会は、論文計画審査委員の中に他教員等を含むときは、その者の資格審査を行うものとする。

(論文計画の審査)

第14条 論文計画の審査は、申請する学位論文の構成及び内容について行う。

2 論文計画の審査は、次に掲げる期日までに、実施しなければならない。

(1) 後期提出の場合 10月末日

(2) 前期提出の場合 4月末日

3 論文計画の審査結果は、合格又は不合格の評語をもって表す。

(論文計画審査結果の報告)

第15条 論文計画の審査が終了したときは、主指導教員は、論文計画審査結果報告書を研究科委員会に提出しなければならない。

(学位論文の審査申請要件)

第16条 申請者は、論文計画審査に合格するとともに、前期又は後期の当該修了日までに、大学院規則第20条に定める修了要件を満たす見込みのある者でなければならない。

(学位論文の題目)

第17条 学位論文を提出しようとするときは、あらかじめその論文の題目及び研究内容について指導教員グループの承認を受けなければならない。

2 学位論文の題目は、論文計画審査に合格した後、所定の様式により次に掲げる期日までに、研究科長に届け出なければならない。

(1) 後期提出の場合 10月末日

(2) 前期提出の場合 4月末日

3 学位論文の題目を変更しようとする場合の手続は、第1項に準ずるものとする。

(学位論文の審査申請)

第18条 申請者は、指導教員グループの承認を得た上、申請書に次に掲げる論文等を添付して山形大学大学院有機材料システム研究科博士後期課程教務委員会を経て研究科長に提出しなければならない。

(1) 学位論文(和文又は英文) 全文の電子データ

このほかに審査に必要な部数

(2) 論文目録(所定の様式) 5部

(3) 論文内容の要旨(所定の様式) 5部

(4) 履歴書(所定の様式) 1部

(5) 共著者の同意書(所定の様式) 4部

(6) 論文目録に記載した論文の別刷又は投稿中の論文原稿の写し及びその掲載決定通知の写し(掲載決定していない場合は、投稿原稿の受付を証明する) 各1部

2 申請書等の提出期限は、次のとおりとする。

(1) 後期提出の場合 12月20日

(2) 前期提出の場合 7月1日

3 前項に定める日が休業日に当たるときは、休業日の前日を提出期限とする。

(学位論文の審査申請の通知)

第19条 研究科長は、前条の申請書を受理したときは、主指導教員にその旨を通知し、研究科委員会に学位論文審査を付託するものとする。

(学位論文の審査委員の選出)

第20条 研究科長は、研究科委員会に学位規程第21条に規定する課程博士論文に係る審査委員(以下「課程博士論文審査委員」という。)の選出を付託する。

2 研究科委員会は、提出された学位論文の課程博士論文審査委員として、博士後期課程担当

教員3人以上を選出するものとする。ただし、選出された課程博士論文審査委員が、やむを得ない事由により論文審査を行うことができなくなったときは、研究科委員会の議を経て、新たに課程博士論文審査委員を選出することができる。

3 前項の場合において、論文審査のため必要があるときは、他教員等を加えることができる。

4 研究科委員会は、課程博士論文審査委員の中に他教員等を加えるときは、その者の資格審査を行うものとする。

(審査委員主査の指名)

第21条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、課程博士論文審査委員のうちから主査を指名する。なお、指名された主査が、やむを得ない事由により論文審査を行うことが出来なくなったときは、改めて主査を指名する。

(学位論文公聴会)

第22条 課程博士論文審査委員の主査は、専攻長の承認の基に、提出された学位論文について学位論文公聴会を開催し、その司会者となる。

2 申請者は、学位論文公聴会で論文の発表を行わなければならない。

3 主査は、学位論文公聴会の開催日等を申請者に通知するとともに、原則として開催日の1週間前までに、全専攻及び関係者に掲示又は書面をもって開催を公示するものとする。

4 学位論文公聴会の結果は、学位論文の審査に反映させるものとする。

(学位論文の審査及び最終審査)

第23条 課程博士論文審査委員は、学位論文の審査及び最終試験を行う。

2 最終試験は、学位論文を中心とし、これに関連のある科目について口頭又は筆答により行う。

3 課程博士論文審査委員は、学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、最終試験を行わないものとする。

4 学位論文の審査及び最終試験の結果は、合格又は不合格の評語をもって表す。

(学位論文の審査及び最終試験の結果の報告)

第24条 学位論文の審査及び最終試験が終了したときは、課程博士論文審査委員の主査は、学位論文の審査及び最終試験の結果の要旨(所定の様式)を研究科委員会に報告しなければならない。

(審査期間)

第25条 課程修了による博士の学位論文の審査は、当該学生の在学する期間内に終了するものとする。

(学位授与に係る修了要件の確認)

第26条 研究科委員会は、第24条の報告に基づき、大学院規則第20条に定める修了要件を満たしているかを確認する。

2 研究科委員会は、学位規程第24条の規定に基づき、博士の学位を授与すべきか否かについて、研究科長に対し修了要件に基づいて意見を述べるものとする。

第4章 論文提出による博士の学位

(学位論文の審査申請)

第27条 申請者は、本学の博士後期課程担当教員の紹介により、申請書に次に掲げる論文等を添えて、研究科長を経て学長に提出しなければならない。

(1) 学位論文(和文又は英文)

全文の電子データ

このほかに審査に必要な部数

(2) 論文目録(所定の様式)

5部

(3) 論文内容の要旨(所定の様式)

5部

(4) 履歴書(所定の様式)

1部

(5) 共著者の同意書(所定の様式)

5部

(6) 学位論文審査手数料

57,000円

- 2 申請は、随時行うことができるものとする。

(論文の内容)

第28条 学位論文の内容は、印刷公表されたもの又は印刷公表予定の確実なものでなければならない。

- 2 提出した学位論文は、本学の博士課程修了予定者が提出する学位論文と同等以上のものであることが必要である。

(論文審査委員の選出)

第29条 研究科委員会は、提出された学位論文について、学位規程第31条に規定する論文博士学位論文に係る審査委員(以下「論文審査委員」という。)として、博士後期課程担当教員3人以上を選出するものとする。ただし、選出された論文審査委員が、やむを得ない事由により論文審査を行うことができなくなったときは、研究科委員会の議を経て、新たに論文審査委員を選出することができる。

- 2 前項の場合において、学位論文の審査のため必要があるときは、他教員等を加えることができる。

- 3 研究科委員会は、論文審査員の中に他教員等を加えるときは、その者の資格審査を行うものとする。

(審査委員主査の指名)

第30条 研究科長は、研究科委員会の議を経て、論文審査委員のうちから主査を指名する。なお、指名された主査がやむを得ない事由により論文審査を行うことが出来なくなったときは、改めて主査を指名する。

(学位論文公聴会)

第31条 論文審査委員の主査は、提出された学位論文について学位論文公聴会を開催し、その司会者となる。

- 2 申請者は、学位論文公聴会で論文の発表を行わなければならない。

- 3 主査は、学位論文公聴会の開催日等を申請者に通知するとともに、原則として開催日の1週間前までに、全専攻及び関係者に掲示又は書面をもって開催を公示するものとする。

- 4 学位論文公聴会の結果は、学位論文の審査に反映させるものとする。

(学位論文の審査及び学力の確認)

第32条 論文審査委員は、学位論文の審査及び学力の確認を行う。

- 2 学力の確認は、博士論文に関連のある専攻分野の科目及び外国語科目について、口頭又は筆答で行うものとする。

- 3 前項の規定にかかわらず、学力の確認は、論文審査委員が特別の事由があると認めるときは、研究科委員会の承認を得て、博士論文に関連のある専攻分野の科目のみについて行うことができる。

- 4 論文審査委員は、学位論文の審査の結果、不合格と判定したときは、学力の確認を行わないものとする。

- 5 学位論文の審査及び学力の確認の結果は、合格又は不合格の評語をもって表す。

(学力の確認の特例)

第33条 第27条の規定により学位の授与を申請した者が、本学大学院博士後期課程に3年以上在学し所定の単位を修得した者である場合には、学位規則第33条の規定により、前条の学力の確認を免除することができる。

(学位審査の特例)

第34条 本学の博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、退学した者(以下「単位修得退学者」という。)が退学時より3年以内に学位論文を提出した場合には、課程博士の学位論文審査と同様の審査を行う。

- 2 単位修得退学者が退学時より1年以内に学位論文を提出するときは、論文審査手数料を納付することを要しない。

(学位論文の審査及び学力の確認の結果報告)

第35条 学位論文の審査及び学力の確認が終了したときは、論文審査委員の主査は、学位論文の審査及び学力確認の結果の要旨(所定の様式)を研究科委員会に報告しなければならない。
(審査期間)

第36条 論文提出による博士の学位論文の審査は、申請書を受理した日から1年以内に終了するものとする。

(学位授与に係る要件の確認)

第37条 研究科委員会は、第35条の報告に基づき、報告された学位論文の審査及び学力の確認の結果(以下「報告結果」という。)を確認する。

2 研究科委員会は、学位規程第36条の規定に基づき、博士の学位を授与すべきか否かについて、研究科長に対し報告結果に基づいて意見を述べるものとする。

第5章 雑則

(その他の事項)

第38条 その他必要な事項は、研究科委員会の議を経て、研究科長が定める。

附 則

この細則は、平成28年8月30日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則(令和元年9月10日)

この細則は、令和元年10月1日から施行する。

附 則(令和3年3月5日)

1 この細則は、令和3年4月1日から施行する。

2 改正後の山形大学大学院有機材料システム研究科学位審査細則の規定は、令和3年度入学者から適用し、令和2年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則(令和3年7月21日)

この細則は、令和3年7月21日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附 則(令和3年8月30日)

この細則は、令和3年8月30日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

6. 山形大学外国人留学生規程

昭和63年2月16日
全部改正

山形大学外国人学生規則(昭和30年12月23日制定)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規程は、山形大学学部規則(以下「学部規則」という。)第43条第2項及び山形大学大学院規則(以下「大学院規則」という。)第28条第2項の規定に基づき、外国人留学生について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において、「外国人留学生」とは、出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)別表第1に定める「留学」の在留資格により、本学において教育を受ける外国人学生をいう。

(区分及び入学資格)

第3条 外国人留学生の区分及び入学資格は、次のとおりとする。

区分	入学資格
学部学生	学部規則第10条に規定するもの
大学院学生 (修士課程及び博士前期課程)	大学院規則第6条に規定するもの
大学院学生 (博士後期課程)	大学院規則第7条に規定するもの
大学院学生 (医学系研究科博士課程)	大学院規則第8条に規定するもの
学部科目等履修生	(1) 学部規則第10条に規定するもの (2) 日本語・日本文化研修コースを受講する者
学部研究生	山形大学研究生規程第4条に規定するもの
学部特別聴講学生	(1) 協定に基づく外国の大学又は短期大学の学生 (2) 日本語・日本文化研修コースを受講する者
大学院科目等履修生	大学院規則第6条、第7条又は第8条に規定するもの
大学院研究生	山形大学研究生規程第9条に規定するもの
大学院特別聴講学生	協定に基づく外国の大学院の学生
特別研究学生	協定に基づく外国の大学院の学生
日本語研修生	日本語研修コースの学生

(入学の時期)

第4条 入学の時期は、原則として学期の始めとする。

(志願方法等)

第5条 入学を志願する者は、次に掲げる書類に検定料を添えて、志願する学部又は研究科の長を経て、学長に願い出なければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身学校の卒業(修了)証明書及び成績証明書
- (4) 健康診断書
- (5) 現に日本に在留している者は、市区町村長が発行する住民票の写し
- (6) その他必要と認める書類

2 国費外国人留学生制度実施要項(昭和29年3月31日文部大臣裁定)に基づく国費外国人留学生及び外国政府派遣留学生については、文部科学省からの協議書類をもって前項各号に掲げる書類に代えることができる。

(入学者の選考)

第6条 入学者の選考は、当該学部又は研究科において行う。

(合格者の決定)

第7条 合格者の決定は、前条に規定する選考に基づき、当該学部教授会又は研究科委員会の意見を聴いた上で、学長が行う。

(入学の手続)

第8条 前条の合格者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

(入学の許可)

第9条 学長は、前条の入学手続を完了した者について、入学を許可する。

2 外国人留学生は、定員の枠外として取り扱うことができる。

(教育課程)

第10条 授業科目、単位数及び履修方法は、各学部、研究科等の定めるところによる。

(卒業、修了等)

第11条 学部学生については、所定の期間以上在学し、所定の単位を修得した者に、当該学部教授会の意見を聴いた上で、学長が卒業を認定し、学位を授与する。

2 大学院学生については、所定の期間以上在学し、所定の単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、当該研究科委員会の議を経て、学長が学位を授与する。

3 学位については、山形大学学位規程の定めるところによる。

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料)

第12条 学部学生、大学院学生、科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び特別研究学生の検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、国立大学法人山形大学における授業料その他の費用に関する規程の定めるところによる。

2 前項の規定にかかわらず、国費外国人留学生制度実施要項(昭和29年3月31日文部大臣裁定)に基づく国費外国人留学生に係る検定料、入学料及び授業料は、徴収しない。

(交流協定に基づく外国人留学生の授業料等)

第13条 本学と諸外国の大学との間において締結された大学間交流協定、部局間交流協定及びこれらに準ずるものに基づき受け入れる外国人留学生については、協定留学生として受け入れる。

2 前項に規定する協定留学生については、検定料、入学料及び授業料を徴収しないことができる。

(その他)

第14条 外国人留学生については、この規程に定めるもののほか、本学の諸規則中、学生に関する規定を準用する。

附 則

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

(省略)

附 則(令和4年1月13日)

この規程は、令和4年1月13日から施行し、令和3年11月10日から適用する。

7. 山形大学大学院特別研究学生交流規程

昭和57年12月10日
改正 平成26年12月1日

目次

- 第1章 総則(第1条・第2条)
- 第2章 特別研究派遣学生(第3条—第7条)
- 第3章 特別研究学生(第8条—第10条)
- 附則

第1章 総則 (趣旨)

第1条 この規程は、山形大学大学院規則(以下「大学院規則」という。)第16条の規定により他の大学院又は研究所等(以下「他大学院等」という。)において研究指導を受ける者(以下「特別研究派遣学生」という。)及び同規則第27条の規定により本大学院において研究指導を受ける者(以下「特別研究学生」という。)の取扱いについて必要な事項を定めるものとする。

(他大学院等との協議)

第2条 大学院規則第16条及び第27条の規定に基づく他大学院等との協議は、研究題目、研究指導期間その他必要な事項について、研究科長が行う。

第2章 特別研究派遣学生 (出願手続)

第3条 特別研究派遣学生として他大学院等の研究指導を受けようとする者は、所定の願書により研究科長に願い出なければならない。

(研究指導の許可)

第4条 前条の願い出があったときは、第2条の規定による協議に基づき、研究科長が研究指導を受けることを許可する。

(研究指導の報告)

第4条の2 前条の規定により研究指導を許可した場合、研究題目、研究指導期間その他必要な事項について、研究科長は学長に報告するものとする。

(研究指導期間)

第5条 特別研究派遣学生が研究指導を受ける期間は、1年以内とする。ただし、大学院博士課程において、やむを得ない事情があると認められる場合は、研究科長が期間の延長を許可することがある。

2 前項ただし書の場合において、許可する期間は1年を超えることができない。

(研究報告)

第6条 特別研究派遣学生は、研究指導が終了したときは、直ちに(外国の他大学院等において研究指導を受けた者にあつては、帰国の日から1月以内)研究科長に研究報告書及び当該他大学院等の長の交付する研究指導の報告書を提出しなければならない。

(研究指導許可の取消し)

第7条 特別研究派遣学生が次の各号の一に該当するときは、研究科長が研究指導の許可を取り消すことがある。

- (1) 山形大学(以下「本学」という。)又は他大学院等の諸規則に違反したとき。
- (2) 派遣の趣旨に反する行為が認められるとき。

第3章 特別研究学生 (受入れの許可)

第8条 他の大学院から特別研究学生の受入れについて依頼があったときは、第2条の規定による協議に基づき、研究科長が受入れを許可する。

2 前項の依頼に当たっては、研究科で定める書類を提出しなければならない。

3 第1項の規定による特別研究学生の受入れを許可した場合、研究科長は学長に報告するものとする。
(研究指導の報告書)

第9条 特別研究学生に対する研究指導が終了したときは、研究科長が研究指導の報告書を交付するものとする。

(規定の準用)

第10条 第5条及び第7条の規定は、特別研究学生に準用する。

2 特別研究学生には、本学の諸規則中、学生に関する規定を準用する。

附 則

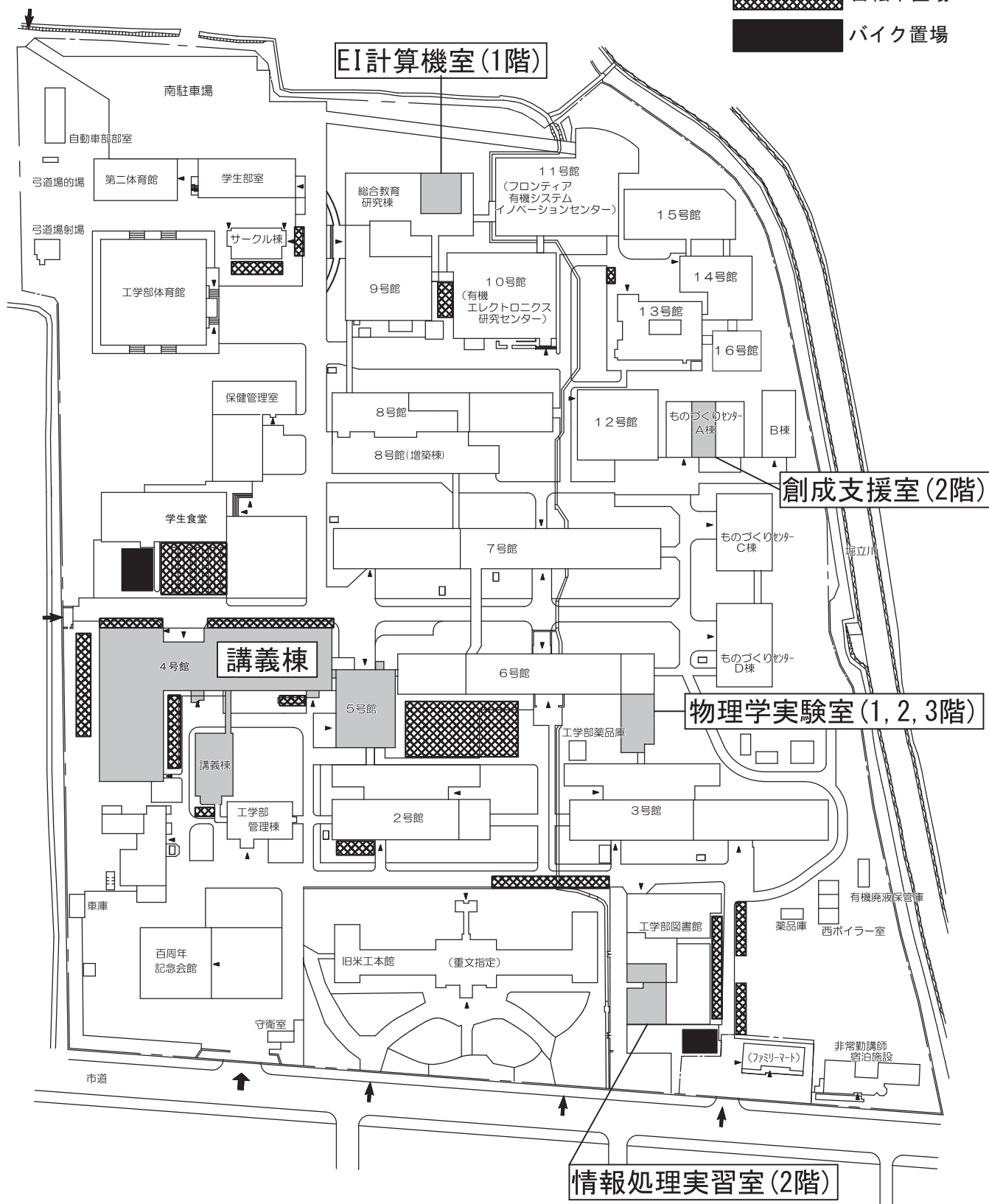
この規則は、昭和57年12月10日から施行し、昭和57年10月1日から適用する。

(省略)

附 則(平成26年12月1日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

山形大学工学部建物配置図



令和 7 年 4 月 1 日

発 行 山形大学大学院有機材料システム研究科

〒992-8510 米沢市城南四丁目 3 - 1 6

電話 (ダイヤル) 0238-26-3015